

久保田

— 新潟県柏崎市 久保田遺跡発掘調査報告書 —

2017

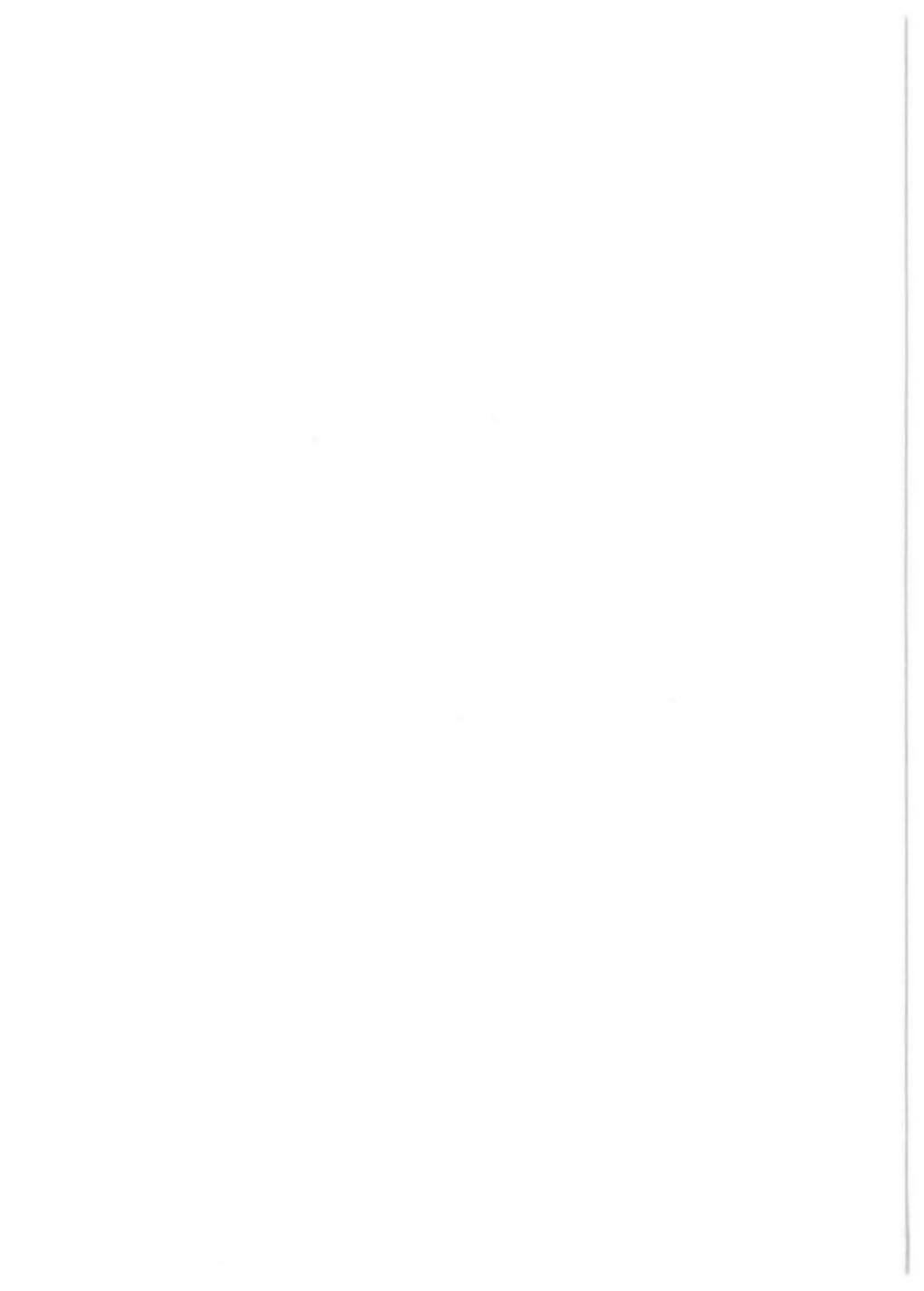
柏崎市教育委員会

久保田

— 新潟県柏崎市 久保田遺跡発掘調査報告書 —

2017

柏崎市教育委員会



序

久保田遺跡は、縄文土器や石器が採集されることで古くから知られてきた遺跡です。ここで、市道柏崎 18-137 号線道路改良舗装工事が行われるということで、柏崎市教育委員会は平成 26 年度に久保田遺跡の発掘調査を行いました。本書は、その調査成果を報告するものです。

発掘調査の結果、縄文時代の土器や石器が大量に出土したほか、鎌倉時代から室町時代の土器や陶磁器も多量に出土し、多くの遺構が見つかりました。調査範囲が狭いため、集落の全容を明らかにすることはできませんでしたが、先人たちがこの地で営んできた暮らし、地域の歴史の一端を垣間見ることができました。

本書が、皆様に活用いただき、地域の歴史を理解するための一助となるとともに、文化財に対する理解と認識を深める契機としていただければ幸いです。

最後になりましたが、このたびの発掘調査が無事に終了できたことは、ひとえに地域の皆様のご理解とご協力の賜であります。また、ご指導くださった新潟県教育委員会、発掘調査に参加された皆様に対し、深く感謝と御礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月

柏崎市教育委員会

教育長 本間 敏博

例　　言

1. 本報告書は、新潟県柏崎市大字山室字久保田・清水尻に所在する久保田遺跡で行われた発掘調査の記録である。
2. 本調査事業は、柏崎市（担当：都市整備部都市整備課）を事業主体とする市道柏崎18-137号線道路改良舗装工事に伴う事前調査であり、柏崎市教育委員会が調査主体となって発掘調査を実施したものである。
3. 発掘調査における現場業務は平成26年7月30日から平成26年10月24日までである。整理業務は、現場業務終了後から本格的に着手し、平成29年3月まで報告書を作成した。
4. 発掘調査の現場業務及び整理業務は、柏崎市が藤村ヒューム管株式会社本社営業部柏崎営業所に業務委託して実施した。
5. 出土した遺物には、遺跡名の略号として「クボタ」と註記し、遺構名・グリッド及び順序等を併記した。
6. 本報告書は第1章を中島が、他は全て継が執筆した。
7. 本事業で出土した遺物並びに調査や整理業務の過程で作成した図面・記録類は、すべて一括して柏崎市教育委員会（埋蔵文化財事務所）が保管・管理している。
8. 本書掲載の図面類の方位は全て真北である。
9. 発掘調査の準備段階から本書作成に至るまで、事業主体者をはじめとする関係者等から様々な御協力と御理解を賜った。記して厚く御礼を申し上げる次第である。

山室町内会・新潟県教育委員会（順不同・敬称略）

調査体制

調査主体者	柏崎市教育委員会 教育長 大倉政洋（平成27年10月まで）
	木間敏博（平成27年10月から）
所　　管	柏崎市教育委員会 博物館
總　　括	柏崎市教育委員会 博物館長 力石宗一（平成28年3月まで）
	田村光一（平成28年4月から）
管　　理	博物館長代理（兼埋蔵文化財係長） 小池繁生（平成28年3月まで）
	多田利行（平成28年4月から）
庶　　務	博物館埋蔵文化財係非常勤職員 重住知夏
調査担当	博物館埋蔵文化財係 主査 中島義人
現場代理人	藤村ヒューム管株式会社本社営業部柏崎営業所 本田 隆
調査担当	藤村ヒューム管株式会社本社営業部柏崎営業所 繼 実
調査員	藤村ヒューム管株式会社本社営業部柏崎営業所 岡本郁栄

目 次

I 序 説	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 本発掘調査	1
II 遺跡の位置と環境	2
1. 遺跡周辺の地形	2
2. 歴史的環境	3
a. 中世／3	b. 繩文時代／3
3. 周辺の遺跡	3
III 調査概要	6
1. 調査の目的と調査区の設定	6
2. 基本層序	6
3. 現地調査の経過	6
a. 表土掘削と遺構確認／6	b. 遺構発掘／8
c. 写真撮影／8	
4. 整理業務の方法	8
a. 基礎整理／8	b. 報告書の作成／9
IV 遺構	10
1. 中世の遺構	10
a. 沢状部分（2・3 D E グリッド）／10	
b. 平坦面（2 C D、F グリッド以南）／11	
2. 繩文時代	17
V 遺物	21
1. 中世の遺物	21
a. 土器・陶磁器類／21	b. 木製品／22
c. 金属製品／22	d. 銭貨／22
e. 砥石／22	
2. 繩文時代の遺物	23
a. 繩文土器／23	b. 石器／23
VI 調査所見	25
1. 中世	25
a. 遺構の概観／25	b. 掘立柱建物の構成と変遷について／25
c. 出土遺物／27	
2. 繩文時代	27
a. 遺構の概観／27	b. 遺物の概観／28
3. まとめ	29
〈引用・参考文献〉	30
〈附表〉	31
〈報告書抄録〉	卷末

挿図目次

第1図	久保田遺跡の位置と地形分類	2
第2図	周辺の遺跡	4
第3図	グリッド設定図	7
第4図	基本層序柱状図	8
第5図	遺構形態分類図	10
第6図	掘立柱建物変遷図	26

表目次

表1	遺構形態分類表	10
表2	中世遺構変遷表	28
表3	縄文遺構変遷表	28

図版目次

図版1	久保田遺跡 位置図	図版32	出土遺物 6 縄文時代 1 土器 1
図版2	調査区全体図（中世）	図版33	出土遺物 7 縄文時代 2 土器 2
図版3	調査区全体図（縄文時代）	図版34	出土遺物 8 縄文時代 3 土器 3
図版4	調査区分割図（分割1/4）	図版35	出土遺物 9 縄文時代 4 土器 4
図版5	調査区分割図（分割1/4 地山上）	図版36	出土遺物 10 縄文時代 5 土器 5
図版6	調査区全体図（分割2/4）	図版37	出土遺物 11 縄文時代 6 石器 1
図版7	調査区全体図（分割3/4）	図版38	出土遺物 12 縄文時代 7 石器 2
図版8	調査区全体図（分割4/4）	図版39	空中写真 1
図版9	遺構個別図1 建物1	図版40	空中写真 2
図版10	遺構個別図2 建物2	図版41	完掘・基本土層
図版11	遺構個別図3 建物3	図版42	土坑1
図版12	遺構個別図4 建物4	図版43	土坑2
図版13	遺構個別図5 建物5	図版44	土坑3・井戸1
図版14	遺構個別図6 建物6	図版45	井戸2
図版15	遺構個別図7 建物7	図版46	井戸3
図版16	遺構個別図8 建物8	図版47	井戸4・溝1
図版17	遺構個別図9 ピット列	図版48	溝2
図版18	遺構個別図10 土坑1	図版49	ピット・柱穴
図版19	遺構個別図11 土坑2・不整形土坑	図版50	縄文時代遺構1
図版20	遺構個別図12 井戸1	図版51	縄文時代遺構2
図版21	遺構個別図13 井戸2	図版52	縄文時代遺構3
図版22	遺構個別図14 井戸3・ピット1	図版53	中世出土遺物1
図版23	遺構個別図15 ピット2	図版54	中世出土遺物2
図版24	遺構個別図16 溝	図版55	中世出土遺物3
図版25	遺構個別図17 縄文時代の遺構1	図版56	中世出土遺物4
図版26	遺構個別図18 縄文時代の遺構2	図版57	漆器・木製品
図版27	出土遺物1 中世1 土器1	図版58	縄文土器1
図版28	出土遺物2 中世2 土器2	図版59	縄文土器2
図版29	出土遺物3 中世3 土器3	図版60	縄文土器3
図版30	出土遺物4 中世4 木製品	図版61	石器
図版31	出土遺物5 中世5・金属製品・石製品		

I 序 説

1. 調査に至る経緯

久保田遺跡は柏崎市大字山室字久保田地内に所在する。鰐石川中流域の右岸、八石山の尾根先端部の段丘平坦面に立地し、現在の鰐石川までは 100 m 程度離れている。遺跡は古くから知られており、耕作により縄文土器等が地表に散布したもののが多数採集されていた。

ここで、市道柏崎 18-137 号線道路改良舗装工事が計画されていた。事業計画自体は約 20 年前からあったものだが、工事計画が具体化したのは平成 24 年度からである。事業を担当する柏崎市都市整備部都市整備課とは、平成 24 年 9 月に遺跡の取り扱いの協議を行った。計画法線は久保田遺跡を横断するとともに、田島神社遺跡にも隣接していた。ただし、事業予定地と田島神社遺跡とは地形的な連続性は認められなかった。そのため、久保田遺跡の内容や範囲を把握するための確認調査を行い、取扱いの協議資料とすることとした。平成 25 年 11 月 5 日付け教総第 560 号で文化財保護法第 99 条の報告を行い、同日から 2 日間で確認調査を行った。13 ヶ所のトレンチを設定して調査をし、遺跡範囲内で土坑やピット、溝などを検出し、縄文土器、中世土師器、石器が出土した。

この調査で、久保田遺跡が比較的良好な状態で残されていることが明らかとなり、事業実施に当たっては法線変更も困難なことから、記録保存のための発掘調査を行うことになった。なお、柏崎市長は、平成 25 年 9 月 12 日付で文化財保護法第 94 条に係る通知を新潟県教育長へ提出した。

2. 本発掘調査

本発掘調査は平成 26 年度に行うこととなった。調査は民間の調査専門会社に委託して実施することとし、委託契約に係る事務を進めた。指名競争入札により受託者を決定し、平成 26 年 7 月 7 日に委託契約を締結した。平成 26 年 7 月 15 日付け博第 546 号で文化財保護法第 99 条に基づく埋蔵文化財発掘調査に着手する報告を新潟県教育長へ行った。現場作業の完了は同年 10 月 24 日で、同年 11 月 13 日付け博第 601 号で終了報告を新潟県教育長へ行った。同年度は基礎整理作業を引き続き委託業務で行った。

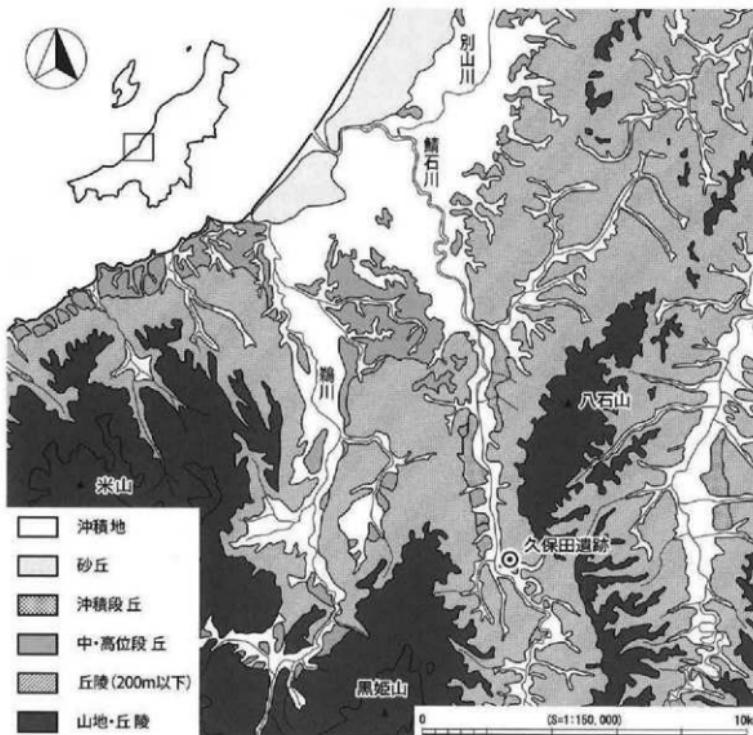
平成 27 年度は、原稿の執筆と図面図版の作成を業務委託で行った。平成 28 年度は市教委の職員が写真図版の作成等を行い、発掘調査報告書を刊行した。

II 遺跡の位置と環境

1. 遺跡周辺の地形（第1図）

柏崎市は南北に長い新潟県の中央に位置し、行政的な地域区分では中越地方に属する。現在の柏崎市は東西27km、南北40km、面積442km²の市域を持ち、日本海に面した平野部を中心栄えている。地勢的には、市域の南側を占める東頸城丘陵の山塊によって臨海沖積平野である柏崎平野が取り囲まれ、北の越後平野、南の頸城平野から隔された独立平野を形成する。

鶴川と共に柏崎平野を縱断する鶴石川は、東頸城丘陵山中の旧東頸城郡松代町に源を発する総延長約36kmの河川である。上流域は西の黒姫丘陵と東の八石丘陵に挟まれた狭小な谷底を開削しながら北北東に向かって流下し、一旦、大きく蛇行した後、北に流路を変え中流域へと至る。現在の中流域は直線的で比較的穏やかな流れとなっているが、沿岸の水田では、東西に蛇行し累れ川であったかつての痕跡を植生や土壤の違いといったかたちで垣間見ることができる。この辺りでは急峻な山塊は姿を消し、河川の両岸には段丘面が発達する。本遺跡は、鶴石川が中



第1図 久保田遺跡の位置と地形分類

流域に向かって北西から北へと大きく流れを変える部分の内側（東岸）に形成された段丘上に立地する。

本遺跡が立地する沖積段丘は八石山を背に鯖石川に向かって舌状に張り出した標高約46mの段丘面で、周囲の低地部とは10mほどの比高をもつ。面積は約6,000m²（100×60m）と狭く、地形図をみると河川の浸食により田島集落のある段丘面と分断された可能性が窺える。

2. 歴史的環境

a. 中世

中世における鯖石川流域は、越後毛利氏の支配地域であった。鯖石川と長島川が合流する南条地区は広く安定した沖積段丘面が形成され、中世には佐橋荘の中心地として栄えた。この地区には中世遺跡が濃密に分布するが、中でも馬場・天神腰遺跡は溝と道路によって区画された12世紀から16世紀に及ぶ集落で、両側溝を持つ道路や区画整備など、都市的な性格の集落とされる〔品田1997〕。佐橋荘は皇室領で、白河院政期（1086～1129年）の成立と考えられている〔村山1990〕。中世に入ると、莊園の経営は朝廷と幕府の二元的支配の元に行われるようになり、佐橋荘には毛利氏が地頭として着任する。毛利氏は、鎌倉幕府創立期の別当である大江広元が源頼朝から相模国愛甲郡毛利庄の地頭職を拝領したことにより始まり、毛利姓を名乗ったのは広元の子季光からとされる〔村山前掲〕。毛利氏はその後、この地を拠点として越後毛利氏として土着化し、佐橋荘は一族によって分割支配されるようになる。柏崎市史では、文献資料にみえるカンナウ条（柏崎市加納付近）を新開地と位置づけ、佐橋荘の南限に推測している。1374（応安7）年4月27日の「安田道幸譲状」は、毛利道幸が佐橋荘を嫡子元豊に譲ったことを伝えているが、その元豊の子孫に石曾根殿という名が見える。石曾根殿は本遺跡の近隣にある「石曾根」字名の由来と考えられ、14世紀の後半頃には佐橋荘の開発が遺跡付近にも及び、石曾根氏の本拠となっていたことが推測できる。

一方、遺跡地一帯は交通の面でも要衝であった。当時の複数文献には、安田一山室一三桶（刈羽郡小国町現長岡市）～関東方面という道筋がみえ、柏崎平野から鯖石川沿いに南下し、本遺跡のある山室から峠を越えて三桶に向かっていたことがわかる。

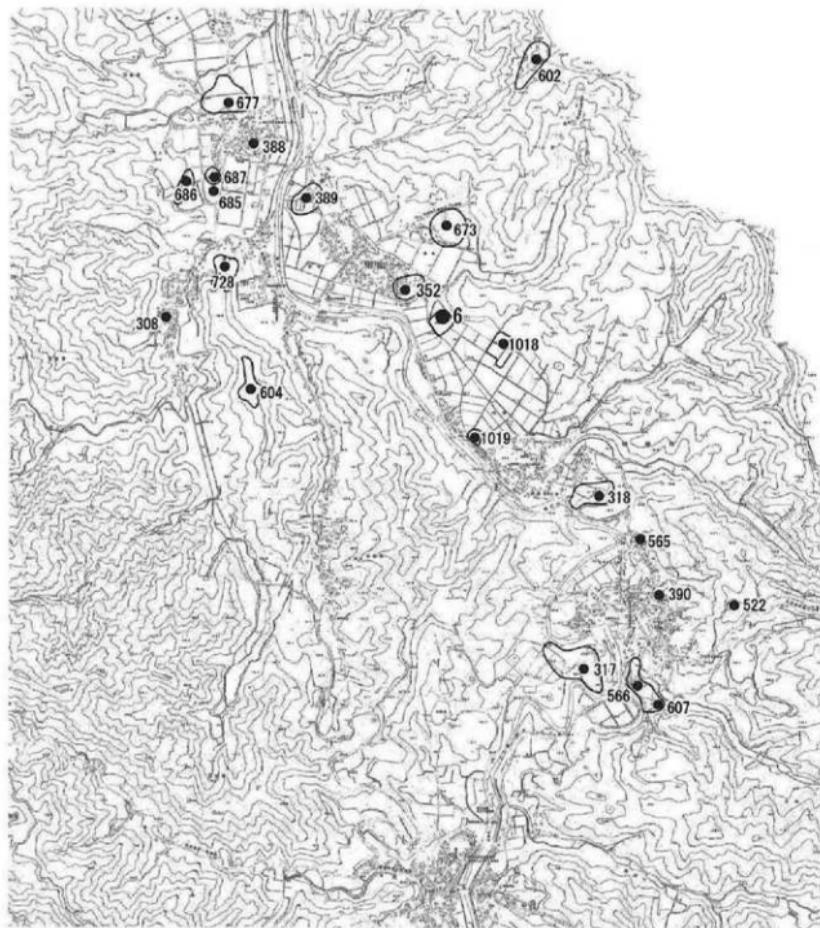
b. 縄文時代

久保田遺跡は縄文時代後期三十稻場式土器を伴う集落として既知の遺跡である。柏崎市史資料集 考古篇〔柏崎市史編さん委員会1987〕には久保田遺跡で採集された遺物についての報告があり、それによると後期前葉の三十稻場・南三十稻場式などを主体に、後期中葉の三仏生式土器群の出土が報告されている。石器の組成は同じで、石鍤の出土例が卓越するという点も変わらない。鯖石川流域にはほかにも数多く縄文時代の遺跡が分布するが、本格的な発掘調査例はなく、遺跡の時期や性格については不明である。

3. 周辺の遺跡（第2図）

鯖石川流域に形成された河岸段丘面を主体として、現在、久保田遺跡の周辺には数多くの遺跡が分布している。本格的な発掘調査が行われていない遺跡が多く実体が不明なものが多いため、生業のあり方や、中世以降は政治的な動向も反映したような遺跡分布となっている。今のところ、発見されている遺跡の時代は縄文時代・古代・中世・近世で、弥生時代や旧石器時代の遺跡は未発見である。水田耕作が弥生集落の出現に大きく関わっていると思われるが、当時は鯖石川流域に可耕地を確保できる水準になかったか、柏崎平野で十分に集落の経営が賄えたことが遺跡が存在しない理由と考えられる。旧石器時代の遺跡については、立地となる山間部の情報が少なく、今後発見される可能性は十分にあろう。

古代に入ると、鯖石川流域にも積極的に活動痕跡が窺えるようになり、宮田遺跡（686）では9世紀後葉～10世紀初頭、深町遺跡（677）では10世紀前葉を主体とする集落が検出されている〔柏崎市教委2001〕。中世に入ると、前述のように佐橋荘の成立と毛利氏の地頭職着任などで南条を中心に活発な活動が行われるようになる。この時期の



No.	遺跡名	時代	種別	No.	遺跡名	時代	種別
602	田島城跡	不明	城郭跡	308	石曾根古墳出土地	不明	古墳出土地
677	瀬町	圓文・平安・南北朝	遺物包含地	1018	山室瀬木尻	古代(平安)・中世	遺物包含地
388	堂竹	室町	遺物包含地	604	石曾根城跡	南北朝	城郭跡
687	片瀬	不明	遺物包含地	1019	山室瀬町	古代(平安)	遺物包含地
686	宮田	古代	遺物包含地	318	長者ヶ原	圓文	遺物包含地
685	中村	圓文・古代	遺物包含地	565	瀬の神坂の五輪塔	安土桃山・江戸	石塔
389	山室瀬谷	中世	遺物包含地	390	大伏原	中世	遺物包含地
673	北村	宿町～安土桃山	遺物包含地	522	那賀塚	不明	塚
728	上開根	圓文	遺物包含地	317	中山	圓文	遺物包含地
352	久保田田島神社	平安	遺物包含地	566	薬師堂の宝篋印塔	室町～江戸	石塔
6	久保田	圓文	遺物包含地	607	大伏城跡	戰国	城郭跡

第2図 周辺の遺跡

遺跡は鯖石川流域に広く分布し、山間部には山城が築かれるようになる（602・604・607）。本遺跡より南側の鯖石川上流域は急峻な山地が迫り、広い段丘面はみられなくなる。縄文時代の遺跡や中世の山城は確認できるものの、今のところ本遺跡以南に古代や中世の集落は発見されていない。

III 調査概要

1. 調査の目的と調査区の設定

今回の調査は久保田遺跡を縦断する市道柏崎 18-137 号線の改良工事に伴うものである。工事範囲を対象に遺跡内容確認調査が事前に行われ、縄文時代の遺構や遺物が発見された範囲約 700m²を対象に本格的な発掘調査が計画されることとなった。

調査にあたっては、検出遺構や出土遺物の位置的情報把握の利便性を考え、世界測地系座標に合わせて 10 m 方眼でグリッド（大グリッド）を設定し、更に出土遺物の詳細な位置情報の把握のため、大グリッドを 2 m 方眼で 25 分割した小グリッドも設定した。グリッドは北西の角を基点とし、グリッド名については、南北方向にアルファベット（A～J）、東西方向に算用数字（1～6）を当てた。また、小グリッドについては算用数字を用い、北西隅から南東隅に向かって西から東、北から南へと 1～25 の番号を割り当てた。グリッドの表記はこれらを組合せ、「1 A 1・1 A 25」などと表した。グリッド杭の打設はタナカ設計が行い、図面の作成や遺物の取り上げに必要な標高杭（標高 45.80 m）もあわせて設置した。

2. 基本層序

基本土層は主に調査区西壁で観察し、柱状図を作成した（第 4 図）。土層の分層にあたっては、確認調査の成果を基に 5 層に分層した。

I a 層：黒褐色土（10YR3/1）。しまり弱、粘性やや弱。現代の耕作土。

I b 層：灰黄褐色土（10YR4/2）。しまり弱、粘性やや弱。現代の耕作土。土色は I a 層より明るい。

II a 層：暗褐色土（10YR3/2）。しまり、粘性共やや弱。近現代の耕作土。耕作により擾乱された III～V 層をブロック状に含む部分がある。

II b 層：II a 層と比べ、径 3～5cm の V 層ブロックを多量含む。

III 層：黒褐色土（10YR2/3）。しまり、粘性共やや弱。古代～中世の堆積土。粒状の V 層・砂、小礫などを少量含む。中世遺物包含層。

IV 層：にぶい黄褐色土（10YR6/4）。しまりやや強、粘性強。部分的に堆積または残存する土層。V 層との境は不明瞭である。縄文遺物包含層。中世遺構確認面。

V 層：明黄褐色土（10YR6/6）。しまり、粘性共強。粒状の灰白色粘土・酸化物質などを少量含む。縄文時代・中世遺構確認面。

これらの土層がすべて確認できるのは D・E グリッド、すなわち沢状部分のみであり、そのほかの部分は遺構確認面である IV・V 層上に直接 I・II 層が堆積する。I・II 層中には縄文土器を主体とする遺物が多量に含まれており、耕作によって失われた遺構や遺物が数多く存在するものとみられる。

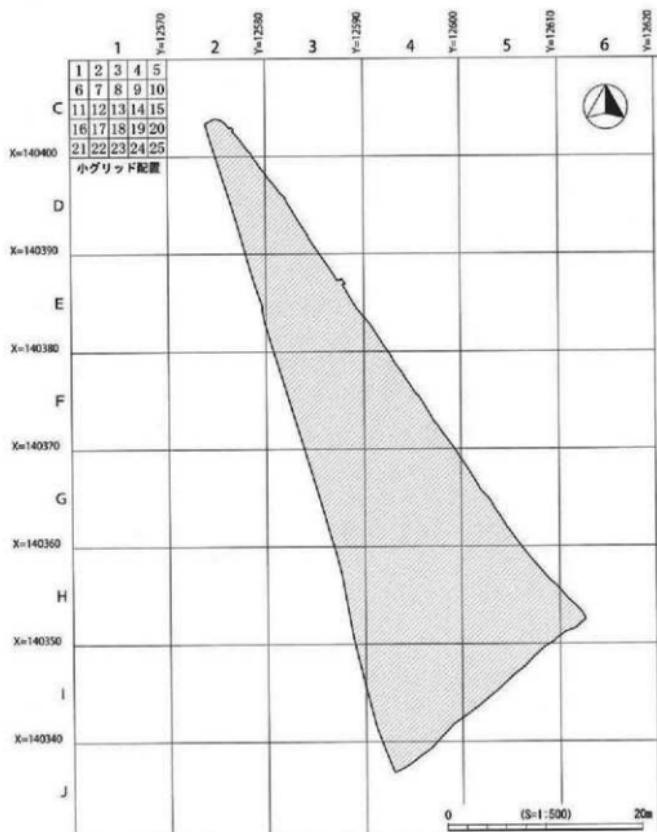
3. 現地調査の経過

a. 表土掘削と遺構確認

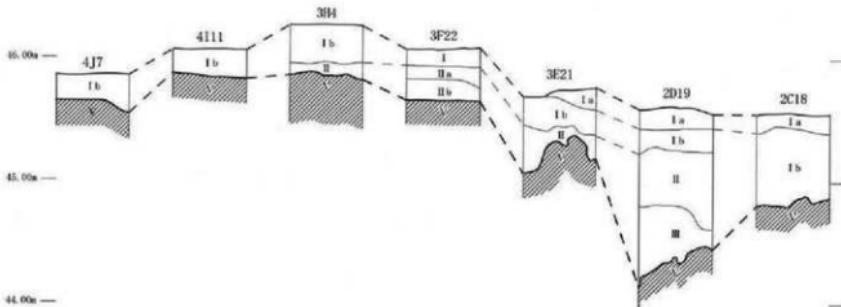
表土掘削から遺構確認に至る作業は、以下に述べる行程で行った。すなわち、調査区には 20～60cm ほどの厚みで近現代耕作土や盛土が堆積しており、これら調査対象外の堆積土は作業の合理化を図るためにパケット容量 0.45 m³の重機（バック・ホー）を用いて掘削し、6 トン積キャタピラー式運搬車（クローラーダンプ）で調査区南側に設

定した排土置き場に搬出した。掘削は調査員指示の下に行い、遺物が出土した場合はおおよその出土位置を記録し適時取り上げた。調査区壁のうち、県道に面した東壁は土砂の流出や崩落を防ぐために十分な勾配で法面とした上で、養生のために壁面全面をブルーシートで覆い土嚢やアンカーピンで固定した。表土掘削に使用した機械類はすべて作業終了に伴い搬出し、代わりにパケット容量0.25m³のバック・ホーを新たに搬入した。これを排土置き場に常駐させ、遺構調査時に発生する排土の整形に用いた。

遺構確認作業にあたっては、まず排土運搬用に7mのベルト・コンベア6台を設置し、調査区北端から南に向かって作業を開始した。作業はジョレンやデルタ・ホーなどを用い、作業で発生した排土は手みや一輪車などでベルトコンベアに流した。検出した遺構には水で溶いた石灰で白線を引き、風雨による確認面の汚れで遺構の検出位置や形がわからなくなるのを防いだ。また、確認作業が終了した部分から順に遺構分布図(略測)や検出状況の写真撮影なども行い、遺構の位置を記録した。遺構確認面上では遺構のほかに近・現代の耕作痕跡も数多く検出した。これらの覆土中にも遺物が多く含まれることや、耕作痕の下から遺構が検出される可能性も考慮して、これらもすべて掘り上げることとした。



第3図 グリッド設定図



第4図 基本層序柱状図

b. 遺構発掘

検出した遺構はピット397基・土坑31基・井戸13基・溝9条など合計455基である。これに加え、整理作業段階で建物20棟・柵列5組を復元した。遺構の発掘については、まず半裁して覆土の状況を観察し、図面・写真に記録した後全掘した。半裁方向は基本的に長軸方向としたが、遺構が重複する場合は重複状況を最も有効に記録できる方向とした。井戸には安全上、井戸底まで人力で掘削が行えないものが複数存在したが、これらについては人力掘削が可能な深さまで調査を行った後、全景写真的撮影や遺構測量の終了を待って重機で井戸底まで掘削して図面・写真を記録した。

遺構図面については、断面や遺物の出土状況は調査員の指示の下、作業員が手実測で記録し、平面や断面図計測ポイントなどの測量はトータルステーションを使用し、調査員の指示の下、グリッド設定と同じくタナカ設計が行った。

c. 写真撮影

現場業務においては、調査員による三脚撮影と、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行った。遺構の断面や完掘状況、遺物の出土状況など通常の記録写真については前者の方法で撮影し、遺構検出状況や沢状部分の完掘状況といった近接照歟写真は調査員が高さ3mの脚立上から手持ちで撮影した。また、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影は、遺構完掘時の全景写真撮影時に実施した。調査員による撮影には、カラーリバーサル35mmフィルム（フジカラー PROVIA 100F）、白黒35mmフィルム（フジカラー NEOPAN ACROS100）に加え、デジタル一眼レフカメラ（NIKON D7000 1,690万画素）も用いた。また、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影では、カラーリバーサル6×6cm判フィルム（フジカラー PROVIA 400X）白黒6×6cm判フィルム（KODAK 400TX）、デジタル一眼レフカメラ（Canon EOS Kiss X3 1,510万画素）などを用いた。なお、空中写真撮影にあたっては調査員の指示の下、J・T空撮を行い、調査区直上・遺跡近景などのカットを撮影した。

4. 整理業務の方法

a. 基礎整理

具体的な作業としては、出土遺物の洗浄・注記・接合、図面の整理と校正、写真整理、遺構観察表、各種台帳類の作成などを行った。作業は現場業務中から開始し、荒天時など外作業ができない時に作業を進めた。遺物の注記にあたっては、遺跡名を「クボタ」と表記し、遺構やグリッド、層位といった位置情報を続けて記入した。図面や写真是番号・撮影タイトルなどを付けてケースやアルバムに収納し、あわせて台帳を作成した。また、発掘調査の概要報告書を作成し業務終了時に提出した。

b. 報告書の作成

報告書作成作業の一環として、遺構断面図デジタル・トレース、遺物実測・トレース、遺構・遺物図面図版作成、遺構・遺物観察表作成、原稿執筆、挿図作成などの作業が平成27年度に埋文第102号久保田遺跡報告書作成業務委託として柏崎市教育委員会から作業が発注された。藤村ヒューム管がこれを受託し、同社埋蔵文化財調査部作業所内で作業を行った。なお、柏崎市教育委員会が第1章の原稿執筆、写真図版の作成などの作業を行った。

IV 遺構

検出遺構の時期は中世（鎌倉～室町時代）と縄文時代（中～後期）で、合計 455 基を検出した。遺構の大半は中世のピットで、縄文時代のものは土坑を中心に 21 基を検出したに過ぎない。これらは F グリッド以南の平坦面に濃密に分布し、調査区を縱断する溝（SD-18・19）に方向を合わせた掘立柱建物群 20 棟・ピット列 5 列などを復元した。また、確認調査で遺構や遺物が検出されず、埋没した沢と考えられていた 2D・3E グリッド付近は 40～60cm と厚く堆積するⅡ層の下から中世の遺物包含層（Ⅲ層）を確認し、更にⅢ層下から版築地業面を伴う中世の溝やピットなどを検出した。以下、検出した遺構を時代別に詳述するが、中世については沢状部分とそれ以外の平坦地に分けて説明する。遺構の平面形・断面形については、和泉 A 遺跡 [荒川ほか 1999] の分類に準拠して記載した（第 5 図・第 1 表）。なお、遺構番号については、調査後の遺構種や所屬時期の変更による混乱や番号の重複を防ぐため、所産時期や遺構種別に関係なく連番で付した。

1. 中世の遺構

a. 沢状部分（2・3D E グリッド）

前述したように、Ⅱ層を除去した時点で周辺の平坦地より段をもって落ち込む様子を確認し、あわせて中世遺物を伴うⅢ層の堆積を確認した。そのため人力で鋤削を開始したところ、粉碎したⅢ層を用いた中世の地業面や遺構を検出し、沢地形を改变して利用していることが判明した。地業を行っているのは東に向かって地形が急激に下降する SD-12 の東側で、基盤層（IV・V 層）が高く傾斜も緩やかな SD-12 の西側では地業の痕跡は認められない。地業面と面上で検出した遺構については次項で詳述する。

地山上検出遺構

地山上では、溝 2 条（SD-112・130）、ピット 40 基などを検出した。SD-112 は北側の段差に平行して設けられる。規模は幅約 50cm、深さ 30cm、遺構方位は N-35°-E を測る。東側は調査区外に延伸する一方、西側は SE-6 付近で消滅する。地業面に伴う SD-12 との関連が窺える位置関係にあることや、SD-12・65 が地山を掘り込んで設けられていることなどを考えると、これらの溝が当初から存在していた可能性が考えられる。

SD-130 は調査区東壁沿いで検出した。規模は幅 70cm 以上、深さ 20cm、遺構方位は N-40°-W を測る。南側は東に向かって屈曲し、調査区外に延伸する一方、北側は地形が急激に下降する部分で消滅する。溝底は北に向かって下降しており、地形の特徴から考えても落ち込みへの排水溝であろう。

ピットは 40 基検出したが特に規則的な配置は窺えなかつた。掘り込みの不明瞭なものや浅いものが多く、遺構番号を付したもの以外は木根の攪乱を含む自然の落ち込みではないかと考えている。

地業面検出遺構

確認できた地業土の厚みは最大 75cm である。北東に向かって緩く下降する地形に黒褐色または暗褐色土を盛って



第 5 図 遺構形態分類図
[荒川・加藤 1999] を一部改変

平面形	説明
長形	長径が短径の 12 倍未満のもの
椭円形	長径が短径の 12 倍以上のもの
方形	長辺が短辺の 12 倍未満のもの
長方形	長辺が短辺の 12 倍以上のもの
不規則形	凸凹で一定の平面形をもたないもの

断面形	説明
台形状	底部に平坦面をもち、側やかに立ち上がるるもの
路状	底部に平坦面をもち、側面に立ち上がるものの
弧状	底部に平坦面をもたない圓弧状で、急斜度で立ち上がるものの
半円状	底部に平坦面をもたない半円状で、急斜度で立ち上がるものの
U字状	底部が広いよりも狭いのが大きく、は直角に立ち上がるものの
袋状	側面が側面をもち、急斜度で立ち上がるものの
V字状	側面が側面をもたないV字状で、急斜度で立ち上がるものの
蓋斗状	底部が広いよりも狭いのが小さく、は直角に立ち上がるものの
漏斗状	底部が漏斗形で、上部がV字状の二段構造からなるもの
袋脚状	側面が側面をもち、急斜度で立ち上がるものの

第 1 表 遺構形態分類表

[荒川・加藤 1999] を一部改変

平坦面を構築し、表面には粉碎したV層土を敷いて化粧する。こうした面が上下2面確認できるが、上の地業面は近・現代の耕作でほとんど失われている。

下の地業面はSD-12の東側に形成される。表面は硬化し、所々に被熱による面の赤化や、少量の焼土・灰の堆積が見られる。SD-12は幅90～110cm、深さ5～20cm、遺構方位はN-45°-Wを測り、南端は東に向かってL字形に屈曲する。形態的特長からみて、地業面の西側を区画する溝と考えられる。北側は調査区外に延伸するが、北側平坦面(2D以上)との段差はSD-12と直交するようになっており、地業面が一辺16m前後の方形区画となっている可能性がある。

SD-12の西側にはSD-65が接する。覆土の観察では両者の新旧関係は窺えず、SD-12に合流する構造と見られる。南側は平坦面で検出したSD-10と接続する。規模は幅90cm、深さ5～10cm、遺構方位はN-40°-Wを測り、南端は西に向かってL字形に屈曲する。SD-12と同じく区画溝と考えられるが、SD-65に区画される部分は南側の平坦面に続く緩やかな斜面となっている。SD-10とは深さ20cmの段をもって接続する。調査時にはこの段差が時期差を物語るものと捉えていたが、溝の方向や規模に統一性があることを考慮し、現在は同一のものと判断している。

地業面上で検出した遺構には、溝のほかにピット33基、土坑1基(SK-70)、井戸3基などがあるが、番号を付したもの以外はⅢ層から掘り込まれた遺構の可能性が高い。なお、北側の段差部分にもピット状の落ち込みを多数検出したが、P-71・72以外は覆土にしまりがなく、木根や作物の抜取りなどによる攪乱と考えている。

沢状部分は最終的にⅢ層の堆積で埋まっており、これによって周辺との高低差が解消されるようである。当該部分で検出された遺構のうち、少なくともSE-6～8はⅢ層から掘り込まれたものであり、中世のある段階で埋まつたことがわかる。Ⅲ層とした黒色土の堆積は3Fグリッド付近までわずかながら確認できることから基本土層に含めたが、こうした状況を考えると、Ⅲ層は沢状部分を埋めるための人為的な盛土である可能性が高い。

b. 平坦面(2CD、Fグリッド以南)

溝

ここでは平坦面で検出されたものを扱う。平坦面で検出した溝は7条である。このうちSD-33～35は遺構番号を付したもの、覆土がⅡ層を基本とするものであり、近・現代の溝(歎跡か)と判断した。これ以外はすべて中世の所産となる。なお、SD-10は前述したように地業面に伴うSD-65と同一、SD-18・19も屈曲部を介してつながったが、遺物ラベルの表記などは元の番号を残している。

SD-11

3Eグリッドで検出した。規模は幅130～200cm、深さ20～40cm、遺構方位はN-70°-Eを測り、溝底は東に向かって10cmほど下降する。Ⅲ層を切って設けられており、地業面より新しい時期の所産である。ちなみに、隣接地では本溝の延長に烟の境界があり、中世の区画を現在まで継承していることがわかる。覆土中には帶状にV層ブロックによる薄層(4層)が確認できるが、しまりは弱く、道路状遺構ではない。

遺物は覆土中から瀬戸製品(碗)、かわらけ、珠洲製品(甕・片口鉢)、土師器、須恵器などが少量出土した。

SD-18・19

調査区中央を縦断する溝である。屈曲部を境に南北で幅が大きく異なることや、屈曲部の西側がT字状に分岐する可能性があったことなどから、屈曲部の北を18、南を19と遺構番号を分けて調査したが、最終的に1本の溝と判明した。北はSD-11に接続、南側は調査区外に延伸するものとみられる。規模は全長46m以上、幅/深さ/方位はSD-18が140～160cm/約70cm/N-24°-W、SD-19が180～250cm/10～80cm/N-30°-Wを測る。溝底は調査区南端からSD-19北端に向かって80cmほど下降する。航空写真を見たところ屈曲部の延長を境とする煙があり、SD-11同様、区画が現代まで継承されていることがわかる。断面形はSD-18が逆台形、SD-19は溝底の幅が狭いSD-19は丸みを帯びたV字形を呈する。壁の傾斜は東西でやや緩急の差が見られるが、その角度はSD-18が東約60°、西約40°であるのに対し、SD-19は東約45°、西約65°と緩急が逆転する。覆土は6層に分層されるが、1・2層には近世遺物が含まれており、近世に於いても浅い溝として機能していたか埋没しきっていたことがわかる。中世の遺物としては2・3層から船載品と思われる天目茶碗・珠洲製品・かわらけなどが少量出土している。

建物・ピット列

ピットの数が非常に多いことや、覆土の堆積状況にヴァリエーションが乏しいことなどの理由により、調査時に復元できたものはSB-5のみである。その後、整理作業時にSB-5及びSD-18・19を基軸に遺構方位を想定し、建物の可能性が窺えるものはできる限り抽出することとした。当初、抽出した建物は27棟あったが、本稿執筆時に再検討を行い、最終的に掘立柱建物20棟を提示することとした。掘立柱建物のほかには柵や塀・橋脚などと判断したもののが5組あり、これらはピット列(SA)として扱った。また、同一のピットから複数の建物やピット列を復元したものもある。建物は桁行が1間のものが大半で、中柱をもつ建物はSB-3のみである。また、廊下といった付帯施設を伴うものもみられない。建物は同じ場所に複数が重複しており、建て替えを示しているものと考えているが、判断材料に乏しく建物の新旧関係は不明である。

SB-1

3FGグリッドで検出した。約3m北側には桁行が直交するSB-12が設けられており、併存するものと捉えている。西側は調査区外に延伸し、全貌は把握できない。規模は桁行3間(6.6m)、梁行は2間(3.8m)もしくはそれ以上、床面積は約25m²と、抽出した建物中最大の規模を持つ。柱間は桁行が北から240-210-210cm、梁行はP-159・156間で160cmを測る。南側の柱間は380cmと広いが、SK-108や耕作によって中間のピットが失われている可能性がある。途中に複数の土坑や井戸と重複するが、建物との新旧関係は不明である。

SB-2

4・5H1グリッドで検出した。SB-5・7・17と重複する位置にあり、SB-7を大型化した可能性が窺える建物である。柱間は南北それぞれ不均等であり、柱筋が通らない。規模は桁行3間(6.2m)×梁行1間(3.8m)、床面積は約23m²と、本遺跡としては大型である。桁行は3間としたが、北側にはP-82に対応するピットが存在しない。ほかのピット深度から判断して地上から立ち上げた可能性は低く、P-82を除外して側柱が西に偏った2×1間の建物と考えた方が良いのかもしれない。

SB-3

4Hグリッドに位置し、SB-5・7の北側に約2mの間隔をおいて設けられる。桁行を東西方向に取る建物で、桁行3間(6.3m)×梁行2間(3.2m)の規模を持つ。床面積は約20m²である。柱間は梁行が160cm、桁行は南北共に中央240cm・両側180cmと中央をやや広くとする構造である。建物東側のP-392と384を結ぶ線上にはP-387があり、中柱と捉えた。深さは20cmと、ほかのピットより10cmほど浅い。

SB-4

3・4Gグリッドで検出した。SD-18屈曲部の北側に設けられ、SB-1・6と重複する。建物の方向はほかの建物と比べやや西偏しており、その点はSD-18・19との関連が窺えない。

建物の規模は、桁行2間(6.1m)×梁行1間(3.2m)、床面積約19m²を測る。桁行の柱間は不揃いであるが、概して南半の方がやや広い。SE-60と重複するが、新旧関係は不明である。

SB-5

4H1グリッドで検出した。比較的遺構密度の低い場所にあり、唯一、調査中に復元した。建物の規模は、桁行2間(5.6m)×梁行1間(3.2m)の規模で、床面積は約18m²である。柱間は桁・梁共に280cmと、規格性が高い。

SB-6

3FGグリッドで検出した。SB-1と重複する位置にある桁行3間(5.4m)の建物である。梁行はP-193の1基しか確認されておらずピット列の可能性も考えられるが、SB-1とは建物規模が近い上に重複していることもあり、建て替えの可能性を考慮してSBとして扱った。床面積は11m²以上、柱間は桁行が北から180-170-180cmと、中央がわずかに狭く設定されている。梁行は160cmを測る。SK-108・SE-51などと重複するが、新旧関係は不明である。

SB-7

4・5Hグリッドで検出した。SB-5の東側に約80cmの間隔をおいて設けられる建物で、SB-5と直交方向に桁行をとる。建物の規模は桁行2間(4.8m)×梁行2間(3.4m)だが、西側は中央のピットを欠いている。縄文時代のSK-78掘削の際に見落としてしまった可能性は否定できないが、片側1間の建物はほかにもSB-9・20の2棟あり、桁行片側2間の建物と捉えたい。床面積は約16m²、柱間は桁行240(480)cmを測る。梁行は棟持柱が西梁は南に、

東梁は北に偏っており、柱筋が通らない。

S B -8

4 G グリッドに位置し、SD-18 屈曲部にはほぼ接する位置に設けられる。桁行 2 間 (4.3 m)、梁行 2 間 (3.0 m) の規模で、床面積は約 13m² である。柱間は梁行が 160cm、桁行は棟持柱が南北共西に 40cm ほど偏り、尚且つ南側の P-333 はやや内側に入り込む。SE-23 と重複するが、新旧関係は不明である。

S B -9

4 H グリッドに位置し、SB-3 と直交方向に重複する。SB-7 と同じく桁行片側 2 間 (4.4 m) × 梁行 1 間 (3.2 m) の建物である。床面積は約 14m² を測る。柱間は不揃いで、北東隅の P-377 は外側に 40cm ほど張り出す。

S B -10

4 I グリッドで検出した。SD-19 西縁にある 4 基は後述する SA-1 を構成するピットでもあるが、P-251 と直交する 256 や、約 1 m 南側にある SE-54 などとの関係を考え、建物としても復元した。建物の規模は桁行 3 間 (4.8 m) × 梁行 2 間 (3.2 m) 以上、床面積は 14m² 以上を測る。柱間は桁行が北から 140-200-140cm、梁行は 160cm で等間隔である。P-256 はやや外側に張り出しており、棟持柱の可能性がある。

S B -11

4 G H グリッドで検出した。頻繁に建て替えが行われた場所に位置し、SB-3・9・16 と重複する。隣接する建物のうち SB-17・20 と同じ方向 (SB-17 は直交) で建てられており、組になるものとみられる。建物の規模は桁行 2 間 (4.8 m) × 梁行 1 間 (2.6 m) で、床面積は約 13m² である。柱間は桁行が北半 245cm、南半は 250 ~ 260cm とやや広い。梁行は北 260cm を測る。

S B -12

3 E F グリッドで検出した。近隣の SB-1・15 などと共に SD-19 とほぼ平行する方向で建物が設けられている。建物の規模は桁行 2 間 (4.0 m) × 梁行 2 間 (3.0 m) で、床面積は約 12m² を測る。梁行の柱間は 140cm 前後で統一されているが桁行は不揃いで、中央の P-37 と 146 は柱筋が通らない。

S B -13

4 G グリッドに位置し、SB-8・SA-4 と重複する。確認できる建物の規模は桁行 2 間 (4.2 m) × 梁行 2 間 (2.8 m) であるが、東側の P-336 の位置をみると桁行は 3 間の可能性がある。床面積は約 12m² である。建物の北東部は調査当初から縄文土器を多く含む土層の堆積が確認されており、そちらの調査によって失われている。柱間は 130 ~ 250cm と不揃いである。SE-23 と重複するが、新旧関係は不明である。

S B -14

3 E・4 E F グリッドで検出した。P-262・267・32 の組合せで近接棟持柱建物と捉えた。梁行の柱間は 210cm である。

S B -15

3 F グリッドに位置し、SB-1 と重複する。また、南東隅の P-316 は SA-3 の構成ピットも兼ねるため、両者の共存はない。建物の規模は桁行 2 間 (4.0 m) × 梁行 1 間 (2.4 m)、床面積は約 10m² である。南西隅は SK-49 によって失われたと考えている。桁行の柱間は北側が 200cm で等間隔、南側は 220cm とやや広い。梁行は柱間 240cm である。

S B -16

4 H グリッドで検出した。頻繁に建て替えが行われた場所に位置し、SB-3・11・20 と重複する。ほかの建物とは方向が 15° ほどずれており、その点では組になる建物はない。建物の規模は桁行 2 間 (3.8 m) × 梁行 2 間 (2.4 m)、床面積は約 9m² である。西梁中央は耕作の影響を受けているもののピットを破壊するほどの深さではなく、西梁中央のピットを持たない構造と考えている。柱間は桁行 180 ~ 200cm、梁行 120-120 (240) cm と、本遺跡としては整った形態の建物である。

S B -17

4・5 H グリッドで検出した。本建物の周辺は縄文時代の遺構が多く、ピット密度は比較的低いにも関わらず 3 棟の建物が重複する。建物の規模は桁行 1 間 (3.8 m) × 梁行 1 間 (2.6 m)、床面積約 10m² の建物である。本遺跡における床面積 10m² 前後の建物としては、梁行がやや広い。

S B -18

4・5 G グリッドで検出した桁行（3.3 m）1間×梁行1間（1.9 m）、床面積約6m²の建物である。ピット深度が南北で大きく異なるという問題点はあるものの、ほかの建物とは方向や規模といった点で類似性が高く、建物と捉えた。

S B -19

4 H グリッドに位置し、SB-3 の北側に接するように設けられる。桁行（3.2 m）1間×梁行1間（1.7 m）、床面積は約5m²である。北東隅のP-373はやや外側に張り出す。SB-18同様、ほかの建物との類似性から建物と捉えた。

S B -20

4 H グリッドで検出した桁行2間（3.0 m）×梁行1間（2.2 m）、床面積約7m²の建物である。SB-3と共にビットが多く、独立した建物とするにはやや問題があるが、SB-11・17と組になる建物方位を持つため建物と捉えた。

S A -1

3 H・4 I グリッドで検出した。SD-18 西縁に沿ってピットが多数並ぶことから、柵か堀と判断した。ピットの間隔は不均等で、平面的にも一直線には並ばず規格性は薄い。南端部のP-251・98の間隔だけは360cmと群を抜いて開いているが、この付近には井戸（SE-54）が設けられており、構築物が途絶えている可能性がある。ピットの間隔は100～380cmと不均等で、柱筋もやや歪である。

S A -2

4 H グリッドで検出した。SD-19 東岸は西岸と比べピットがほとんどみられないが、4 H 17付近のみピットが集中しており、対岸のピットとの組合せからP-228・236・237・243の4基をSD-19に架かる橋脚と捉えた。ピットの間隔から、橋幅は約210cmと推定できる。

S A -3

4 F グリッドで検出した。SD-18 の両岸でピットが組になるのはP-304・316・327・328の4基しかなく、ピット深度の類似性も高いことからSD-18に架かる橋脚と捉えた。ピット間隔から、橋幅は約140cmと推定できる。

S A -4

4・5 G グリッドで検出した。SD-18 の東側約4 mの位置に規模が近似するピットが3基あり、これを結ぶとSD-18に平行するためピット列と捉えた。3基のうちP-280・441はSB-8の構成ピットも兼ねている。ピットの間隔は、北から140-160cmとほぼ等間隔である。

S A -5

4F グリッドで検出したP-56・273・275・279・299・311の6基で構成されるピット列で、各ピットの規模はSA-4構成ピットに近似する比較的大型のものである。SA-4と同じく、SD-18の東側約4 mの位置に平行し、尚且つP-56と直交する位置にP-312があることから、本ピット列に組み入れた。北側が調査区外に延伸する可能性があり、全貌は不明である。ピットの間隔は140～200cmと不均等である。

土 坑

調査区内に散在するかたちで13基検出した。平面形は円形もしくは梢円形を呈し、直径100cm前後のものが多い。深度は36～120cmと様々である。SK-14・50・63は、壁が垂直に立ち上がる箱状の断面形をもち、深さも1m前後と深い。3 E グリッドで検出したSE-7と近似した形態を持つが、湧水がまったく見られることから土坑と判断した。縄文時代の土坑とは覆土の性質が異なり、中世のものはⅢ層、次項で説明する縄文時代のものはV層を基本とする覆土が堆積する。出土遺物はSK-50・63から珠洲製品が少量出土した程度と、非常に少ない。

S K -9

3 E グリッドで検出した。平面形は円形（64×58cm）、断面形はSK-14・50・63などと同じく箱状を呈するが、それらと比べ全体に小ぶりで深さも約50cmと浅い。覆土は2層がほぼ水平に堆積する。土質は比較的均質であり、堆積状況も含め人為的な埋土の可能性が高い。遺物は出土していない。

S K -14

3 G 3・8 グリッドでSX-13調査中に検出した。平面形・断面形とも端正な方形を呈し、「耕」状の形態を持つ（平面110×90cm以上、深度90cm）。底面に有機質に富む土層が少量堆積し、覆土下位には壁の崩落と思われるV層

ブロック混入土の堆積が見られるなど開口状態で使用された痕跡が窺える一方、最後は人為的埋土と考えられる1層の堆積で埋没する。遺物は2層から縄文土器片が16点出土した。

S K -47

3 F 1・2・6・7 グリッドで検出した。平面形は円形(100×82cm)を呈し、上部は耕作による擾乱を受ける。底面から壁際にはV層ブロックを多量に含む堆積土(2・3層)が見られ、人為的埋土の可能性がある。1層とこれらの境には垂直な部分があり、2・3層を裏込めとする枠のようなもの(例えば木棺)が存在した可能性がある。ちなみに、本土坑の4mほど北側ではII層から開元通宝・祥符元宝・元豐通宝各1枚、III層から○○元寶1枚(○○は判別不能)が出土したこと記しておく。

S K -49

3 F 24 グリッドで検出した。平面形は円形(114×100cm)、断面形は箱状(深度41cm)を呈する。おおよそ平坦な底面を持つが、壁との境はなだらかに立ち上がる。覆土下層には崩落した壁土と思われるV層混じりのもの(3層)や、自然堆積と見られる暗褐色土(2層)が堆積するが、その上は大型のV層ブロックを主体とする埋土で一気に埋められている。遺物は縄文土器片9点、石器剥片2点が出土した。

S K -50

3 F 22・23 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形(86×80cm以上)を呈し、ほぼ垂直な壁と約1mの深さを持つ。調査区西壁際にあるため崩落の危険があり、西側は一部調査できなかった。2~4層は人為的な埋土の可能性が高く、本址も人為的に埋められたものと考えている。遺物は縄文土器片8点のほか、覆土下位から珠洲焼の痕跡部片が5点出土した。

S K -55

4 I 23・24、4 J 3・4で検出した。平面形は円形(136×120cm)、断面形は箱状(深度55cm)を呈する。壁際には壁の崩落と思われる土層が堆積し、その後の土層堆積状況もいわゆるレンズ状堆積であるなど、自然埋没と考えられる遺構である。覆土1層は本土坑の掘り直しか重複ピットである。遺物は縄文土器片が62点出土したが、本遺跡では縄文土器が遺構覆土に混入するのが普遍的であることや、覆土がIII層を基本とすることなどから中世の遺構と判断した。

S K -61

3 J 5、4 I 1・6 グリッドで検出した。平面形は長円形(140×60cm以上)、深さは35cmと浅く、断面形は弧状に近い台形状を呈する。調査区西壁際に位置することから西側は調査できず、本土坑については不明な点が多いが、覆土にV層ブロックが多く含まれることや、遺構周囲の確認面の荒れ方などから倒木痕ではないかと考えている。遺物は縄文土器片143点、打製石斧1点、剥片3点などが出土している。

S K -63

4 G 18・23 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形(90×78cm)を呈し、SK-50と同じくほぼ垂直な壁と約1mの深さを持つ。覆土は3層に分層され、堆積状況から人為的に埋められた可能性が高いと考えている。遺物は縄文土器片8点、石錐2点、磨石1点、珠洲片口鉢2点などが出土している。

S K -94

4 H 10、5 H 6 グリッドで検出した。平面形は円形(80×78cm)、断面形は箱状(深度36cm)を呈するが、壁面や底面は全体的に凹凸が多く、遺構と覆土の境は不明瞭である。覆土は粒子状のV層が多く含まれる暗褐色土でしりはやや弱い。遺構形態や覆土の性質などから判断して、木根による擾乱の可能性を考えている。遺物は縄文土器片が8点出土している。

S K -108

耕作によって確認面が荒れている3 G 4・8 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形(140cm×128cm)、断面形は弧状(深度38cm)を呈する大型の土坑である。覆土は粒子状のV層を多く含む暗褐色土でしりはやや弱い。SK-94同様、木根による擾乱や倒木痕と考えている。遺物は縄文土器片13点、石器剥片3点が出土した。

S K -442・443・444

沢状部分の調査区西壁(2 D・3 E グリッド)で検出した。壁で観察できる規模は、SK-442が直径78cm・深さ

80cm、443が直径96cm・深さ120cm、444が直径68cm・深さ85cmである。断面形は442がV字状、443・444はU字状を呈し、井戸の可能性も考えられる。覆土はいずれもⅢ層を基本とするもので、小径のV層ブロックを含む。遺物は出土していない。

井戸

井戸は13基検出した。深さ2mを超えるものも見られ、壁面崩落の危険性が高かったSE-6・67・73は空掘終了後に重機で断ち割りを行い、底部の確認や遺物の取り上げを行った。検出位置は2D~3E、4F、4Iグリッドにまとまりが見られるほかは調査区内に散在するが、建物が集中する4Hグリッドには存在しない。SE-99以外の井戸は現在も湧水が見られるが、井戸底の標高は42.5~43.95mと1.5mもの差があり、湧水位が一定ではなかったものとみられる。

SE-6

2D 15・20グリッドで検出した。平面形はやや歪な円形(151×128cm)を呈し、深度185cmを測る。底面は直径80cmほどの円形で、壁はやや開きながら立ち上がり、北東部分は確認面下約70cmの位置で段をもって大きく開く。井戸掘削時の利便性を考えた段掘りと解釈しているが、壁面の土質が脆弱なことと、湧水が非常に多いことなどを見ると、崩落した可能性も窺える。覆土8層は非常に有機質に富んだ土層で、絵付漆器碗・下駄・箸・曲物・御敷などの木製品、青磁・珠洲焼鉢・瀬戸浅碗などの中世陶磁器の破片などを含む。陶磁器類から得られた遺物の時期は14~15世紀前半頃である。

SE-7

3D 16・21グリッドで検出した。遺構形態はSK-14・50・63などに近似するが、湧水がみられることから井戸に分類した。

平面形は隅丸方形(114cm×114cm)を呈し、深度95cmを測る。井戸底には有機質に富んだ土層が5cmほど堆積し、その上に暗褐色土が水平堆積する。中位にはレンズ状にV層を多量に含む土層の堆積が見られるが、掘り直しによるものか堆積時期の差によるものか不明である。遺物の出土量は僅少だが、13世紀中葉~14世紀初頭の龍泉窯系青磁碗が1点出土した。

SE-8

2E 5、3E 1・6グリッドで検出した。平面形は隅丸方形を呈するが、上方部分は四隅に角があり方形に近い。平面規模は126×116cm、深度208cmを測る。底面は傾斜しており、北側が10cmほど低い。壁はわずかに開きながら立ち上がるが、北側の一部は中位より段をもって広がる。覆土の堆積状況は基本的に水平堆積であり人為的な埋め戻しが窺えるが、この部分に堆積する土層(5層)は独立しており、前述した形態的特徴も踏まえると井戸側が存在した可能性が考えられる。5層のしまりは弱く、裏込めではなかろう。遺物は珠洲片口鉢1点、土師質土器片1点、縄文土器4点、不明鉄製品1点が出土した。

SE-23

4G 13・14グリッドのSD-18屈曲部脇で検出した。平面形は円形(112×108cm)を呈し、深度190cmを測る。覆土は暗褐色土の単層で、一気に埋められたことがわかる。全体的に整った形態で掘られており、近世以降の可能性も踏まえ掘削したが、覆土はⅢ層を基本とするものであった。遺物は縄文土器片43点が出土した。

SE-24・26

4F 6・7・11・12グリッドで検出した。調査当初は新旧井戸の重複と考えたが、掘削したところ底面標高差が非常に大きいことが判明した。井戸と土坑の切り合いとも考えられるが、覆土から新旧関係を窺うことができず、現在は井戸掘削時の利便性を考えた段掘りではないかと考えている。規模は、24が95×90cm以上、深さ128cm、26が138×105cm以上、深度245cmを測り、平面形は24が隅丸方形、26が楕円形を呈する。覆土は暗褐色土にV層が混入するもので、中位にはレンズ状にV層を多量に含む土層の堆積が見られる。遺物は24から縄文土器、26からは珠洲焼鉢や手づくね(以後、T種と呼称)かわらけなどの破片がわずかに出土している。

SE-25

4F 6・7グリッドで検出した。SE-24・26の北側わずか1mに設けられており、作り替えの可能性が考えられる。

底面には10cmほどの厚みで有機質に富んだ土層が堆積するが、それより上層はV層ブロックを含む土層が薄層状に堆積し、数次に分けて埋めていったことがわかる。出土遺物のうち中世のものとしては、青磁・かわらけ・砥石などがある。青磁は12世紀代の龍泉窯系調花文碗が1点出土している。

SE-51

3F 23、3G 3 グリッド周辺で耕作土の掘削中に検出した。規模は145×112cm、深さ262cmを測り、三角形に近い長円形を呈する。調査区西壁沿いであることや、井戸の直径が80cmと狭いこともあって細かな観察を行えなかった。覆土はV層ブロックを含む黒褐色土で、3層は粘性が非常に強い。底面には直径30cm前後の円礫を多数確認した。礫の大きさがある程度描っていることから、廃棄礫の可能性は低く、井戸戸戸の濾過を狙ったものか、井戸の廃絶に伴う撤入跡ではないかと考えている。中世の遺物は珠洲焼甕片と鉄滓各1点が出土した。このほかに、炭化穀物のようなものが出土したが遺存状態が悪く、自然科学分析は行っていない。

SE-54

4J 22、4J 2 グリッドで検出した。平面規模は直径238cm、深度296cmを測る。本井戸の周辺は木根によってV層がボロボロに擾乱されており、壁面崩落の危険性が高く細かな観察は行えなかった。覆土は暗褐色土で底面から2mほどまで一気に埋められている。最上層は複雑に入り組んだ堆積がみられるが、これは耕作の影響と思われる。上半部にはこれとは別にV層ブロック層が壁との間に堆積するが、裏込めか木根による擾乱か判断できなかった。中世の遺物は丸棒状の木製品が1点出土したのみである。

SE-60

4F 15・20 グリッドで検出した。平面形は円形(84×80cm)を呈し、深度160cmを測る。覆土は黒褐色土2層で、いずれも人為的理土である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。中世遺物の出土はない。

SE-67

4I 18・19 グリッドのSD-18 底面で検出した。SD-18 掘削後に発見したため、両者の新旧関係は不明である。平面形は円形(110×86cm)を呈し、深度275cmを測る。覆土は人為的理土で、4層に分層される。1層には小礫が含まれる。中世の遺物はかわらけ片が2点出土した。

SE-73

5G 17・22 グリッドで検出した。平面形は円形(110×94cm)を呈し、深度294cmを測る。SE-67共々、井戸底が深すぎて崩落の危険性が高く、人力での作業は途中で終え、空掘後に重機を用いて底部を検出した。覆土はV層ブロックを含む暗褐色土の単層である。直径90cm前後を測る底面は、湧水の濾過か汲み上げ時の利便性を考え、直径60cm、深さ20cmの円坑状に段掘りしている。中世遺物としては、珠洲焼甕片が2点出土している。

SE-99

5H 20、6H 16 グリッドの調査区南東端で検出した。平面形は円形(96×94cm)を呈し、深度243cmを測る。非常に整然とした造作の井戸である。覆土は色調の明るい暗褐色土の単層である。中世遺物としてはT種かわらけ、砥石各1点が出土している。

2. 繩文時代

概要で述べたとおり、遺物量に比べ検出した遺構は少ない。その大きな原因に後世の土地利用に伴う遺跡の破壊がある。特に近現代の耕作による影響は、耕作土中に大破片を含む大量の遺物が含まれていることからも明らかであり、隠れている遺構の検出や遺物の採集のために耕作による掘り込みもできる限り調査した。検出した遺構は土坑と不整形土坑である。プラスコ状土坑のような特徴的な遺構以外は覆土の特徴、すなわち、V層(あるいはIV層)を主体とするものを当該期の遺構とした。

土坑

17基を検出した。当該期に特徴的なプラスコ状土坑は、5Hグリッドに集中する。

SK-53

3 E 6・11 グリッドで検出した。平面形は楕円形(56 × 44cm)、深度 38cm を測り、ほかの土坑と比べ規模が小さい。覆土はV層を基本に黒褐色土を含むものである。遺物は出土していない。

SK -74

4 H 8・9・13・14 グリッドで検出したフラスコ状土坑で、南側の一部を SK-75 に切られる。平面形は円形(120 × 106cm)を呈し、深度は 50cm である。覆土は 4 層に分層できるが、4 層は V 層と黒褐色土の混成土である上、基盤層もしまりが弱いため、遺構と覆土の境は不明瞭である。反面、1・2 層は黒色土で炭化物なども含み、堆積状況から見ると別遺構が重複している可能性もある。遺物は縄文土器片が多量に出土したほか、石錘 2 点・磨石 1 点がある。

SK -75

4 H 13・14 グリッドで検出した。平面形は円形(68 × 63cm)、深度 22cm を測るやや小型の土坑である。覆土はV層と黒褐色土の混成土單層である。SK74 同様、遺構と覆土の境は不明瞭であり、木根による攪乱の可能性も考えられる。遺物は土器片がわずかに出土した。

SK -77

4 H 25、4 I 5 グリッドで検出した。平面形はやや歪な楕円形(108 × 72cm)を呈し、深度 46cm を測る。覆土は暗褐色土とV層が攪拌されたものである。断面形は箱状としたが、底面との境は緩やかで、壁面は細かな凹凸が多く見られる。こうした特徴からみて、木根の搅乱か倒木痕の可能性が高い。

SK -78

5 H 11・16 グリッドで検出したフラスコ状土坑である。平面形は円形(110 × 102cm)を呈する。深度は 42cm を測り、壁の中～下位は 10cm ほど張り出す。覆土は 6 層に分層される。3 層以下は V 層そのものといった土質であるが、黒褐色土や炭化物粒子などをわずかに含み、しまりは基盤層と比べやや弱い。遺物は縄文土器片 2 点、石器剥片 1 点とわずかである。

SK -79

5 H 16・21 グリッドで検出した。SK-78 と同じくフラスコ状土坑で、SK-80 を切る。平面形は不整楕円形(165 × 126cm)を呈し、深度 68cm を測る。壁 10cm ほど張り出しが、SK-80 側は上位が一部崩落したとみられ、中位は鋭角的にくびれる。覆土はV層を基本とするものである。特に 4 層は基盤層と区別が難しく、掘削時では若干含まれる炭化物の有無としまりの強弱で判別した。遺物は大破片を含む縄文土器片多数と石錘 1 点・磨石 1 点・石皿破片 2 点などが出土した。

SK -80

4 H 20、5 H 16・21 グリッドで SK-79 調査中に発見した。平面形は楕円形(118 × 92cm)、断面形は台形状を呈し深度は 32cm と浅い。底面は平坦であるが壁は細かな凹凸があり、木根の影響を受ける。覆土はV層を主体とするもので、炭化物や黒褐色土を含む。遺物は縄文土器片多数と石器剥片 1 点が出土した。

SK -81

5 H 21・22、5 I 1・2 グリッドで検出したフラスコ状土坑で、平面形は隅丸方形(128 × 105cm)、深度 52cm を測る。壁の中～下位が 10cm ほど張り出しひか、北壁は中位に明確なくびれがある。覆土はほかの土坑のような基盤層とほとんど変わらないものではなく、有機質に富む暗褐色土を主体とする。遺物は縄文土器片が少量出土した。

SK -83

4 H 23 グリッドで検出した土坑で、南東隅を P-283 に切られる。平面形は楕円形(116 × 77cm)を呈し、深度は 16cm と浅い。覆土はV層と暗褐色土の混成土である。遺物は縄文土器片が少量出土した。

SK -84

4 H 12 グリッドで検出した。平面形は円形(76 × 72cm)、深度 44cm を測る。断面は箱状を呈し、平坦な底面を持つ。覆土はV層を基本とし、暗褐色土が混入するものもある。遺物は比較的大型の縄文土器片が覆土最上位で出土した。

SK -85

4 H 12 グリッドで検出した。平面形は円形(100 × 82cm)、深度は 20cm と浅い。断面形は箱状を呈し、底壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土はV層を基本とするものであるが、2 層には暗褐色土を多量に含む。遺物は縄文土器片

少量と石器剥片が1点出土した。

S K -86

4 H 13・14・18・19 グリッドで検出した。平面形は円形(102×70cm)を呈し、深度は27cmと浅い。覆土はV層を少量含む暗褐色土が主体で、壁沿いや底面の一部には崩落したV層の堆積が見られる(2・3層)。遺物は、縄文土器片少量と石錐が1点出土した。

S K -87

4 H 14・19 グリッドで検出した。平面形は隅丸方形(70×68cm)、断面形は台形状(深度28cm)を呈する。覆土は暗褐色土とV層の混成土が底面や壁際に堆積するが、主体はV層混じりの黒褐色土である。遺構内は木根の搅乱と思われる小穴や凹凸が多数みられ、木根痕の可能性がある。遺物は少量の縄文土器片に加え、打製石斧破片・石器剥片各1点が出土している。

S K -88

4 H 7・12 グリッドで検出した。平面形は円形(116×100cm)を呈し、深度は13cmと浅い。覆土はV層ブロックを多く含む暗褐色土單層である。遺物は縄文土器片数点が出土したのみである。

S K -89

4 H 18 グリッドで検出した。平面形は梢円形(92×74cm)、深度は15cmと浅い。底面中央には、直径10cm、深さ15cmほどの小穴が掘り込まれる。覆土は黒褐色土とV層の混成土だが、しまりは弱い。木根による搅乱を受けしており、壁面には細かな凹凸が多くみられる。また、中央の掘り込みも同様の可能性がある。遺物は土器片が10点ほど出土した。

S K -90

4 H 4 グリッドで検出した。平面形は梢円形(58×52cm)、断面形は台形状(深度30cm)を呈し、北側をP-445に切られる。覆土は暗褐色土とV層の混成土が10cmほど堆積し、その上に半円状に遺物を含む暗褐色土が堆積する。出土遺物には縄文土器片数点のほか、石器剥片が1点出土した。

S K -100

4 H 22・23、4 I 2・3 グリッドで検出し、SD-18に切られる。南壁が張り出すことからフラスコ状土坑と判断した。平面形は円形(126×110cm)、深度38cmを測る。底面は平坦である。遺物は縄文土器片少量で、底面から火焔型土器の突起部分が1点出土した。

S K -115

3 E 15 グリッドに単独で設けられる。遺構の北側はSD-11に切られるほか、東側は調査区外に延伸しており調査できなかった。覆土はV層ブロックを多く含むものの、しまりや粘性は基盤層と変わらない單層である。そのため、当初は自然の落ち込みではないかと考えて調査を進めたところ、覆土中から土器片数十点と石錐・剥片各1点が出土し、遺構と判断した。平面形は隅丸方形、断面形は台形状としたが、底面から中位にかけて壁は垂直に立ち上がる。

不整形遺構

「SX」という遺構種で括られるものである。SX13・17・64・93の4基が該当し、調査区南側に散在する。

S X -13

3 G 3・4・8・9・13 グリッドに跨る不整形の凹凸面である。覆土中から縄文土器片や石器剥片が多量に出土し、当初は竪穴住居や遺物集中土坑を想定して掘削を開始したが、遺構や覆土の状況から倒木痕か木根の搅乱と判断した。

S X -17

4 G 20・25、5 G 16・21 グリッドで検出した倒木痕(風倒木)である。規模は南北365cm、東西316cm、深さは最大50cmを測る。断面形は基本的に弧状を呈するが全体的に凹凸が激しく、中央部は大きく盛り上がる。覆土は中央にV層を主体とする土層が、周辺には暗褐色土を基本とする土層が堆積する。全体的にしまりは弱く、ボロボロとした感触である。遺物は縄文土器片10点、剥片1点とわずかである。

S X -64

木根による搅乱や土壤の風化が激しい4I17・18・22・23 グリッドで検出した。覆土は暗褐色土でしまりは弱く、

遺物が出土するまでは攪乱と判断していた。断面形は箱状としたが、南側は造構の内外とも土壤がボロボロで、壁の状態が不明瞭である。底面も平坦ではない。遺物は縄文土器片數十点が出土した。

S X -93

5 H 12 グリッドで検出した。全体的に凹凸が見られるほか、覆土も基盤との境が不明瞭なところがある。造構内外とも土壤はボロボロである。断面形は U 字に近い半円状を呈する。覆土は中央に V 層を含む暗褐色土が柱状に堆積し（1 層）、柱痕の可能性がある。また、1 層最上層からは脛部破片が層状に出土している。遺物はこのほかにも土器片數十点が出土している。

ピット

合計 397 基検出した。ピットは調査区全域で検出され、極端な集中はみられないものの、建物が重複する 4 H のほか、4 F、3 F G グリッドにもやや濃密な分布が認められる。ピットの規模には深度 50cm を越えるしっかりとした柱穴から深度 20cm 以下の木根痕状のものまで様々な形状がある。

V 遺 物

出土した遺物量は遺物収納用コンテナ 27 箱分で、内訳は繩文土器 4646 点、石器 268 点、中世土器・陶磁器 117 点、近世陶磁器 11 点、古代の可能性がある土器片 3 点、砥石 8 点、木製品 13 点、錢貨 3 点、金属製品 18 点などである。遺物の 2/3 は溝・土坑・不整形土坑といった遺構から出土している。以下、遺物種毎に説明する。

1. 中世の遺物

中世の遺物には、土師質土器皿（以後、かわらけと呼称）、船載陶磁器（青磁）、国産陶器（瀬戸）、珠洲焼など土器類のほかに、砥石、錢貨、木製品、金属製品などがある。

a. 土器・陶磁器類

かわらけ（図版 27-1 ~ 17）

ロクロ成形（R 種）と手づくね成形（T 種）のものがあり、合計 75 点が出土した。1 ~ 10 は手づくね成形のかわらけで、底部には指頭痕が確認できる。胎土はきめ細かな粉質のもので、色調は肌色に近い。口径 10cm 以下の小型品（1 ~ 3）と、口径 12cm 台の大型品（4 ~ 10）がある。

1 は SE-67 から出土したもので、13 世紀後半～14 世紀前半のものと思われる。口唇部はほぼ垂直に引き上げられる。2 は SD-18、3 は SE-25 から出土したものである。3 は外側に対して内面の傾斜が緩く、断面三角形状を呈する。5 は沢部分地業土 5 層から出土したもので、出土したほかの手づくね成形品が器壁厚めでぼってりしているのに比べ、全体的に端正な作りである。13 世紀後葉頃のものか。6 は SE-26 の 8 層から出土したもので、体部と底部の境はわずかに稜が立つ。時期的には 13 世紀後半頃のものか。7 ~ 10 は全体に丸みを帯びて、ぼってりとした作りである。供伴遺物に乏しく細別時期はよくわからないが、全体のプロポーションは下沖北遺跡 SK-445 出土資料と類似性が認められる。

11 ~ 17 はロクロ成形品である。全体の作りはやや薄手で、器壁は底部から直線的に開きながら立ち上がる。11 は小型品、14 ~ 17 は大型品に属するもので、口径は小型品が 7.2cm、大型品が 10.4 ~ 10.8cm を測る。大型品の器高は 2.5cm 前後と低めである。15 ~ 16 が出土した SE-6 からは、かわらけ以外にも 14 世紀中葉～15 世紀初頭の瀬戸灰釉碗や吉岡編年〔吉岡 1994〕V 期（14 世紀後半～15 世紀前半）に比定される珠洲片口鉢などが出土しており、供伴遺物の時期からみて 14 世紀後葉～15 世紀前半に比定される。11 は SD-11 の 1 層から出土したもので、直線的に立ち上がる器壁や法量などからみて、大型品と同じ 14 世紀後葉～15 世紀前半のものと考えられる。

船載陶磁器（図版 27-18 ~ 21）

青磁の碗 4 点と盤 1 点のほかに、天目茶碗も船載品の可能性が高い。18 は無文碗で、SE-6 の 1 層から出土した。19 は 12 世紀後半の刻花文碗で、内面体部に沈線や花文が描かれる。SE-25 の 7 層から出土した。20 は SE-7 の 4 層から出土した盤で、内面体部に蓮華文が削出される。13 世紀中葉～14 世紀初頭の製品である。21 は II 層から出土した天目茶碗で、器壁は直線的にやや急角度で立ち上がる。

國産陶器（図版 27-22 ~ 24）

瀬戸製品は灰釉碗 5 点が出土し、このうち 3 点を図示した。24 は灰釉浅碗で、古瀬戸後期 I ~ II 期（14 世紀中葉～15 世紀初頭）の製品と思われる。

珠洲焼（図版 27 ~ 29-25 ~ 48）

59 点出土したうち、23 点を図示した。25 ~ 31 は片口鉢である。25 は SK-63、28 は SD-18 で出土したものの、口縁部の形態から 25 は吉岡編年 VI 期（15 世紀中葉）、遺物の形態や卸目の入り方などから 28 は吉岡編年 IV 期（14 世紀初頭～後半）のものと思われる。29 ~ 31 は卸目が全面に入るものの、吉岡編年 V 期（14 世紀後半～15 世紀前半）のものである。29 は SD-11、30 は SE-6、31 は SD-19 から出土した。33 の底面部は内面が摩耗しており、

破砕後にこね鉢に転用されたものとみられる。35～37は吉岡編年Ⅰ・Ⅱ期（12～13世紀中葉）と思われる甕で（35・36は壺か）、外面の打圧痕はあまり見かけない放射状もしくは菊花状の文様が連続するモチーフである。35はSD-11、36・37はⅢ層から出土した。39～41は壺の破片で、39はやや細かなハケメ状の打圧痕である。42～48は甕の破片である。

古代・時期不明土器（図版29-49～51）

49はSE-8から出土した須恵器無台杯と思われるもので、底径4.0cmと小型である。50はⅡ層から出土した須恵器無台杯か瀬戸碗と思われる。断面には漆雜ぎの痕跡が残り、瀬戸製品の可能性が高い。51はSD-18から出土した土師質の甕底部である。胎土はやや緻密で粘性が強く、縄文土器のものとは異なる。弥生～古墳時代の甕か。

b. 木製品（図版30-52～62）

出土した11点すべて実測し、図版に掲載した。62以外はSE-6からまとめて出土した。52は漆器椀で、口径17.4cm、底径8.5cm、器高6.7cmを測る。内外面共黒漆を塗布し、朱漆で絞柄が施される。53は差巻のホゾが台座の表面に現れる「露卯下駄」と呼ばれるものである。座面は長さ14.8cm、幅8.7cmを測る。鼻緒穴の周辺は足指の形に座面が摩耗する。54は薄板状の製品である。縁辺部5か所に紐縫じ孔が確認できる。また、片面には黒漆が塗布されていたような痕跡がみられる。55は桶や樽の底板と思われる厚さ1cm前後の板材である。55は内面に漆が塗布されていたようである。56も円筒状容器の底板と思われる製品で、直径8cmと小径である。板を貫通する形で木釘が残存する。57は箸状製品で、長さ18.2cm、直径0.4cmを測る。表面は細かく面取され、断面形は多角形状を呈する。58は角棒状の部材である。59は直径2cmの円柱状製品で、栓と判断した。表面は刃物により面取される。60はL字形の部材である。表面は細かな面取がなされる。61は小口状の製品で杓子の先端のような形状をしている。62はSE-67から出土した先端に加工痕がある割材で、長さ45cmを測る。表面に加工や調整はされておらず、先端のみ簡単な調整を行いつつとして使用したものではないかと推測する。

c. 金属製品（図版31-63～71）

出土した9点すべて実測し、図版に掲載した。63はSD-18から出土した銅製品である。小片のため不明な点が多いが、復元口径と側面形から銅碗か仏具の鉢と推定した。口径19.6cmを測り、口縁部には4条の平行沈線が巡る。口唇部は玉縁状に肥厚する。64はSK-49から出土した銅製（真鍮か）鋳造品の仏像（僧侶か）である。背面の板状突起には孔径3～4mmの釘穴があり、飾金具と考えている。65はSX-13、66はSD-18から出土した釘と思われる鉄製品で、65は断面円形、66は断面方形を呈する。67～71は鉄滓で、67～70はSD-18・19、71はSE-51から出土した。67の表面には土器片や焼けた粘土が付着している。

d. 錢貨（図版31-72～74）

3E11付近の遺構確認作業中にⅡ層から4枚出土した。このうち1枚は割れてしまつており、判読不可能であった。72は開元通宝（初鑄年621年＝唐錢）、73は祥符元宝（初鑄年1008年＝北宋錢）、74は元豐通宝（初鑄年1078年＝北宋錢）である。

e. 磁石（図版31-63～71）

4点出土しており、いずれも凝灰岩製である。75はSE-99底部から出土したもので、折損する。残存面はすべてよく使われて摩耗する。使用面には擦痕が多数みられ、中砥とした。76・77はSE-25の7層から出土した仕上砥である。いずれもよく使われており、76は磁面の磨耗が激しい。77は磁面の中央に剥離を伴う溝状磁面が形成される。78はSD-18の3層から出土した中砥で、下端が欠損している。平面形は撥形を呈し、先端面以外は磁面となっている。

2. 縄文時代の遺物

a. 縄文土器 (図版 32 ~ 36-79 ~ 226)

出土点数は 4646 点と群を抜いて多い。時期的には中期中葉～後期初頭で、中期のものは少ない。土器型式としては三十稻場・南三十稻場式・馬高式・大木 8b ~ 9 式などが確認できる。土器の胎土は基本的に各型式共通のもので、混和材として径 3mm 前後の泥岩もしくは粉砂土器片を含む。

79 ~ 122 は複元実測した個体と隆線・沈線文土器の口縁部を示した。79 ~ 90 は隆線文の深鉢である。中期中葉～後葉のものと思われ、いずれも複雑に入り組んだ隆線で装飾が施される。隆線のモチーフには渦巻文が多用される。79 は SX-64 から出土した大木 8b 式もしくはその系統と思われる深鉢である。脣部は地文の上に沈線文が施される。器面の摩耗が進み、地文は明瞭ではない。83 ~ 88 は火焔型土器の口縁部突起である。85 は SK-100 から出土したもので、立体的な造形である。胎土は精製された灰白色に近いもので、器面は磨かれている。90 は沖ノ原式と思われる太めの隆線により渦巻文が描出された深鉢口縁部である。

91 ~ 124 は三十稻場・南三十稻場式を主体とする後期初頭の深鉢である。口縁～頸部は隆帯区画の無文帶で、脣部には文様が施される。口縁部に橋状の把手が貼付されるものが目立つ (101・111・112・117)。脣部文様は刺突文・条線文が多用され、刺突は爪形文を鱗状に並べたものが多い。125 ~ 129 は三十稻場式の蓋状土器で、外面は隆帯や刺突文で装飾が施される。

130 ~ 218 は文様や地文がよく確認できるものを示した。沈線文のものは縄文帯を区画するものが多い。条線文は 5 ~ 9 条の横筋状施文具が用いられ、縦位に平行線や波状線を施す。また、条痕文も一定量が確認できる。地文には単節縄文を主体に、撫糸文、無節縄文なども用いられる。大半は三十稻場・南三十稻場式の破片であるが、130・171 は大木 9 式もしくはその系統と思われるもので、細沈線区画の中を単節縄文で充填する。130 は SK-55、171 は SK-74 から出土した。139 はキャリバー状口縁の可能性があり、文様のモチーフには蓮華文が用いられる。中期の所産か。137 は頸部に太い竹管を用いた文様が描かれる。後期の深鉢には口縁部直下もしくは脣部との境に隆帯を貼付し、棒状具の先端を用いたと思われるキザミ (押圧) が施される。

底部分は 7 個部分が図示できた (219 ~ 225)。202 は中期中葉、ほかは後期のものであろう。201・203 は外底面に鐵敷物の圧痕がみられる。

226 は土器片鍾と思われる脣部破片である。焼成が不十分なことによるものか、出土した縄文土器は胎土が脆く断面が磨耗しているものが多く、土器片鍾と確認できたのはこの 1 点のみである。刺突 (爪形) 文土器の脣部破片の端部 2 カ所を切り欠いている。重量は 37.0g である。

b. 石 器 (図版 37・38-227 ~ 266)

出土点数は 44 点 (重量 2515.9g) である。内訳は石礫 1 点・打製石斧 7 点・磨製石斧 7 点・不定形石器 1 点・楔形石器 1 点・砾石錐 23 点で、伐採／掘削具と石錐の点数が多い。以下、器種毎に説明する。

石 繖 (図版 37-227)

227 は P-64 から出土した。石材は青灰色のチャートである。基部がわずかに凹状を呈し、尖頭部側縁が内彎状に膨らむ。

打製石斧 (図版 37-228 ~ 234)

7 点出土したうち、4 点が下半折損している。加工はすべて両面調整であるが、敲打を伴うものが 1 点 (230) ある。228 ~ 231 は、近隣の渋海川流域で産出される粘り強く硬質な珪質頁岩を用いている。228 は SE-54 から出土したもので、安山岩の横長剥片を両面調整によって梯形に仕上げている。下端 (刃部) に使用痕がみられる。229 は SD-18 から出土したもので、横長剥片を両面調整によって梯形に仕上げている。右側面は節理面である。230 は SD-18 から、231 は SK-61 から出土した。いずれも扁平盤を両面調整し短冊形に仕上げたもので、230 は両面調整の後、右側面に敲打を施している。231 は下半部を折損後、刃部再生を行っている。232 ~ 234 は打製石斧の基部である。210 は横長剥片に両面調整を施している。下半は折損する。233 は梢円扁平盤に両面調整を施している。下半は折損

しており、ガジリ痕がみられる。234はSD-18から出土したもので、横長剥片に両面調整を施している。

磨製石斧（図版37-235～241）

7点出土している。石材は213が蛇紋岩、ほかはすべて輝緑岩である。235はSD-65から出土した。短冊形で、蛇紋岩の楕円扁平礫を両面調整の後、研磨によって仕上げている。236は刃部で、上半部は折損する。敲打の後、研磨を施している。237はSE-54から出土した基部である。下半折損しているが、折損後破面に剥離調整を施している。238は下半部が折損する。239はP-106から出土した基部である。下半折損のため形状は不明瞭だが、短冊形の可能性がある。基部先端は丸みを帯び、断面形はやや丸みを帯びた長方形を呈する。240はSK-79から出土した基部である。剥離調整の後、研磨を施しているが、研磨前に敲打を施した可能性がある。下半は折損する。241は磨製石斧未成品である。短冊形で輝緑岩の楕円扁平礫を用いる。加工は側面に敲打、上端に両面調整を施す。刃部が未調整のため未成品とした。

不定形石器（図版37-242）

242はSK-87から出土した不定形石器で、無班晶ガラス質安山岩の横長剥片を素材として用いている。内傾打面と凹状の作業面をもち、打製石斧の調整剥片を利用した可能性がある。

楔形石器（図版37-243）

243は楔形石器である。石英斑岩の扁平礫を用い、線状打面に対して両極の作業面をもつ。

石錐（図版38-244～266）

いわゆる砾石錐と呼ばれるもので、23点出土した。円錐・楕円錐・方形錐などが用いられる。加工は一対の両端のみを打ち欠いたもの、長軸の両端に加え側面も打ち欠いたもの、敲打痕を持つものがある。石材は安山岩が19点と多数を占めるほか、輝緑岩・片岩・凝灰岩などを用いたものが少數みられる。端部は両面調整で打ち欠きを作出したものが多く、周縁部に敲打痕がみられるものも多い。重量は最小8.5、最大165.5gであるが、主体をなすのは100g以下のものである（平均は59.2g）。

VI 調査所見

先に述べたように、久保田遺跡は縄文時代後期初頭の集落として既知の遺跡であり、当該期の集落調査を目的に作業を開始したが、結果的に検出した遺構の大半は中世の所産であった。一方、出土した土器の大半は從来から知られているとおり後期初頭の三十稻場式・南三十稻場式土器であり、中世遺物は井戸や溝をはじめとする遺構から少量が出土したに過ぎない。以下、時代別に調査所見を述べる。

1. 中世

a. 遺構の概観

当該期の遺構はピット 396 基、土坑 14 基、井戸 13 基、溝 12 条、不整形土坑 2 基で、このほか調査中に 1 棟、整理段階で 19 棟の掘立柱建物とピット列 5 組を抽出した。遺構の分布状況は SD-18・19 の近辺に集中する傾向があり、中でも 3G・4F・4H グリッドに濃密な分布が認められる（図版 2 参照）。建物の方位は SD-18・19 を基軸としており、SD-18・19 は土地区画を目的に設けられたものと考える。溝自体は近世にはほぼ埋まってしまうが、IV 章で述べたように、SD-18 がクランク状に屈曲し南西に向かう部分の延長は現在も地境となっており、中世の土地区画が継承されていることがわかる。溝の北側延長部分は当初、沢が耕作土で埋没した部分と捉えていたため満足な調査ができず、溝の延長については不明な点が多い。ただし、直交する SD-11 も区画溝の役割を担っており、SD-11 に接続する形で SD-18・19 が終わっている可能性は高い。ちなみに、SD-11 から SD-18 の屈曲部分までの距離は芯々で約 23 m である。

b. 掘立柱建物の構成と変遷について

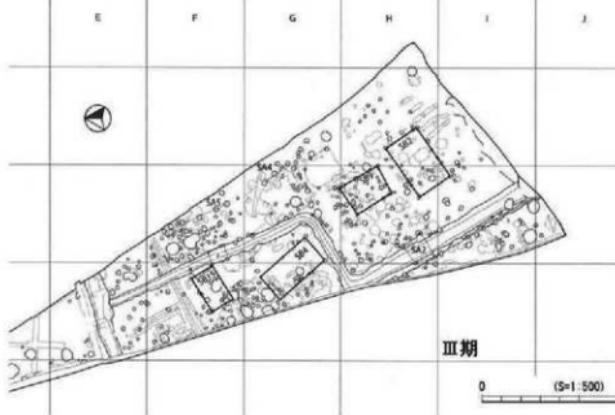
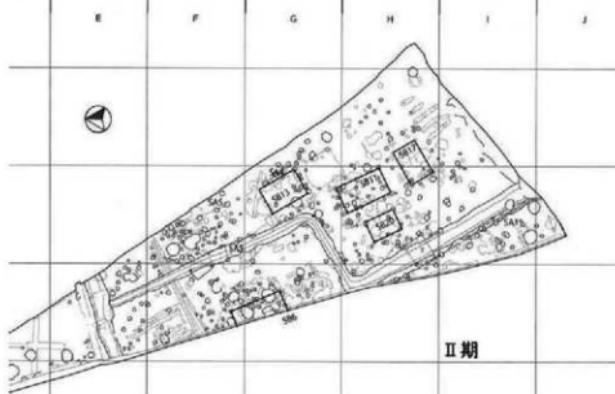
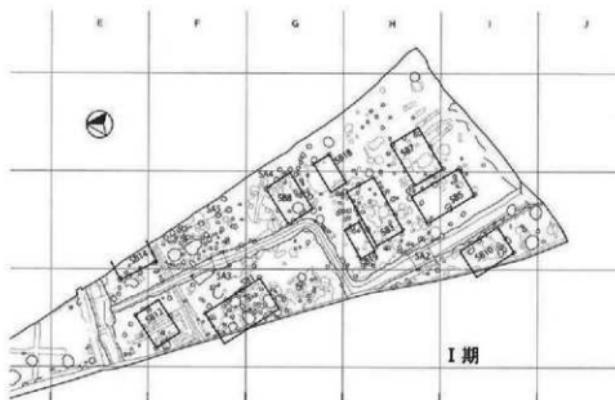
調査中は 1 棟（SB-5）しか復元することができなかつたが、整理作業の段階で掘立柱建物 19 棟とピット列 5 組を抽出した。建物の規模は桁行 2 間×梁行 1 間が主体的で、柱間や柱筋が不揃いなものも多い。また、建物方位の点でこれらと相關関係が窺えるものは、1 間四方のものでも建物として提示した。

縄文時代から近世に渡る建物研究の第一人者である宮本長二郎氏によれば、「梁間 1 間型住居」は縄文時代中期に発生する建物型式で、中世に入ると総柱型建物と並ぶ主要建物型式となるらしい〔宮本 1999〕。

梁間 1 間型の建物には、本遺跡のような身舎のみの場合と、側面に半間程度の間隔で下屋をもつものがある。梁間 1 間といつても桁行が 5 間以上にもなる大型建物もあり、一面～四面に下屋をもつものも多いらしい。総柱型建物を主屋として、腰や雑舎などの副屋に梁間 1 間型建物が使われる例が多く、室町時代に入るとそのような「複合型集落」は増加するらしい〔宮本前掲〕。本遺跡では中柱をもつものはあっても総柱型の建物は存在しないようであるし、建物規模も桁行 3 間が最大で身舎のみの構成と、雑舎や腰に供されるような簡素なものばかりである。建物の検討中に大型建物を抽出すべく色々なピット配列を探ってみたが、少なくとも掘立柱建物としては 3 間以上のピット配列は検出できなかった。出土遺物には少量ではあるものの早い段階から舶載陶器やカワラケが含まれており、そのような器を使用もしくは所持できる階層が生活する場所であった可能性は高く、調査区一帯は雑舎や井戸、土坑などが配置される場所であったものと考える。

検出した建物には、建て替えと推察される近接もしくは同一地点での重複例があり、特に遺構密集地点の一つである 4H グリッドで顕著に確認できる。ほかの密集地点では井戸が複数伴うがこの地点ではなく、建物配置の上で中核的な部分であった可能性が高い。重複する建物にはわずかな軸方位のズレがあり、建物方位を基に建物群の構成と変遷を推察してみた（第 6 図）。

まず、最初に復元し最もピット配置が整然としている SB-5 を基準に、同一方位の建物をセットとして捉えたのが 1 期建物群である。この段階のものは SD-19 とほぼ同一方位で配置される。近接する建物同士の間隔は狭く、SB-3



第6図 捜立柱建物変遷図

と 19 は軒先が接するほど接近する。SD-19 を挟んだ対岸の SB-10 は、溝に沿った塀もしくは柵と捉えている SA-1 と重複するため、南側に近接する SE-54 と関連する塀もしくは柵の可能性も考慮したい。橋脚に伴うビット列と考えた SA-2 は、ちょうど SB-3 と 5 の間にできた空閑地の延長に作られており、空閑地が道路であった可能性が窺える。SD-18 西岸にも同じ方位の建物が 2 棟確認でき (SB-1・12)、目前の SD-19 との関連性の低さから当該期に属する建物に含んだ。

2 期の建物群に想定したのは、1 期よりわずかに (5° 前後) 東を向いた、SD-19 を意識したような方位の建物群である。1 期より建物数はやや減少するが、建物規模はほとんど変化しない。SA-5 も同一方位であり、本期に含めた。

3 期とした建物群は、今度は 1 期よりもやや西を向く建物で構成される。建物数は更に減少し、確実なのは SB-2・9 の 2 棟のみとなる。SB-2 に関しては、同一地点で重複する 3 棟のうちで最も規模が大きい。

以上、掘立柱建物について構成と変遷を考えてみた。複数の建物が同一のビットを共有するという点や、井戸や土坑との関連性など解決できない問題は多いが、少なくとも建物に関してはおおよそ実態を反映するものと考えている。ただし、形態的に主屋と位置づけられるような建物、すなわち、廻もしくは下屋をもつ建物が調査区内には存在せず、遺跡の性格を考える上で有効な建物のセット関係を窺えなかったのは残念である。推測の域を出るものではないが、SA-1 以東には SD-18 の方位と対応する区画が存在することが航空写真で判明しており、この範囲をはじめとする調査区周辺にかかる建物の存在が期待される。

c. 出土遺物

出土遺物のうち最も古いと思われるは SE-25 から出土した 12 世紀後半の割文青磁碗だが、12 世紀代まで遡る遺物はこの 1 点のみである。出土したかわらけには手づくね成形品 (以下、T 種) とロクロ糸切り成形品 (以下、R 種) があり、ロクロヘラ切り成形品 (RH 種) は確認できない。V 章で述べたように、T 種のものは 13~14 世紀代、R 種のものは 14 世紀後葉~15 世紀前半代と時期的に隔たりがある。

T 種大型品は、総じて下沖北遺跡 SK455 の出土資料に形態・法量の両面で類似するものである。SK455 出土資料は、供伴遺物の年代観とかわらけの形態や調整方法の特徴などから水澤氏は 14 世紀半ばに位置づけており、本遺跡の T 種大型品 (図版 27-6 ~ 10) も同様の年代観で捉えたい。図版 27-5 は形態が比較的端正で体部と底部の境も屈曲して稜が立つタイプである。下沖北遺跡では SK86 出土資料にこれに類似する個体が含まれている。

一方、R 種かわらけは 14 世紀代までのものが内湾ぎみに立ち上がる体部とやや深めの器形を呈するのに対し、本遺跡の一群は総じて体部の立ち上がりが直線的で外反ぎみに立ち上がり、器高は低めで扁平なプロポーションである。図版 27-15・16 は、出土した SE-6 供伴遺物の珠洲片口鉢と瀬戸灰釉碗の年代観から 14 世紀後葉~15 世紀前半に比定されるもので、ほかの R 種もこれと前後する時期のものと考えられる。

こうした遺物の年代をもとに遺構の存続期間をまとめたのが第 2 表である。これをみると各遺物が出土するのは珠洲 IV 期頃 (14 世紀初頭~後半) であり、この頃までは沢状部分は埋められて SE-6 ~ 8 なども掘られているものとみられる。沢状部分から出土した年代判別が可能な遺物は前述した T 種くらいしかなく、下沖北遺跡 SK86 出土資料を 13 世紀第 3 四半期と捉える水澤氏の年代観を援用して、沢状部分は 13 世紀第 3 四半期~14 世紀半ば頃の間に埋められたものと考えたい。

2. 繩文時代

a. 遺構の概観

遺構確認面は浅いところでは現地表から 20cm ほどしかなく、現代の耕作による搅乱が広く遺構確認面に及んでいる。耕作土中に繩文土器が多く含まれていることから相応の影響は受けているのだろうが、フラスコ状土坑をはじめとする遺構の残存状況から判断して、後世の開発や耕作によって失われた繩文時代の遺構はそれほど多くはないと考える。少なくとも竪穴住居が存在した跡は窺えない。

検出した当該期の遺構はすべて土坑で、その多くはフラスコ状土坑である。フラスコ状土坑は 4H グリッドと 5H グリッドの狭い範囲 2か所に集中して検出され、重複するものも存在する。覆土は総じて地山の V 層や IV 層が多量に

遺構名	遺物種類	遺物番号	時期										備考	
			12c後	13c前	13c中	13c後	14c前	14c中	14c後	15c前	15c中	15c後	16c前	
SE67	土師質土器皿T	1												
	土師質土器皿T	2・9												
SD18・19	土師質土器皿R	17												
	珠淵片口鉢	28・32・31					IV	IV	IV・V	V				32±1前か
	珠淵甕	33・45・48												
地窓5層	土師質土器皿T	5												
	土師質土器皿T	4												
SD11	土師質土器皿R	11・14												
	瀬戸灰釉碗	22												
	珠淵甕	35・44	I	I・II	II									
	珠淵片口鉢	27・29							V	V				
	土師質土器皿R	15・16												
SE6	瀬戸灰釉碗	24												
	青磁碗	18												
	珠淵片口鉢	30							V	V				
	珠淵甕	46												
	珠淵甕・壺	39												
	珠淵甕	41												
SE7	青磁折縁盤	20												
	土師質土器皿T	3												
SE25	青磁碗	19												
	珠淵甕	40												
SE26	土師質土器皿T	6												
	珠淵片口鉢	26					IV	IV	IV					
SE99	土師質土器皿T	7												
SK63	珠淵片口鉢	25												
SE51	珠淵甕	38												
SX50	珠淵甕	42												
SE73	珠淵甕	47												

第2表 中世遺構変遷表

含まれるもので、粘質土の特徴からか硬くしまって遺構壁との区別が難しいものもみられた。SX13・17からは共に土器が多量に出土した。竪穴住居の可能性を考えて調査を開始したが、遺構の形態や覆土の特徴などから最終的に倒木痕か木根による擾乱と判断した。

b. 遺物の概観

出土遺物には三十稻場式・南三十稻場式土器のほかに、中期後葉の馬高式（火焰）土器や大木8b～9式土器、石獣、打製石斧、磨製石斧、不定形石器、楔形石器、疊石錐などがある。石器は疊石錐と石斧類が占められ、ほかは各1点のみである。打製石斧の石材には近くを流れる渋海川流域で産出される良質の珪質頁岩が好んで使われている。磨製石斧には刃部が欠損したものが多くみられ、この付近に遺物の廃棄域が形成されていた可能性を窺わせる。疊石錐は概して長辺と短辺の比率が2:1程度の扁平長方(円)形石材が選ばれているようである。紐もしくは紐を掛けるための打ち欠きは、大型品では長辺端部、小型品では長辺・短辺両方の端部に打ち欠きを作出するものが多い。小型品の重量は8.5～46.7gと漁網には軽すぎる印象がある。

第3表は出土遺物を伴う遺構と遺物の時期をまとめたもので、SK-81・84・86・100では中期後葉の土器しか出土していない。SK-100のように出土遺物が火焙土器の口縁部突起1点のみといったものもあり、精度の高いものとは言えないが、中期後葉段階から遺構を伴う活動が行われていたことを示唆するものといえよう。なお、本調査では確認されなかったが、柏崎市史考古篇36久保田遺跡では、出土遺物に後期中葉の三仏生式土器が出土したことが報告されており、これらが久保田遺跡の縄文時代における下限時期を示しているものとみられる。

遺構名	時期	
	中期中葉	後期前葉
SK74		
SK75		
SK79		
SK81		
SK84		
SK86		
SK87		
SK89		
SK100		
SX13		
SK17		
SK64		

第3表 縄文遺構変遷表

3.まとめ

以上、みてきたように、久保田遺跡では縄文時代後期中葉に遺構群が出現し、後期中葉まで存続することがわかった。ただし、今回の調査で出土した後期の土器は三十櫛場・南三十櫛場式期までの時期にはほぼ限られるようであり、後期前葉以降、集落は衰微する方向にあるようである。住居は検出されず集落の実体は不明であるが、遺跡地の地形は周囲を河川によって浸食されて小規模な独立丘となっており、周辺部に住居が存在する可能性が高い。次に久保田遺跡が生活の場として利用されるのは、中世に入ってからとなる。出土遺物からみる限り、12世紀後半代という比較的早い段階に活動を開始したものとみられ、当初は自然地形をうまく活用しながら集落を形成していったものとみられる。鯖石川中流域（現在の北条・南条・加納・長島あたり）には、12世紀前半頃までに皇室領佐橋荘が成立すると考えられており〔荻野 1986〕、佐橋荘成立を契機として活発化したこの地域の開発活動の一端に中世久保田遺跡の成立も含まれるのだろう。また、そこには遺跡地が関東方面から山を越えて岩室に到り、鯖石川流域に沿って柏崎平野に向かう当時の交通における要所であったことも大きいと想われる。久保田遺跡の活動が本格化するのは、遺物の年代からみて14世紀に入ってからと考えられる。具体的な事例は発見できなかったが、この時期にはかわらけを用いた豪宴などが行われた可能性があり、かかる階層の人物の生活場所もしくは領域だったものと推測できる。鯖石川を挟んだ西側の丘陵部には石曾根城という山城があり、毛利氏一門石曾根氏との関連が注目される。

《引用・参考文献》

- 小野正敏 2001『図解・日本の中世遺跡』東京大学出版会
- 柏崎市教委 2001『宮之下遺跡群』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第35集)
- 柏崎市教委 2013『下境井』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第73集)
- 柏崎市教委 2015『上原』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第78集)
- 柏崎市教委 2015『善根大坪』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第79集)
- 柏崎市教委 2015『柏崎市の遺跡24』(柏崎市埋蔵文化財調査報告書第80集)
- 柏崎市史編さん委員会 1987『柏崎市史資料集 考古篇』第1・第2 柏崎市史編さん室
- 新潟県 1986『新潟県史』通史編1原始・古代 新潟県
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2003『下沖北遺跡I 一般国道8号柏崎バイパス関係発掘調査報告書II』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第125集)
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団 2011『古渡路遺跡 日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XX XVI』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第221集)
- 藤沢良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 水澤幸一 2009『日本海流通の考古学—中世武士団の消費生活—』高志書院
- 宮本長二郎 1999「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間—閑口欣也先生退官記念論文集—』閑口欣也先生退官記念論文集刊行会
- 村山教二ほか 1990「中世」『柏崎市史 上巻』柏崎市史編さん室
- 山本信夫 2000『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編一』(太宰府市の文化財第49集)
- 吉岡康暢 1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 春日真実 2009「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学II』新潟県考古学会

附表1 道耕計測表

No.	地番	アリット	面積	面積	面積	面積	面積
001	P-2522	内田	17ヘク	0.0m	0.0m	70cm	44.2m
002	P-2524	内田	17ヘク	28cm	30cm	31cm	44.7m
003	P-2524	内田	17ヘク	28cm	27cm	16cm	44.1m
004	P-2524	内田	17ヘク	46cm	46cm	32cm	44.2m
005	P-2524	内田	17ヘク	45cm	46cm	32cm	44.2m
006	S-2915+20	内田	17ヘク	151cm	125cm	185cm	42.5m
007	S-2916+21	内田	17ヘク	114cm	114cm	90cm	42.5m
008	S-2520+21	内田	17ヘク	175cm	11cm	208cm	42.5m
009	S-266+11	内田	17ヘク	61cm	50cm	50cm	42.7m
010	S-26	内田	17ヘク	340cm*	90cm	10~26cm	44.9m(1)~11.1m(2)
011	S-29+20	内田	17ヘク	340cm*	139cm*	20~40cm	44.7m(1)~11.1m(2)
012	S-29+21	内田	17ヘク	340cm*	131cm*	5~20cm	44.15m(1)~15.2cm(2)
013	S-28+21+22	内田	17ヘク	300cm*	100cm*	10~10cm	44.17m(1)~10cm(2)
014	S-28+21+22	内田	17ヘク	100cm*	100cm*	90cm*	44.52m
015	S-28+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
016	S-28+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
017	S-28+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
018	S-29+20	内田	17ヘク	—	—	—	—
019	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
020	P-253	内田	17ヘク	—	—	—	—
021	P-2519	内田	17ヘク	—	—	—	—
022	S-2619	内田	17ヘク	—	—	—	—
023	S-2619	内田	17ヘク	—	—	—	—
024	S-2619	内田	17ヘク	—	—	—	—
025	S-2619	内田	17ヘク	—	—	—	—
026	S-2619	内田	17ヘク	—	—	—	—
027	P-3222+23	内田	17ヘク	—	—	—	—
028	P-3223	内田	17ヘク	—	—	—	—
029	P-3223+24	内田	17ヘク	—	—	—	—
030	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
031	P-3223+24	内田	17ヘク	—	—	—	—
032	P-3223+24	内田	17ヘク	—	—	—	—
033	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
034	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
035	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
036	P-3223	内田	17ヘク	—	—	—	—
037	P-3222+23	内田	17ヘク	—	—	—	—
038	P-3223	内田	17ヘク	—	—	—	—
039	P-3223+24	内田	17ヘク	—	—	—	—
040	P-3223+24+25+26	内田	17ヘク	—	—	—	—
041	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
042	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
043	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
044	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
045	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
046	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
047	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
048	P-3224	内田	17ヘク	—	—	—	—
049	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
050	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—
051	S-29+21+22	内田	17ヘク	—	—	—	—

No.	種別	タグ	年季	頭形	通題方尺	通題(㎝)	頭形(㎝)	通題高さ(㎝)	番号
106	P	01018	初年	1-18	1-18	20.8	20.8	45.1cm	
107	P	50017-18-22+23	成年	1-18	1-18	4.4cm	35.7cm	38.0cm	45.2cm
108	S	501+9	兩丸目	1-18	1-18	4.4cm	35.7cm	45.3cm	50.067/047
109	P	50012	成年	1-18	1-18	4.4cm	35.7cm	45.3cm	S393/P06
110	P	503+9	成年	1-18	1-18	4.4cm	35.7cm	45.3cm	
111	SQ	503+9	成年	1-18	1-18	38.8cm	39.8cm	44.75cm	44.8cm
112	SQ	503+20	成年	1-18	1-18	39.0cm*48.7cm	39.8cm	44.85cm	45.8cm
113	SQ	502+22	成年	1-18	1-18	39.0cm*48.7cm	39.8cm	44.85cm	45.8cm
114	P	303+9	成年	1-18	1-18	40.0cm	35.8cm	43.7cm	50.386/0113
115	SX	302+15	成年	1-18	1-18	40.0cm	40.0cm	44.0cm	
116	P	401+11	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
117	P	5111	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
118	P	402+11	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
119	P	4010/5036	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
120	P	4012+3	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
121	P	4003	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
122	P	4021/0111	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
123	P	4017+9	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
124	P	403+1+9	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
125	P	401+1	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
126	P	40113	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
127	P	40114	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
128	P	40110+15	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
129	P	30123	成年	1-18	1-18	40.5cm	36.5cm	44.2cm	
130	SQ	25+30	---	---	---	24.8cm	24.8cm	43.7cm	
131	P	251+9	成年	1-18	1-18	35-40+4	50.5cm*70-100cm	52.5cm	44.05cm
132	P	251+9	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
133	P	3014+9	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
134	P	3016	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
135	P	3015	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
136	P	3015	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
137	P	306	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
138	P	308	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
139	P	309+7+11+12	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
140	P	3021	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
141	P	2022	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
142	P	307+2	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
143	P	302	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
144	P	307+7	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
145	P	2023/2023	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
146	P	308	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
147	P	304	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
148	P	309	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
149	P	309	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
150	P	3018	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
151	P	2017	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
152	P	303	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
153	P	2012	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
154	P	3014	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
155	P	2014	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
156	P	2013	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
157	P	2018+19	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
158	P	3018	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm
159	P	3018	成年	1-18	1-18	35.8cm	25.8cm	28.0cm	44.5cm

No.	種類	登録番号	新規登録	監査登録	監査区分	監査回数	監査日付	監査回数	監査日付	監査回数	監査日付
160	P	3617	門形	門形	門形	25回	25回	15回	15回	15回	15回
161	P	3617	門形	門形	門形	17回	30回	15回	45回	15回	45回
162	P	3617	門形	門形	門形	17回	22回	17回	29回	45回	21回
163	P	3617	門形	門形	門形	17回	22回	15回	45回	15回	45回
164	P	3618	門形	門形	門形	17回	30回	25回	29回	45回	29回
165	P	3618	門形	門形	門形	17回	30回	15回	45回	15回	45回
166	P	3619 - 24	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	25回	32回	25回	30回	45回	17回
167	P	3618 - 23	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	25回	32回	16回	26回	45回	16回
168	P	3623	門形	門形	門形	17回	21回	21回	52回	45回	28回
169	P	3623	門形	門形	門形	17回	26回	24回	44回	45回	17回
170	P	3623	門形	門形	門形	17回	40回	40回	88回	44回	56回
171	P	3624	門形	門形	門形	17回	32回	26回	55回	45回	34回
172	P	3624	門形	門形	門形	17回	32回	59回	65回	45回	59回
173	P	3624	門形	門形	門形	17回	32回	58回	65回	45回	58回
174	P	3624	門形	門形	門形	17回	32回	58回	65回	45回	58回
175	P	3624	門形	門形	門形	17回	32回	58回	65回	45回	58回
176	F	3924	門形	門形	門形	17回	36回	36回	38回	45回	14回
177	F	3924 - 26	門形	門形	門形	17回	44回	40回	47回	45回	29回
178	F	3924	門形	門形	門形	17回	25回	26回	40回	45回	29回
179	F	3924	門形	門形	門形	17回	25回	27回	27回	45回	29回
180	P	3614	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	25回	32回	46回	45回	32回
181	P	3615	門形	門形	門形	17回	25回	27回	36回	45回	32回
182	P	3614	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	25回	18回	18回	45回	18回
183	P	3614	門形	門形	門形	17回	25回	44回	44回	45回	34回
184	P	3613	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	18回	16回	31回	45回	17回
185	P	3614	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	25回	36回	45回	45回	34回
186	P	3614	門形	門形	門形	17回	18回	18回	31回	45回	18回
187	P	3614 - 9	門形	門形	門形	17回	25回	36回	46回	45回	34回
188	P	3613	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	18回	18回	31回	45回	18回
189	P	3614 - 5	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	25回	36回	46回	45回	34回
190	P	3613	門形	門形	門形	17回	18回	18回	31回	45回	18回
191	P	461	門形	門形	長尺形	17回	67回	35回	35回	35回	37回
192	P	3615 - 9	門形	門形	門形	17回	26回	31回	46回	45回	29回
193	P	3615	門形	門形	門形	17回	47回	47回	48回	45回	36回
194	P	3619	門形	門形	門形	17回	26回	30回	45回	45回	37回
195	P	3619 - 14	門形	門形	門形	17回	36回	36回	37回	45回	44回
196	P	3614	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	26回	30回	34回	45回	32回
197	P	3614 - 15	門形	門形	門形	17回	41回	44回	53回	45回	48回
198	P	3615	門形	門形	門形	17回	26回	25回	36回	45回	30回
199	P	3615	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	30回	31回	38回	45回	30回
200	P	3615 - 20	門形	門形	門形	17回	42回	43回	45回	45回	42回
201	P	3615	門形	門形	門形	17回	26回	31回	46回	45回	36回
202	P	3619	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	41回	41回	46回	45回	41回
203	P	3619	門形	門形	門形	17回	34回	34回	36回	45回	36回
204	P	3619 - 20	門形	門形	門形	17回	30回	31回	46回	45回	40回
205	P	3626	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	26回	26回	36回	45回	30回
206	P	3626	門形	門形	門形	17回	26回	26回	36回	45回	30回
207	P	3626	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	26回	26回	36回	45回	30回
208	P	4621	門形	門形	門形	17回	42回	43回	46回	45回	42回
209	P	3625 - 95	門形	門形	門形	17回	69回	69回	70回	45回	69回
210	P	4621 - 49H	門形	門形	門形	17回	69回	44回	31回	45回	52回
211	P	461	門形	門形	門形	17回	40回	30回	38回	45回	37回
212	P	461	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	35回	35回	45回	45回	35回
213	P	3601	鋼矢板	鋼矢板	鋼矢板	17回	36回	36回	37回	45回	37回

No.	種別	ダーツ	品番	所持部	運搬部	保管部	販売部	販送部	備考
214	P	401・2	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
215	P	401	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
216	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
217	P	401・6	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
218	P	400	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
219	P	400	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
220	P	400	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
221	P	400	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
222	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
223	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
224	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
225	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
226	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
227	P	401	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
228	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
229	P	401	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
230	P	401・2	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
231	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
232	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
233	P	401・2	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
234	P	401	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
235	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
236	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
237	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
238	P	401	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
239	P	401	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
240	P	402	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
241	P	402	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
242	P	402	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
243	P	402	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
244	P	402	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
245	P	402	柱形	半径	半径	半径	半径	半径	半径
246	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
247	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
248	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
249	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
250	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
251	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
252	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
253	P	410・17	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
254	P	410・17	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
255	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
256	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
257	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
258	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
259	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
260	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
261	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
262	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
263	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
264	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
265	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
266	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径
267	P	410	円筒	半径	半径	半径	半径	半径	半径

No.	標題	類別	圖面編號	圖面尺寸	圖面尺寸	圖面尺寸	圖面尺寸	圖面尺寸
268	P-471	門板	門板	177x22	25x20	25x20	16x20	15.5x14
269	P-575	門板	門板	177x22	25x20	21x20	21x20	14.5x16
270	P-575	門板	門板	177x22	16x20	16x20	21x20	15.5x16
271	P-575	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	15x20	15.5x16
272	P-472	門板	門板	177x22	25x20	25x20	22x20	14.5x16
273	P-472+7	門板	門板	177x22	16x20	16x20	22x20	14.5x16
274	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	15x20	15.5x16
275	P-472	門板	門板	177x22	25x20	25x20	22x20	14.5x16
276	P-472	門板	門板	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
277	P-472+8	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
278	P-479	門板	門板	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
279	P-477+9	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
280	P-651+5+10	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
281	P-472	門板	門板	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
282	P-472	門板	門板	177x22	25x20	26x20	21x20	14.5x16
283	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
284	P-471+12	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
285	P-471+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
286	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
287	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
288	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
289	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
290	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
291	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
292	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
293	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
294	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
295	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
296	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
297	P-471	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
298	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
299	P-471+3	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
300	P-471+2	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
301	P-471+2	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
302	P-471+7	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
303	P-471+17	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
304	P-471+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
305	P-471+22	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
306	P-471+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
307	P-471+17	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
308	P-471+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
309	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
310	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
311	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
312	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
313	P-471	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
314	P-471+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
315	P-471+22	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
316	P-372	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
317	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
318	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
319	P-472	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
320	P-472+22	鋼丸刀盤	鋼丸刀盤	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16
321	P-472+22	門板	門板	177x22	16x20	16x20	25x20	15.5x16

No.	種別	アーティスト	原題	翻訳題	監修方針	監修者	監修年数(年)	監修冊数(冊)	監修面積(㎡)	監修面積(㎡)	監修面積(㎡)
323	P	4722	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
323	P	3679	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
324	P	3679	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
325	P	4716	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
326	P	4716	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
327	P	4716・21	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
328	P	4721	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
329	P	4728	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
330	P	4612・14	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
331	P	4612	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
332	P	4612	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
333	P	4612・14・19	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
334	P	4612・14・19	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
335	P	4612	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
336	P	4610・15	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
337	P	4610・15	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
338	P	4610	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
339	P	5611	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
340	P	5611	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
341	P	5611	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
342	P	5611・16	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
343	P	5612	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
344	P	5616	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
345	P	5616	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
346	P	5623	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
347	P	6112・12	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
348	P	6122	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
349	P	6122	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
350	P	6127	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
351	P	6128・19	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
352	P	6129	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
353	P	6131・15	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
354	P	6134	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
355	P	6134	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
356	P	6215	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
357	P	6215	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
358	P	6220	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
359	P	6220・20	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
360	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
361	P	6223・24	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
362	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
363	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
364	P	6223・25	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
365	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
366	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
367	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
368	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
369	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
370	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
371	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
372	P	6223・23	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
373	P	6223	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
374	P	6223・24・25・26	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
375	P	6224	原作	原作	原作	原作	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

No.	標號	产地	平均體長	最短體長	最高體長	頭長(%)	頭寬(%)	頭高(%)
430	P-43025	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
431	P-43026	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
432	P-4314	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
433	P-4315	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
434	P-4316	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
435	P-4317	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
436	P-4318	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
437	P-4319	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
438	P-4320	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
439	P-4321	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
440	P-4329	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
441	P-4330	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
442	P-4331	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
443	P-4332	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
444	P-4333	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
445	P-4334	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56
446	P-4335	南澳	17.28	17.28	20.08	20.08	45.56	45.56

表2 堀立柱建物・ビルト列計測表

附表3 遺物觀察表（中世土器類）

胎土中に含まれる鉱物や混和材（磁鉄土器）などの含有量は、以下の記号で表した。

◎：多量 ○：やや多量 △：少量 *：微量

No.	遺物	アリーナ	層位	種類	形態	口径	底径	高さ(cm)	容積	特徴	内面	外側	胎土	備考
1	S557	4124	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(7.6)	—	1.8	118ml～底部に5cm幅(7.3)307(4)	斜底ナメ	底面ナメ、底部無釉面	斜底	粘土	
2	S518	—	1	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(8.6)	0.9	1.4	口縁～底部 磁(0.9W/6)	底部～底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面		
3	S525	466	2	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(10.3)	—	1.6	118ml～底部 磁(0.5W/4)	底部～底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
4	S501	3613	2	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(11.0)	—	2.7	118ml～底部 磁(0.5W/7.4)	底部～底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
5	—	2022	地質部	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(11.2)	—	3.2	118ml～底部 磁(0.5W/7.2)	底部～底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
6	S525	#11	8	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(12.2)	—	2.6	118ml～底部 磁(0.9W/4)	底部～底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
7	S509	520	地質	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(12.6)	—	3.7	118ml～底部 磁(0.9W/6)	底部ナメ、ヨコナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
8	—	461	地質	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(12.6)	—	—	118ml～底部 磁(0.9W/6)	底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
9	S519	65	2	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(12.6)	—	0.2	118ml～底部 磁(0.5W/6)	底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
10	—	202	日付	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(13.6)	0.2	118ml～底部 磁(0.5W/7.2)	底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△			
11	S501	3616	1	上地質土器部	下桶	14.5cm高さ	(13.6)	—	1.1	118ml～底部 磁(0.9W/4)	底部ナメ、足込木輪脚	底部ナメ、足込木輪脚△		
12	—	2021	脚付	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	—	(6.6)	0.9	118ml～底部 磁(0.9W/10)	底部ロコナメ	底部ロコナメ、底部無釉面△		
13	—	2012	脚付	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	—	(6.6)	0.9	118ml～底部 磁(0.9W/4)	底部ナメ	底部無釉面△	斜底、粘土	
14	S511	3513	■筒	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	(10.4)	—	(2.0)	118ml～底部 磁(0.9W/4)	底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△		
15	S506	2020	T	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	(10.6)	—	2.3	118ml～底部 磁(0.9W/4)	底部ナメ	外底ナメ	底部無釉面	
16	S526	2020	筒付	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	(10.6)	—	2.6	118ml～底部 磁(0.9W/6)	底部ナメ	外底ナメ、底部無釉面△	内底スコットボウ（一 次地をも受けている）	
17	S508	—	1	上地質土器部	R桶	14.5cm高さ	(12.3)	—	(2.5)	118ml～底部 磁(0.9W/7)	無釉面	底部無釉面、斜底		
18	S55	2020	1	筒付	筒	14.5cm高さ	(16.4)	—	(0.9)	118ml～底部 磁(0.9W/1)	底部の施釉	底部の施釉	直入丸窓	
19	S525	466	7	筒付	筒	14.5cm高さ	(16.4)	—	(2.4)	118ml～底部 磁(0.9W/1)	底部～底部	底部～底部	直入丸窓	
20	S527	207	4	内凹	筒	14.5cm高さ	(16.8)	—	(1.2)	118ml～底部 磁(0.9W/1)	体出～腹出	体出～腹出	底部無釉面	
21	—	2017	口縁	内凹	筒	14.5cm高さ	—	4.6	(1.1)	体部～底部 磁(0.9W/2)	斜底へケズリ～底部無釉面	斜底へケズリ～底部無釉面	斜底	施釉、△
22	—	2011	田代	筒付	筒	14.5cm高さ	(11.8)	—	(1.8)	118ml～底部 磁(0.9W/2)	ナメ～底部	ナメ～底部	直入丸窓	二次地をも受けている 可動部がある
23	S511	3616	1	筒付	筒	14.5cm高さ	(12.8)	—	(2.4)	118ml～底部 磁(0.9W/1)	ナメ～底部	ナメ～底部	直入丸窓	
24	S506	2020	7	筒付	筒	14.5cm高さ	(16.8)	—	(6.0)	118ml～底部 磁(0.9W/2)	ナメ～底部	ナメ～底部	直入丸窓	—
25	S503	6108	筒付	底付	筒	14.5cm高さ	—	—	—	118ml～底部 磁(0.9W/1)	ロタロナメ	白色施釉、手縫・ 内底無釉面		
26	S526	471	8	脚付	筒	14.5cm高さ	(28.6)	—	(8.3)	118ml～底部 磁(0.9W/3)	ロタロナメ	小窓・ 底部無釉面		
27	S511	3613	2	筒付	筒	14.5cm高さ	半球	—	—	118ml～底部 磁(0.9W/1)	ロタロナメ	白色、自然施釉、小窓・ 手縫・ 内底無釉面		
28	S504	—	3	筒付	筒	14.5cm高さ	(28.6)	(8.2)	118ml～底部 磁(0.9W/2)	ロタロナメ	白色、自然施釉、小窓・ 手縫・ 内底無釉面			

No.	品名	規格	単位	総数	箱数	箱積	口数	通関	荷役仕様	荷役	色調	内面	調査・文書	外観	施工	備考
29	3911 元	10 長押	片口付	11箱	11箱	11箱	11(3)	通関	通関(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿	無	無	V面		
30	596 2020	7 長押	片口付	11箱	11箱	11箱	11(4)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿	無	無	V面		
31	5019 3024	1 戴頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
32	5018 4113	2 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
33	5019 4113	2 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
34	— 2011	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿	無	無	V面		
35	5011 3612	2 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
36	— 2022	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
37	— 3612	墨頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
38	5031 3623	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
39	5036 —	~下付	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿	無	無	V面		
40	5025 4116	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
41	3326 —	墨頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
42	5020 3721	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
43	— 2020	墨頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
44	5011 3613	2 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
45	5018 4119	3 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
46	5006 3700	7 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
47	5023 5023	戴頭	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
48	5011 3619	3 戴頭	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
49	5006 3700	1 古代芯	片口付	15箱	15箱	15箱	15(3)	通關	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
50	5011 3619	2 古代芯	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	
51	5018 4124	3 古代芯	棒	中空	—	—	—	通關~底通	通關(106/1)	通關(106/1)	白色系、小綿△	無	無	V面	内面にターボ化粧板仕上げ	

表4 遺物整理表(木製品)

遺物觀察表（金屬製品）

表6 造物觀察表（錢貨）

项目	品种	播种期	播量	苗床		播种量	出苗率	幼苗数	移植量	移植株距	密度(株/m ²)	地势
				播种量	出苗量							
育苗	72	3月12日	1kg	10kg/m ²	10kg/m ²	0.5kg	25.5%	25.5	25.0	7.5cm	1.8	2.9
定植	73	3月12日	1kg	10kg/m ²	10kg/m ²	0.5kg	100.0%	24.5	24.5	6.5cm	6.1	2.4
管理	74	3月12日	1kg	10kg/m ²	10kg/m ²	0.5kg	100.0%	24.5	24.5	6.5cm	6.1	2.4
总耗	75	3月12日	1kg	10kg/m ²	10kg/m ²	0.5kg	100.0%	24.5	24.5	6.5cm	6.1	2.4

表7 遺物観察表(砥石)

附表8 遺物觀察表（繩文土器）

胎土に含まれる主な無機物や鉱物質（磁鐵土鉱）などの種類と含有量は、以下の略号・記号で表した。

加.・遺物	アリヤ*	層位	断面	縦幅	横幅	口徑	底径	壁厚	底面	表面形状	備考
79	S004	4124	出土	直井	9.9	(9.8)	—	(6.5)	口縫・一部斜 縫(底部)	縫合	口縫久(0.3)
									底部(縫合部)・縫合部 文・縫合部文	底部(縫合部)・縫合部 文・縫合部文	大穴孔
80	S010	—	1	直井	中間	—	—	(5.6)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
81	S014	4012	出土	直井	6.6	(6.6)	口縫部	底部(縫合部)	底部(縫合部)	底部(縫合部)	内底部付着
82	S009	4012	出土	直井	中間	—	—	(5.1)	側面	底部(縫合部)	底部(縫合部)
83	S031	511	出土	直井	—	—	—	(6.2)	側面	底部(縫合部)	底部(縫合部)
84	S016	8	直井	中間	—	—	(6.0)	口縫部	口縫部(縫合部)	底部(縫合部)	内底部付着
85	S0309	4022	出土	直井	中間	—	—	(6.9)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
86	S034	4012	出土	直井	—	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
87	S034	4122	出土	直井	中間	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
88	S034	4013	出土	直井	中間	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
89	S034	4013	出土	直井	中間	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
90	S029	4022	3	直井	中間	—	—	(7.8)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
91	S033	268	出土	直井	直井	(15.0)	—	(11.0)	口縫・一部斜 縫(底部)	直井(縫合部)	底部(縫合部)
92	S037	19	出土	直井	直井	(17.0)	—	(6.3)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
93	S039	416	出土	直井	直井	(19.0)	—	(5.8)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
94	S030	416	出土	直井	直井	(31.2)	—	(5.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
95	S098	4124	出土	直井	直井	—	—	(5.8)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
96	S074	4013	出土	直井	直井	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
97	S007	4014	出土	直井	直井	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
98	S054	4122	1	直井	直井	—	—	(6.3)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
99	S037	19	出土	直井	中間	—	—	(5.6)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
100	S012	8	直井	直井	—	—	(5.2)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)	内底部付着
101	S061	215	出土	直井	直井	—	—	(5.0)	底部	底部(縫合部)	底部(縫合部)
102	S069	4018	出土	直井	—	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	内底部付着
103	S033	203	出土	直井	—	—	—	(2.0)	口縫部	直井(縫合部)	内底部付着
104	S018	1	直井	中間	—	—	(5.4)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)	外底部付着
105	S081	4123	—	直井	中間	—	—	(5.2)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
106	S081	4012	出土	直井	直井	—	—	(5.6)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
107	S005	4012	出土	直井	直井	—	—	(5.6)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
108	S005	36	1	直井	直井	—	—	(6.0)	側面	直井(縫合部)	底部(縫合部)
109	S054	4122	1	直井	直井	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
110	S038	418	1	直井	直井	—	—	(6.0)	口縫部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
111	S001	263	出土	直井	直井	—	—	(4.8)	底部	直井(縫合部)	底部(縫合部)
112	S001	14	出土	直井	直井	—	—	(4.8)	底部	直井(縫合部)	底部(縫合部)

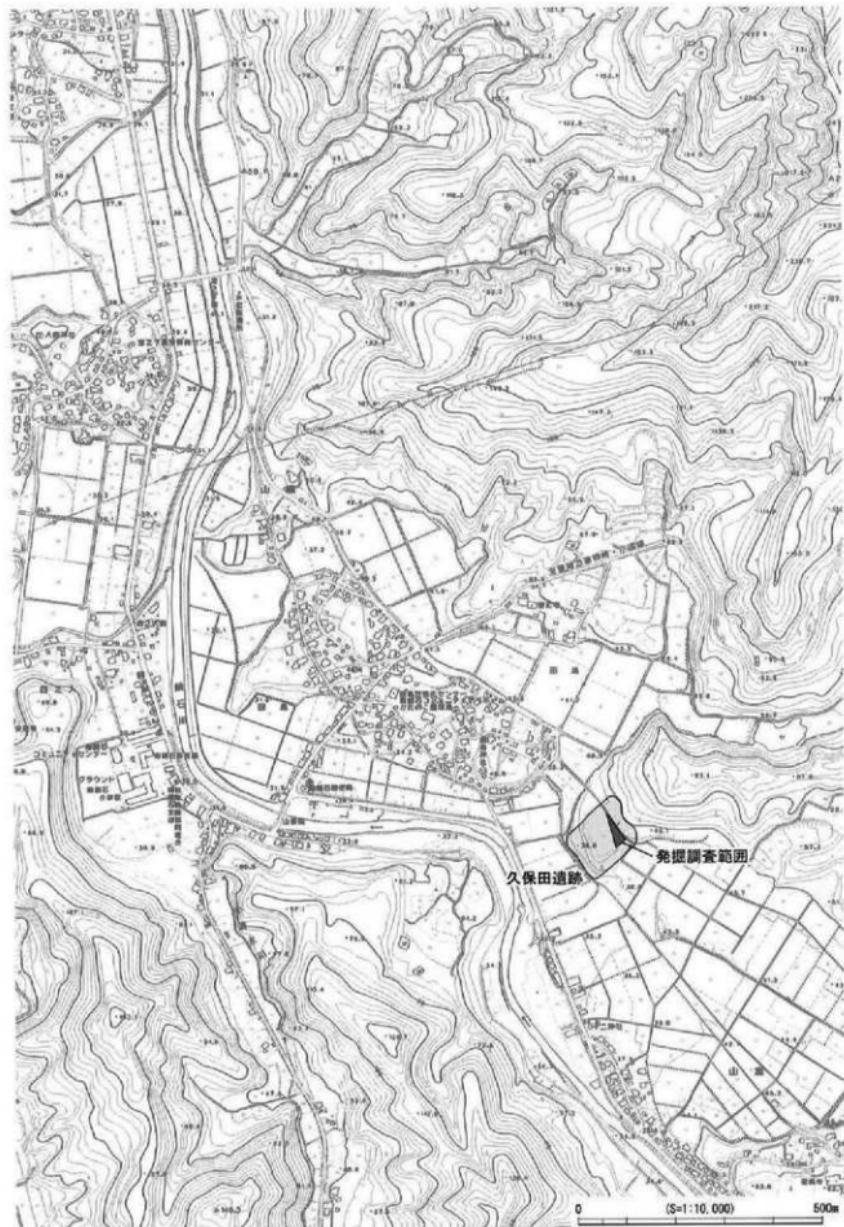
No.	地名	特征	形状	時間	口徑	壁厚	保存形狀	表面	文様	地区	鉢土	土器形式	備考
158	304 V形上	直井	浅碗	—	(7.9)	—	口沿部 に(5.9) 壁面(19.97/7)	なし	なし	白色・灰白色・土器	内面は黒いトナデ内面	黒いトナデ内面	
151	S119 6122	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.5) 壁面(19.97/7)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
152	S114 6115	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.8) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	内面はベタ土器	内面はベタ土器	
153	S112 6112	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(4.2) 壁面(19.96/22)	不明	なし	白色・土器片	外底付	外底付	
154	S118 6121	2 直井	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.95/42)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
155	S103 607+12	1 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.9) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	三足脚	内面はトマコの外側 熱に弱め茶色化・ヒビ	
156	S101 215	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.2) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
157	S113 203	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	三十脚	三十脚	
158	S105 3012	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/50)	なし	なし	白色・灰白色・土器	三十脚	三十脚	
159	S106 2021	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/50)	なし	なし	白色・灰白色・土器	三十脚	三十脚	
160	S109 6222	3 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/50)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
161	S105 3018	1 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/50)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
162	S109 6223	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
163	S113 263	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
164	S108 4011	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
165	S108 2 土器	直井	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/6)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
166	S113 263	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
167	S108 467	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
168	S113 263	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
169	S108 4011	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/6)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
170	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
171	S114 4013	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
172	S117 4025	5 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.5) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	三十脚	三十脚	
173	S112 263	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/2)	なし	なし	白色・灰白色・金箔	三十脚	三十脚	
174	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	二十脚	二十脚	
175	S113 309	1 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	三十脚	三十脚	
176	S112 4011	V形上	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	三十脚	三十脚	
177	S112 V形上	直井	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	三十脚	三十脚	
178	S113 262	1 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
179	S113 263	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
180	S109 416	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
181	S108 303	3 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・土器片	手づくね土器	手づくね土器	
182	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
183	S108 315	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
184	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
185	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
186	S113 303	直土	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
187	S109 306	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
188	S109 309	3 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
189	S109 309	2 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	
190	S109 4022	3 土器	直井	—	—	—	口沿部 に(5.6) 壁面(19.97/4)	なし	なし	白色・灰白色・土器	手づくね土器	手づくね土器	

附表9 遺物觀察表（石器）

編號	形狀*	斷面	斷面	石材	重量(g)		備考
					長	寬	
227	502	4921	圓柱	石	7.79	0.59	0.32
228	5034	4122	圓柱	石	1.59	0.59	0.5
229	5034	—	石	石質	1.99	0.59	0.5
230	5038	4910	—	石	11.66	3.49	15.1 下端削成刀形
231	5031	2115	圓柱	石質	0.73	0.51	1.10
232	—	501	圓柱	石質	6.19	1.19	6.19
233	—	269	圓柱	石質	7.72	1.11	8.16
234	5018	4112	圓柱	石質	7.45	1.67	2.52
235	5015	2612	圓柱	石質	6.02	3.60	1.11
236	5015	—	圓柱	石質	5.06	3.31	1.02
237	—	49	圓柱	石質	5.18	5.20	1.91
238	5024	4122	圓柱	石質	2.45	3.70	2.24
239	—	267	圓柱	石質	2.14	3.34	1.93
240	5016	4918	圓柱	石質	5.18	3.37	2.56
241	5029	—	圓柱	石質	7.60	4.57	2.07
242	5027	4914	圓柱	石質	16.12	4.74	77.4
243	—	2612	圓柱	石質	5.94	3.55	0.89
244	5014	4914	圓柱	石質	2.99	0.73	1.9
245	5015	2615	圓柱	石質	8.93	8.37	2.91
246	5018	2638	圓柱	石質	6.68	4.42	2.89
247	5018	4919	圓柱	石質	7.18	3.59	1.28
248	5018	4921.25	圓柱	石質	7.63	6.61	7.64
249	5018	—	圓柱	石質	8.61	6.32	1.48
250	5018	4119	圓柱	石質	6.50	5.29	9.4
251	5074	4913	圓柱	石質	7.61	4.69	9.11
252	5019	4912.13	圓柱	石質	8.09	4.85	7.62
253	—	4923	圓柱	石質	5.58	3.91	1.71
254	5018	4918	圓柱	石質	5.41	2.55	0.90
255	5018	4919	圓柱	石質	8.16	4.97	1.90
256	5018	4921	圓柱	石質	6.18	3.70	27.8
257	—	2625	圓柱	石質	6.62	3.65	1.47
258	—	3611	圓柱	石質	6.55	4.33	44.2
259	5068	4913.18	圓柱	石質	5.69	3.36	5.11
260	5018	4919	圓柱	石質	5.21	4.29	1.10
261	5019	4925	圓柱	石質	4.43	4.41	27.3
262	5018	4919	圓柱	石質	6.22	4.68	2.11
263	5018	4919	圓柱	石質	4.91	3.83	1.20
264	5018	4919	圓柱	石質	4.69	3.92	1.10
265	5018	4912	圓柱	石質	4.70	3.68	1.40
266	5018	4912	圓柱	石質	3.89	3.26	0.85
267	5019	—	圓柱	石質	2.69	2.91	0.96

久保田遺跡 位置図

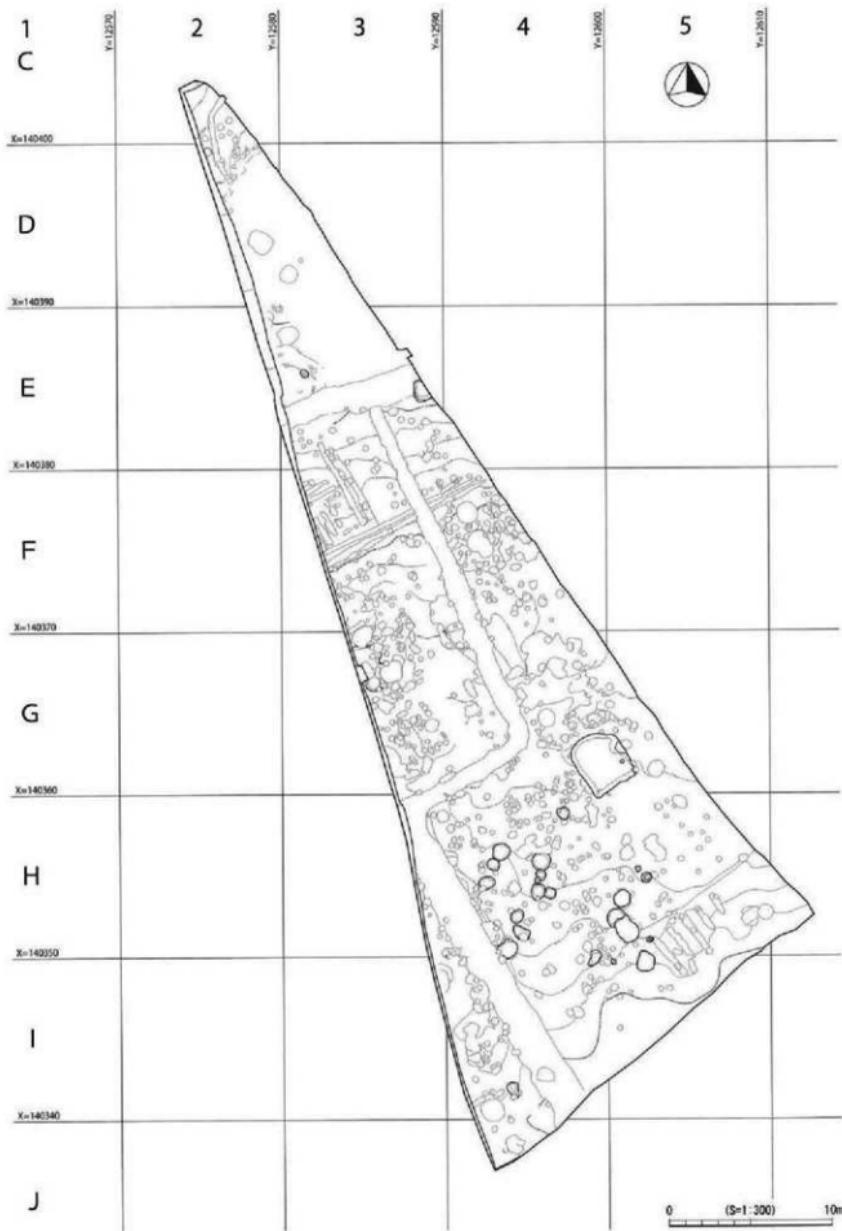
図版 1





調査区全体図（縄文時代）

図版 3



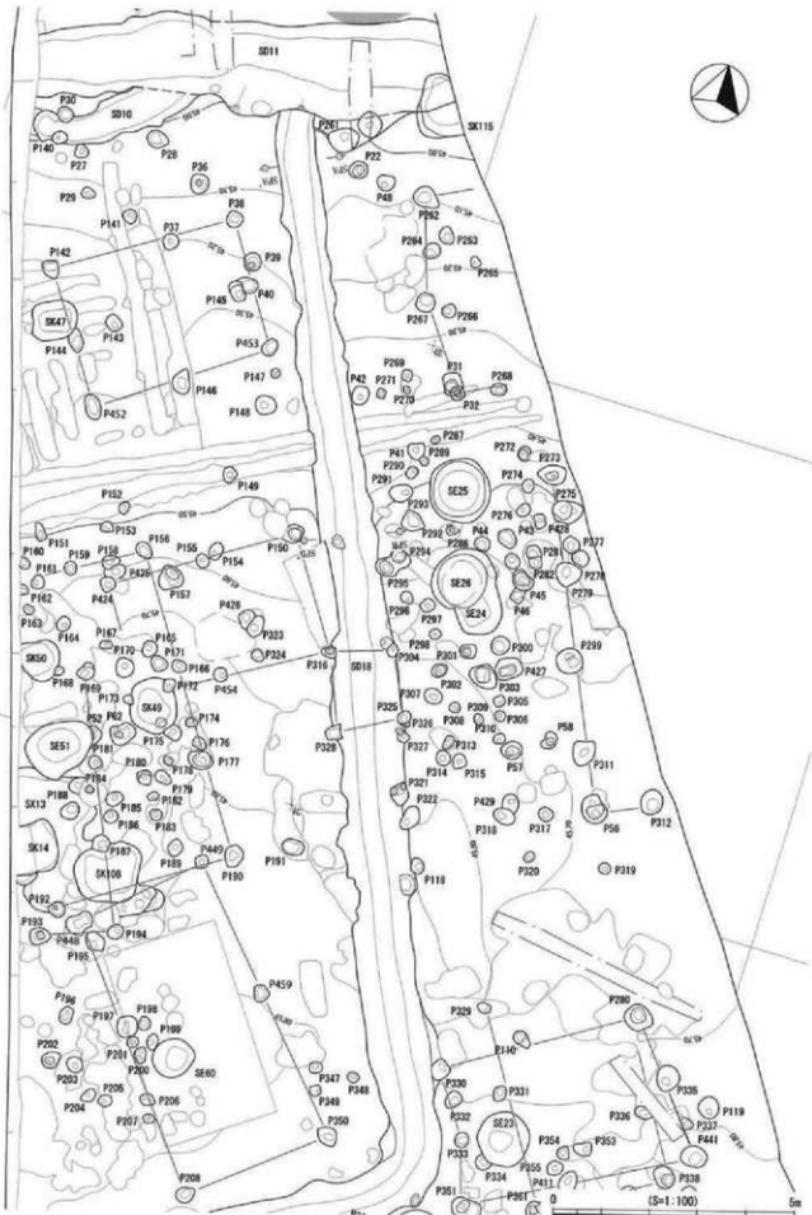


調査区分割図（分割1／4 地山上）

図版5



調査区全体図（分割 2 / 4）



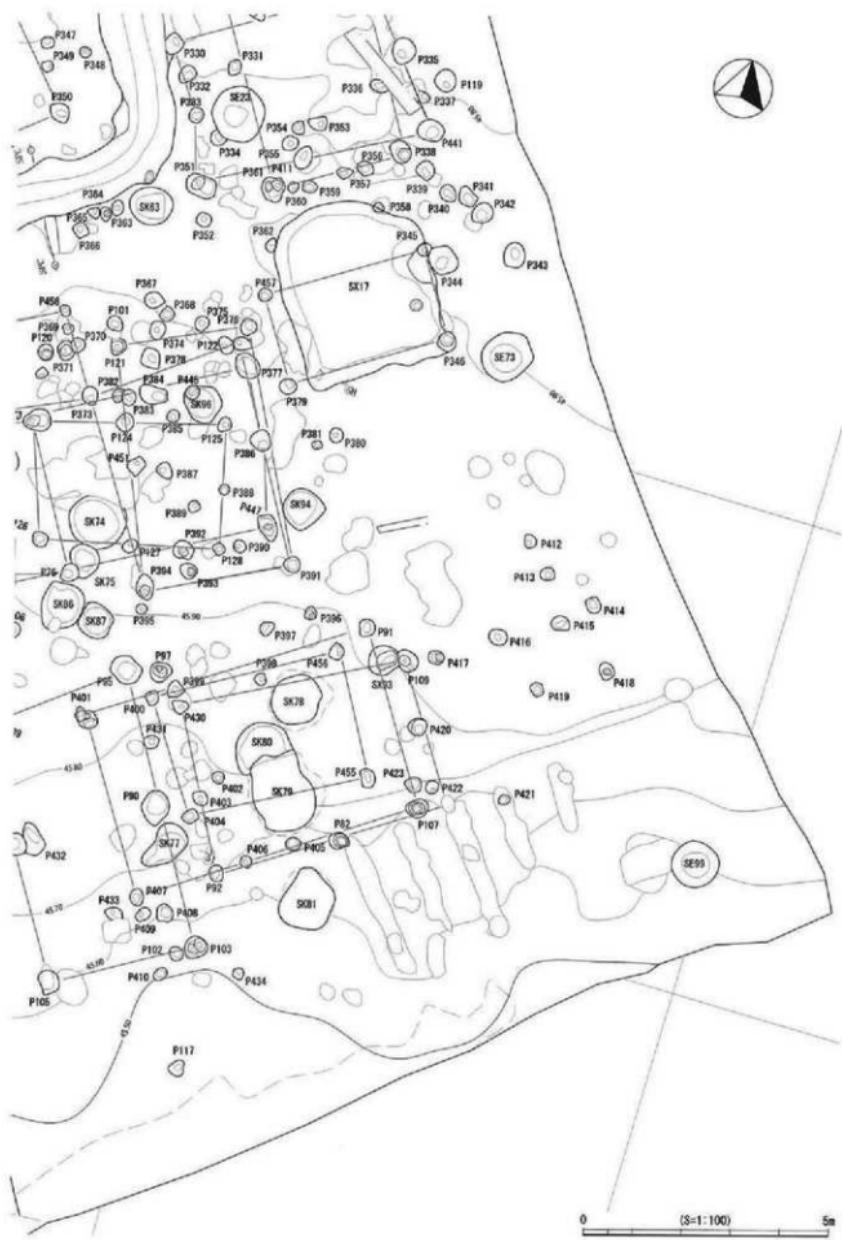
調査区全体図（分割 3 / 4）

図版 7



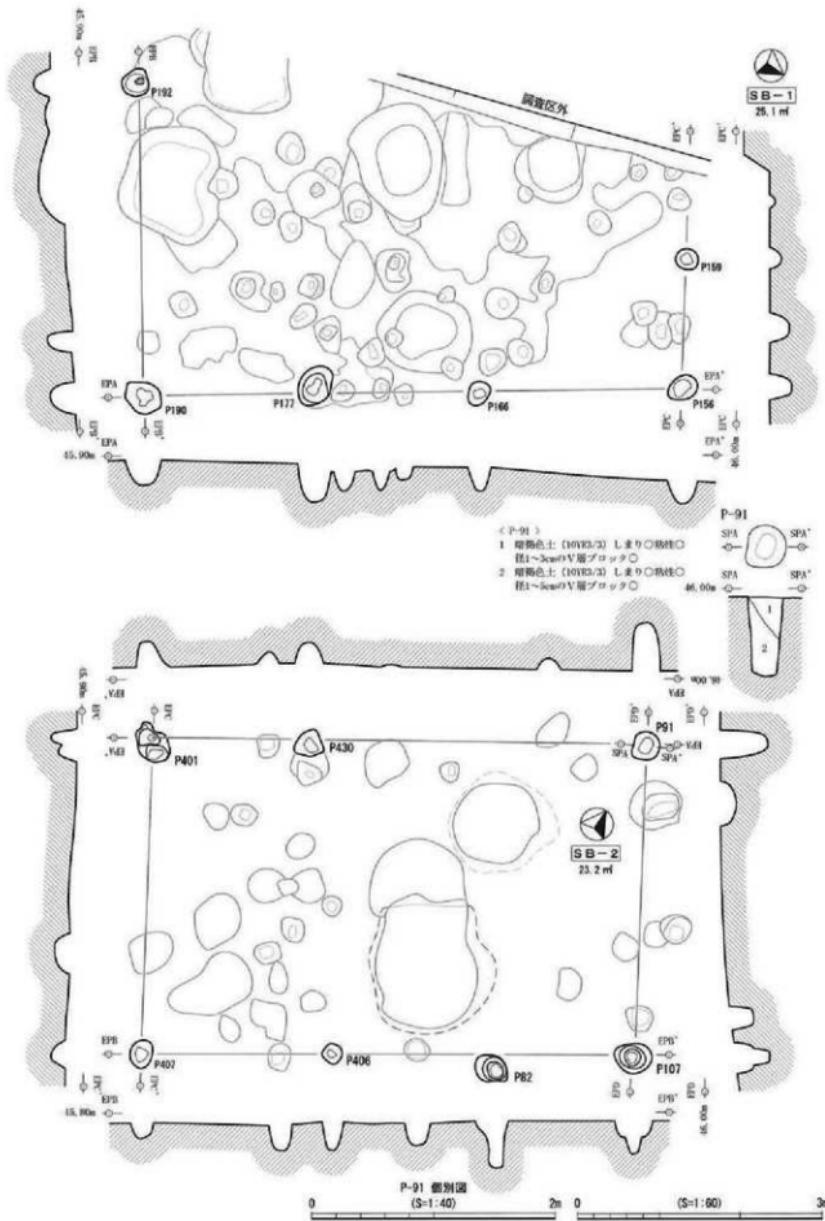
図版 8

調査区全体図（分割4／4）



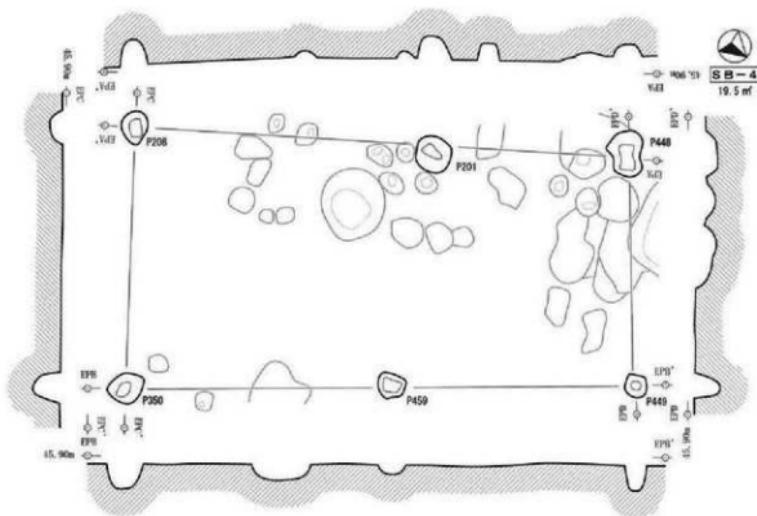
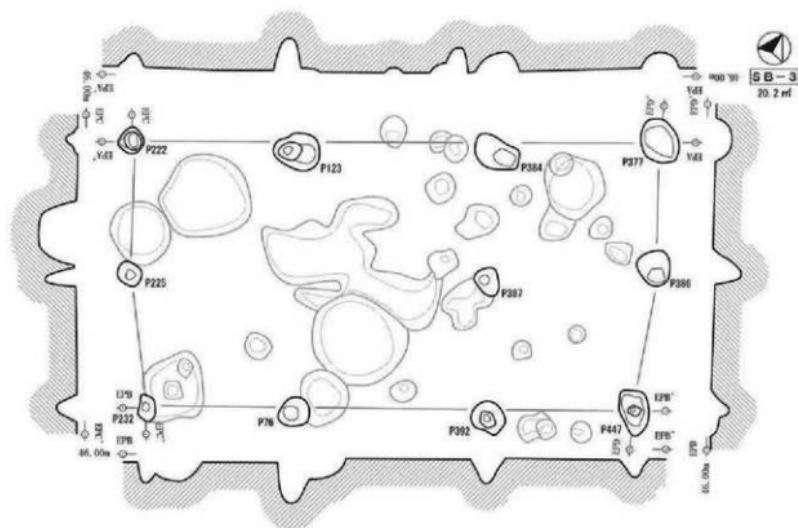
遺構個別図 1 建物 1

圖版 9



図版 10

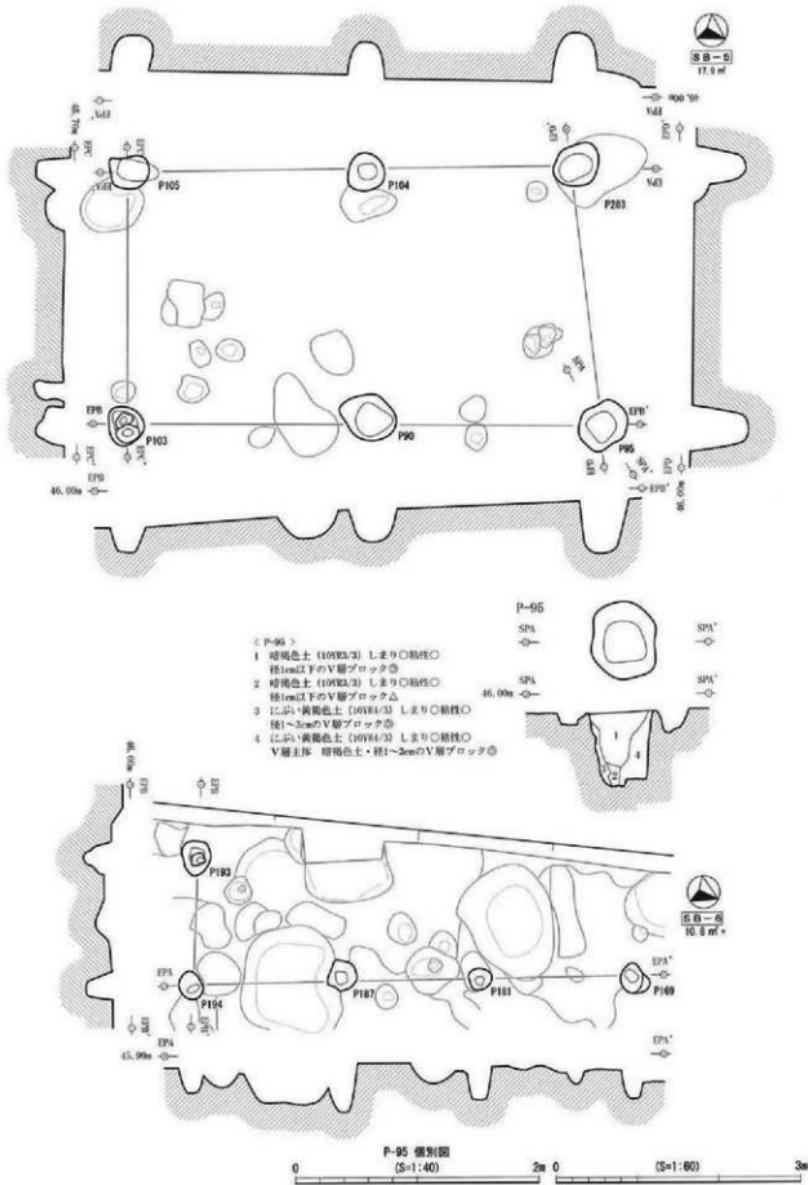
遺構個別図 2 建物 2

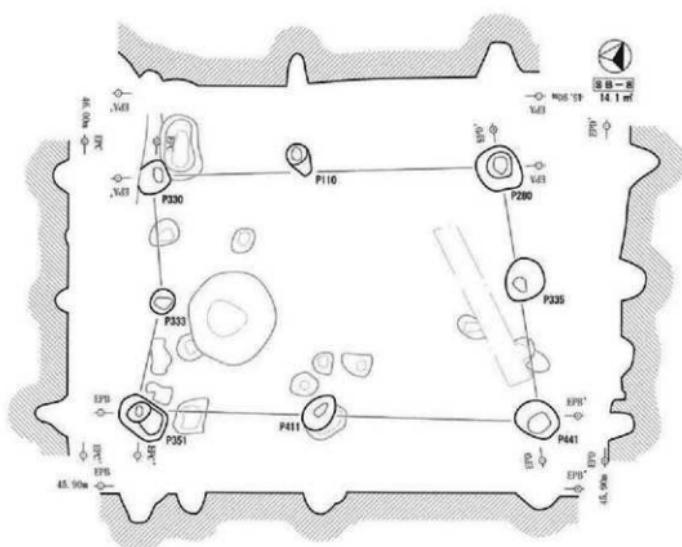
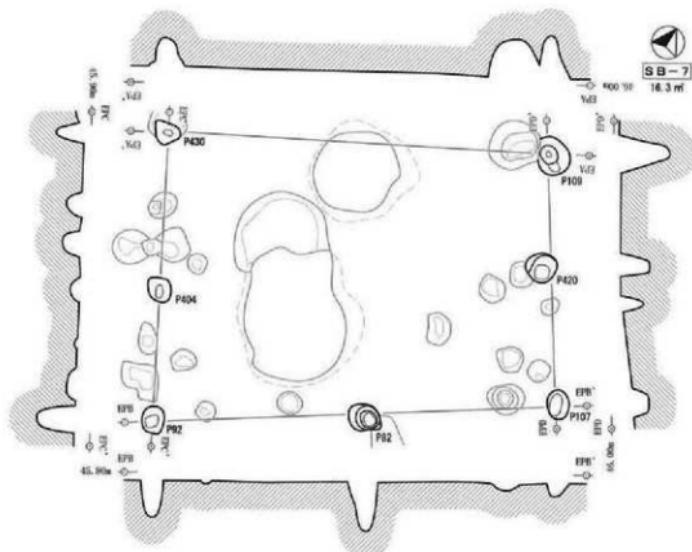


(S=1:60)

遺構個別図 3 建物 3

図版 11

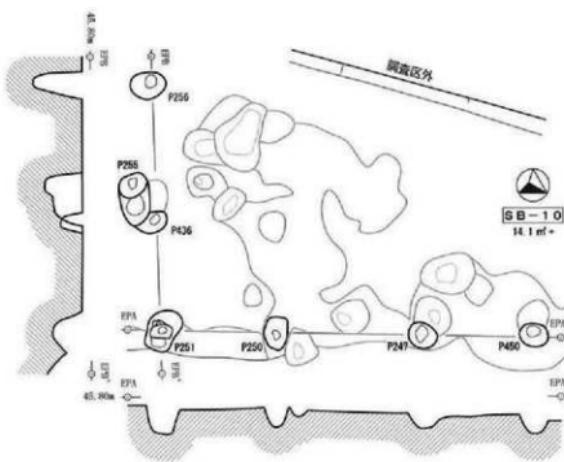
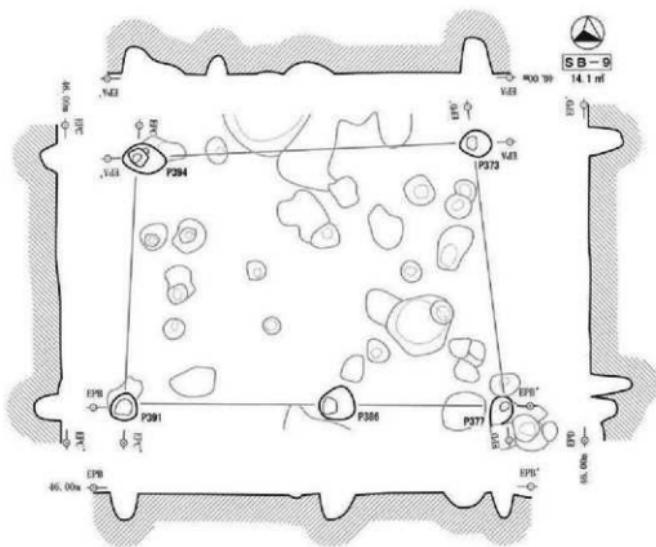




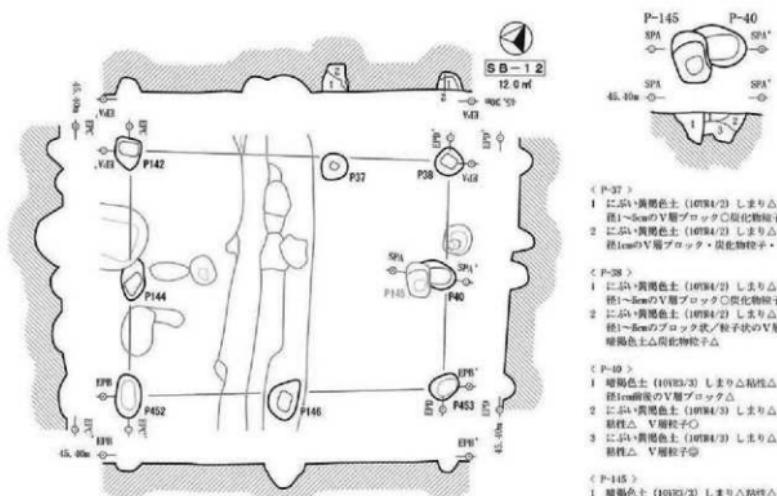
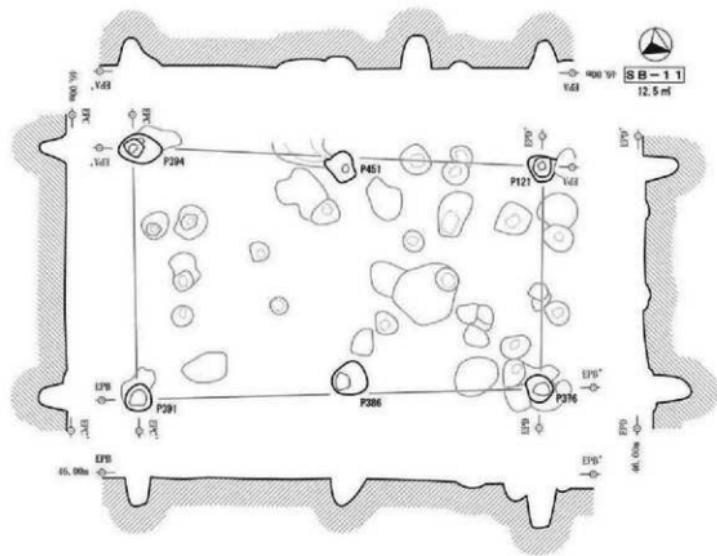
(S=1:60)

遺構個別図 5 建物 5

図版 13



0 (S=1:60) 3m



18-377-3

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/2) しまり△粘性△
径1~5cmのV層ブロック○炭化物粒子。
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/2) しまり△粘性○
径1cmのV層ブロック○炭化物粒子。

< P-28 >

- 1 にひい・黄褐色土 (10R4/2) しまり△粘性△
径1~5mmのV層ブロック○腐化物粒子・
2 にひい・黄褐色土 (10R4/2) しまり△粘性○
径1~5mmのブロック状／粒子状のV層主体。
暗褐色土△腐化物粒子△

< P-10 >

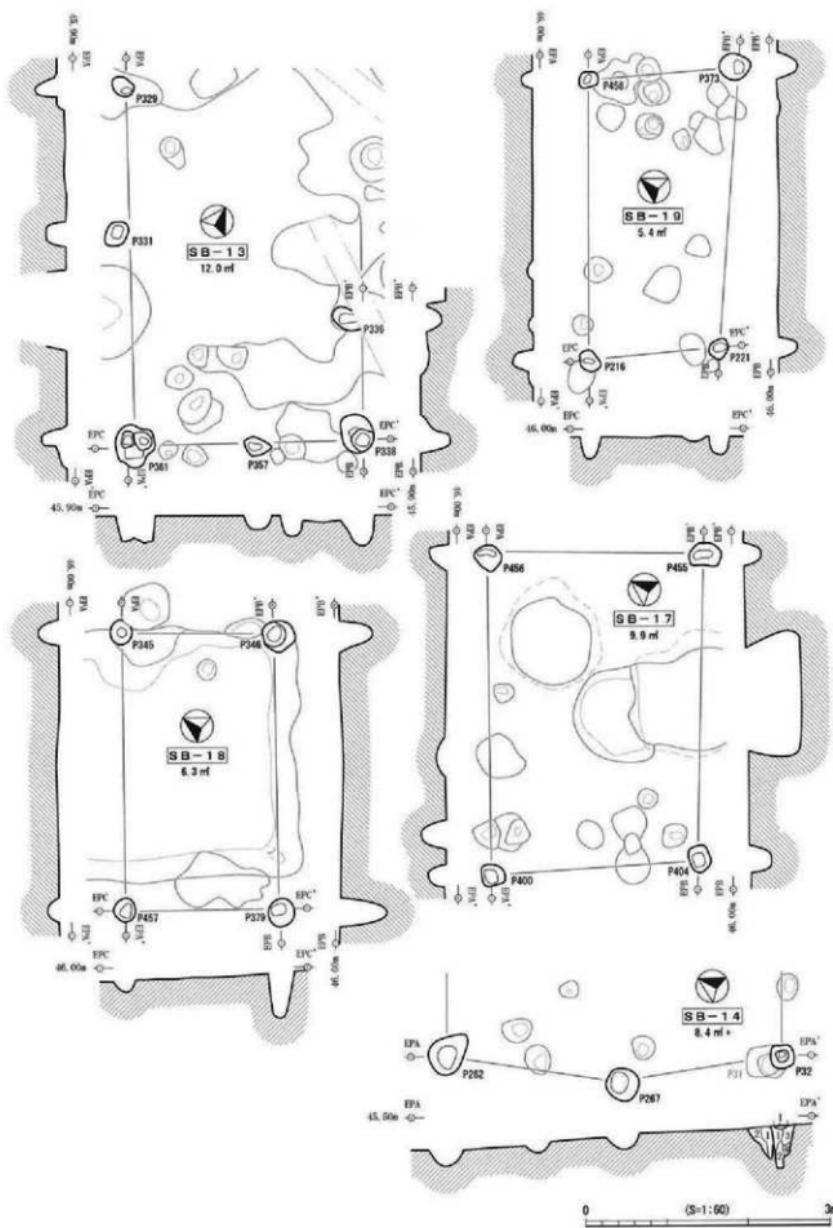
- 1 増陽色土 (10B3/3) しまり△粘性△
径1cm前後のV型ブロック△
 - 2 に沿う増陽色土 (10B4/3) しまり△
粘性△ V型粒子○
 - 3 に沿う増陽色土 (10B4/3) しまり△
粘性△ V型粒子△

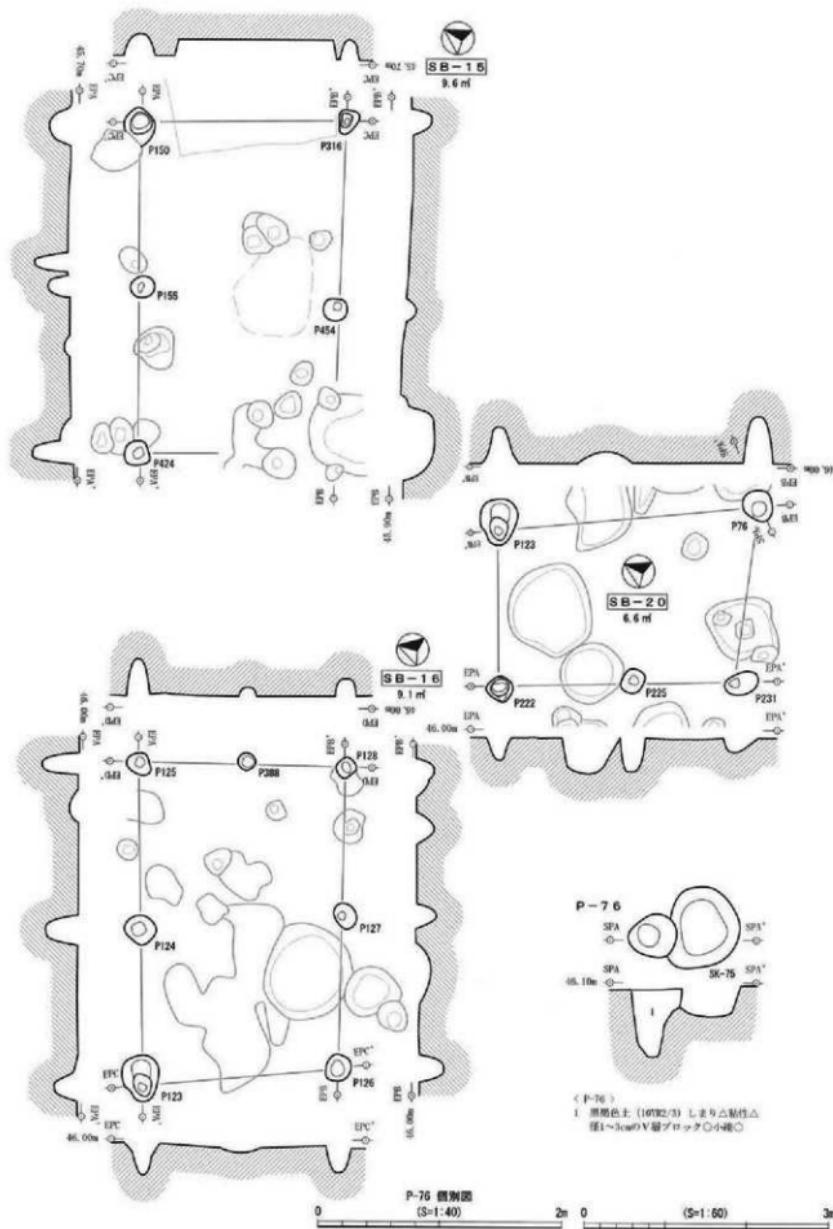
(P-145)

- 1 黒褐色土 (10103/3) しまり△粘性△
径1~3cmのV層ブロック○黒褐色土
ブロック○

遺構個別図 7 建物 7

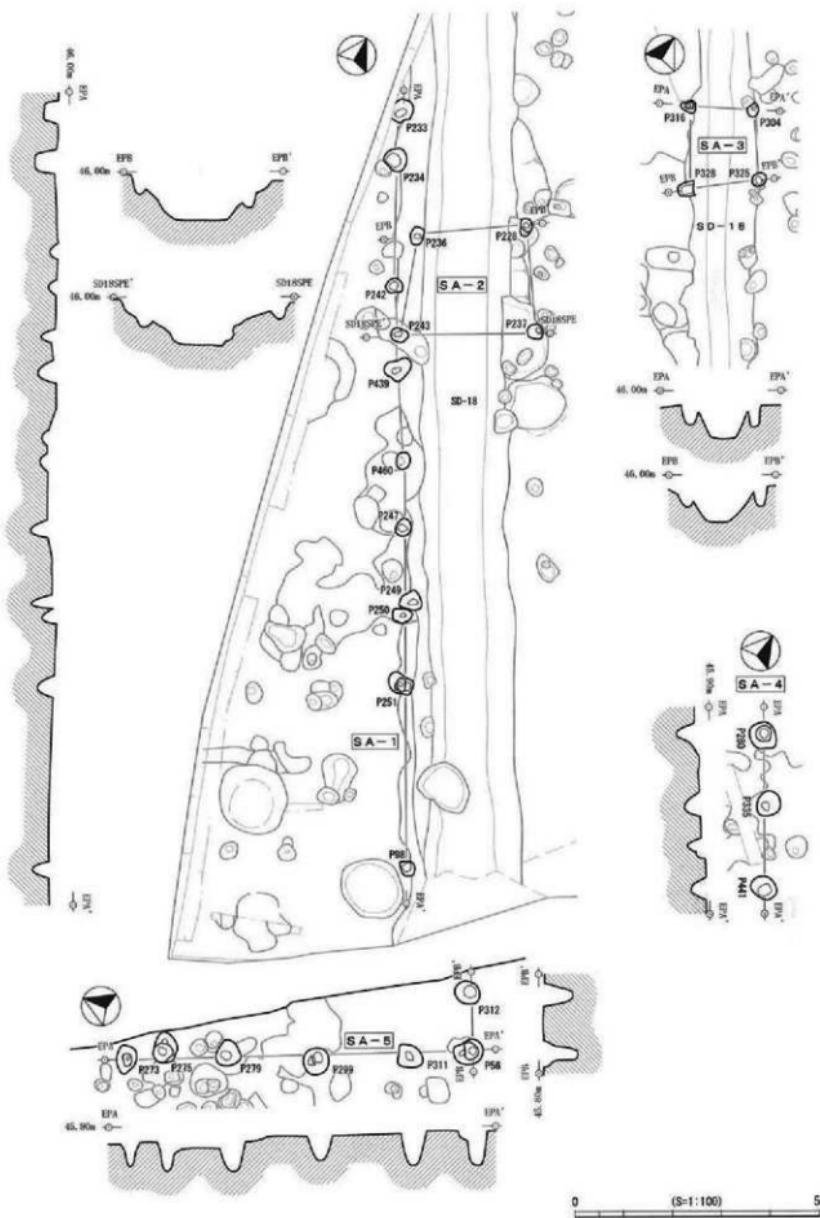
図版 15



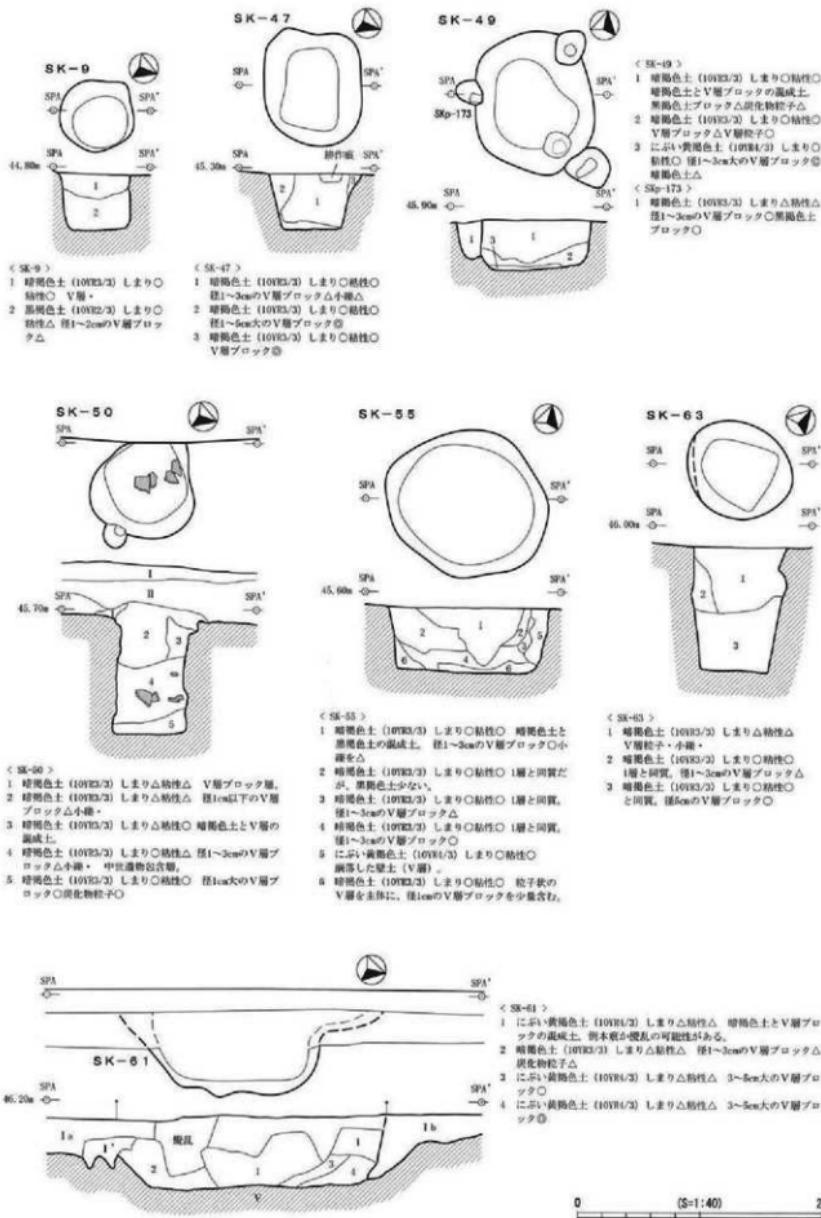


遺構個別図9 ピット列

図版 17

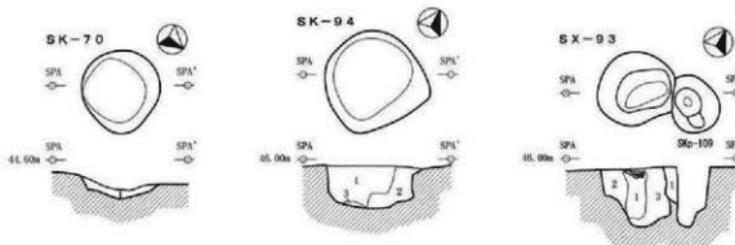


遺構個別図 10 土坑 1



遺構個別図 11 土坑 2・不整形土坑

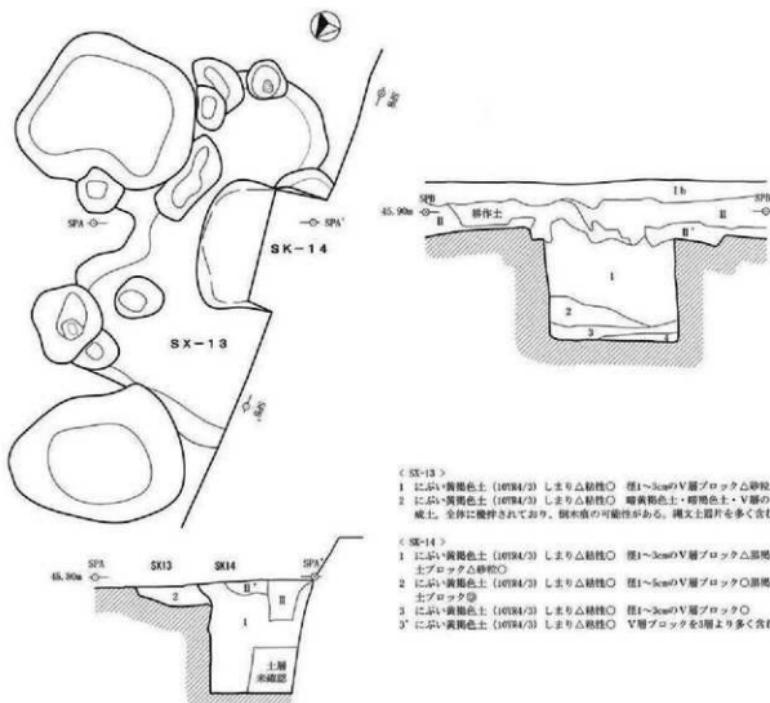
図版 19



< SK-70 >
1 塗褐色土 (10193/3) しまり・粘性凸
絶1~3cmのV層ブロック○小塊○

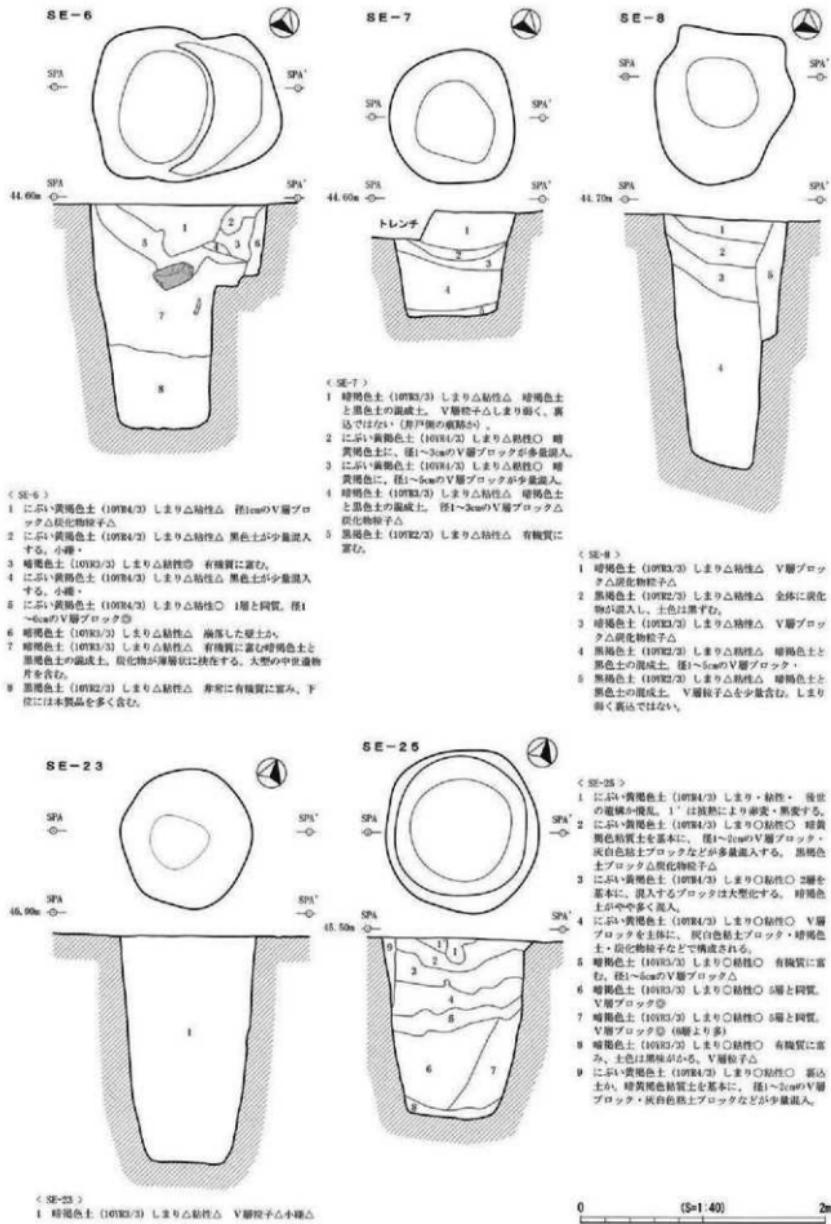
< SK-94 >
1 塗褐色土 (10193/3) しまり△粘性△
V層粒子○
2 塗褐色土 (10193/3) しまり△粘性△
径1cmのV層ブロック○
3 にひい黄褐色土 (10194/3) しまり△
粘性○ V層ブロック○

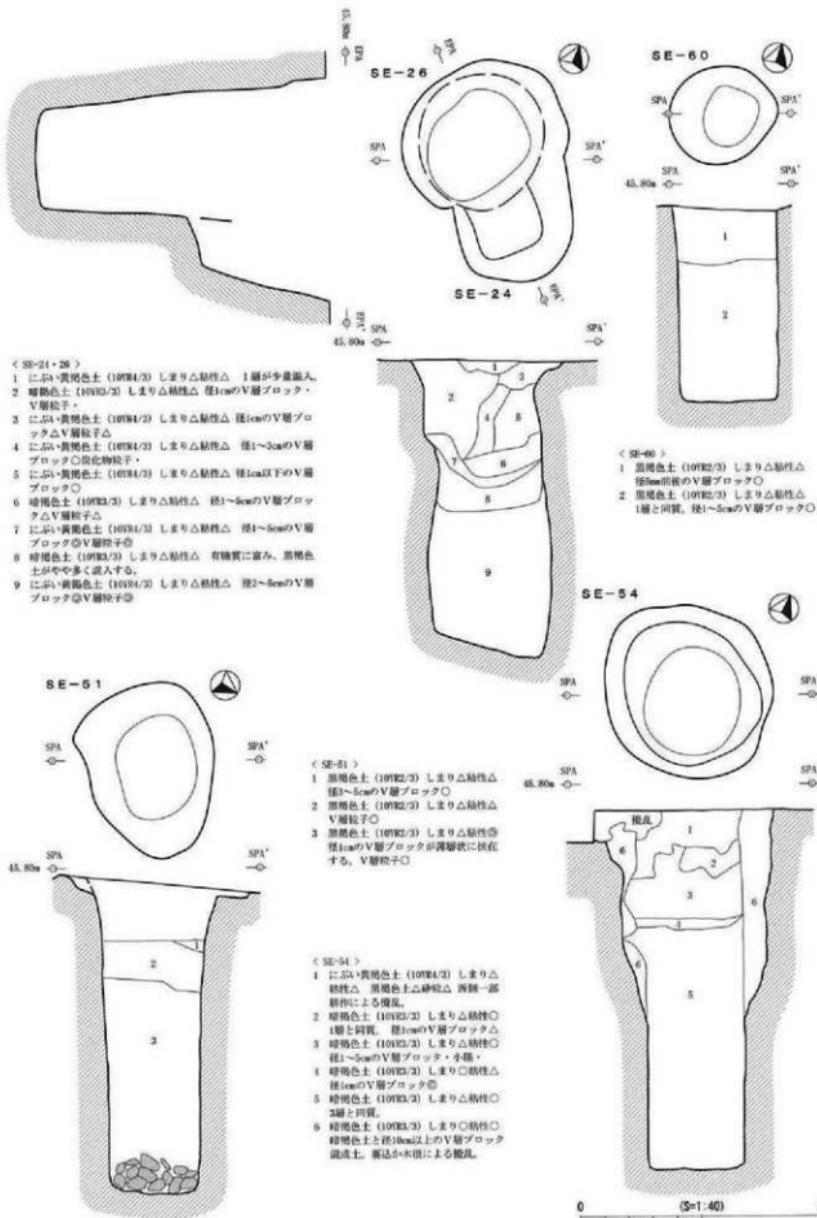
< SX-93 >
1 塗褐色土 (10193/3) しまり○粘性○ 径1~
3cmのV層ブロック△
2 にひい黄褐色土 (10194/3) しまり○粘性○
V層ブロック○細粒褐色土△炭化物粒子○
3 塗褐色土 (10193/3) しまり・粘性共や中強
径1~3cmのV層ブロック○

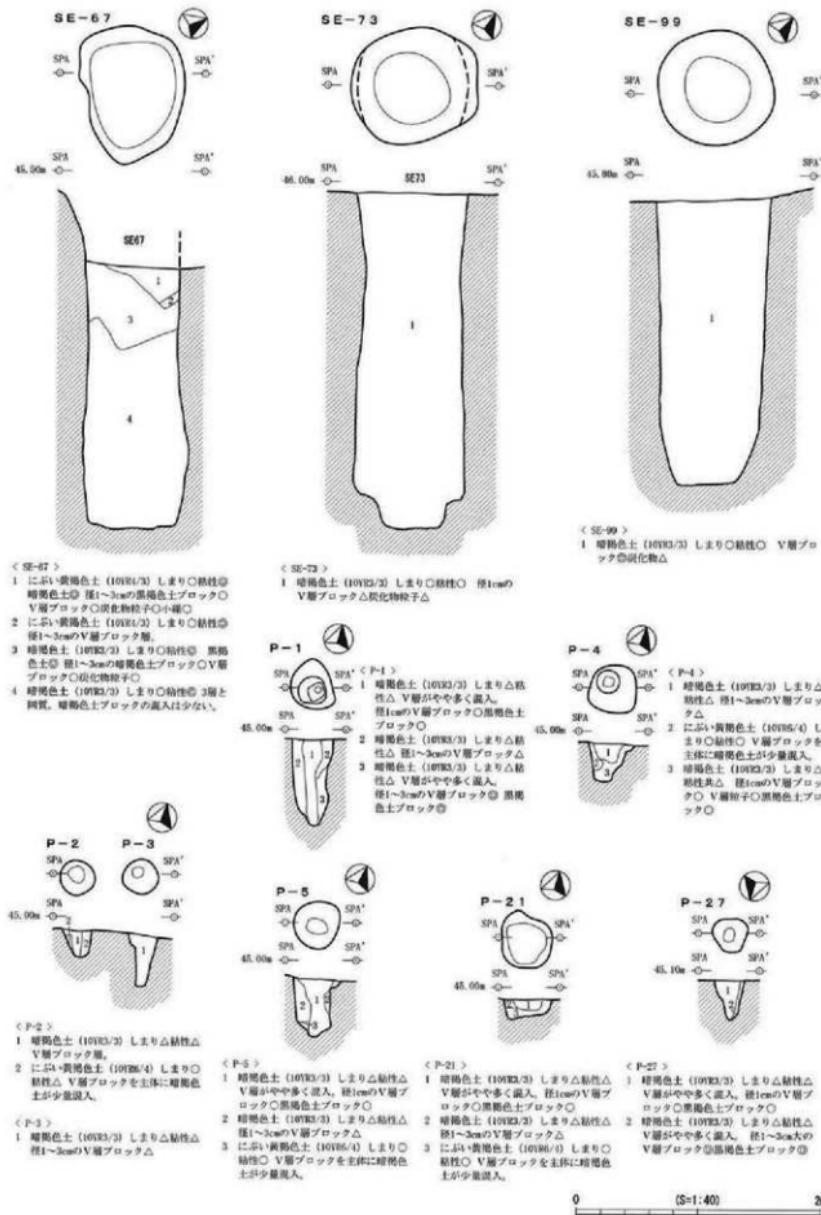


0 (S:1:40) 2m

遺構個別図 12 井戸 1

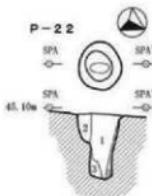






遺構個別図 15 ピット 2

図版 23



< P-22 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入。径1~3cmのV層ブロック○ 黒褐色土上V層ブロック○
2. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入。径1~3cmのV層ブロック○ 黑褐色土上V層ブロック○
3. にい黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層ブロックを主体に堆積土
土が少量混入。



< P-28 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入。径1~3cmのV層ブロック○ 黑褐色土上V層ブロック○
2. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入。径1~3cmのV層ブロック○ 黑褐色土上V層ブロック○



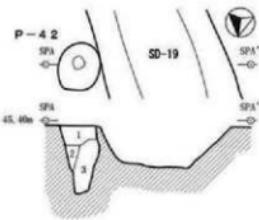
< P-30 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入。径1~3cmのV層ブロック○ 黑褐色土上V層ブロック○



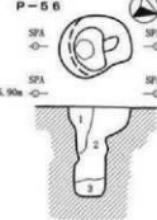
< P-39 >

1. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層粒子△ 堆積物粒子△
2. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層ブロック○ 黑褐色土上V層ブロック○



< P-42 >

1. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ 黄褐色土とV層の混成土。径1~3cmのV層ブロック○
2. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層ブロックを主体に堆積土と堆積土混成土。
3. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ 黄褐色土とV層の混成土。径1~3cmのV層ブロック○



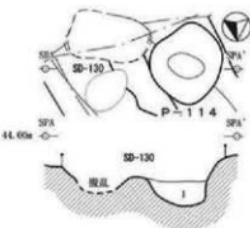
< P-56 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ 黄褐色土主体にV層が少量混入。
2. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ 黄褐色土とV層の混成土。堆積物粒子△
3. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ 黄褐色土とV層の混成土。堆積物粒子△



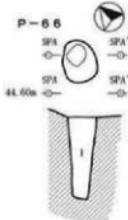
< P-62 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ ○ 径1cmのV層ブロック○
2. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ ○ 径1cmのV層の混成土。径1cmのV層ブロック○
3. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ ○ 黄褐色土とV層の混成土。径1~3cmのV層ブロック○
4. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ ○ 黑褐色土とV層の混成土。径1~3cmのV層ブロック○
5. にい△黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ ○ 3倍と同質だとV層ブロックは径5cm前後のもののが主となる。



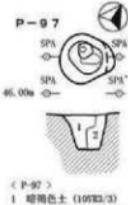
< P-114 >

1. 黑褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く混入する。径1~10cmのV層ブロック○ 黑褐色土ブロック○



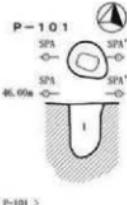
< P-66 >

1. 黄褐色土 (10VR3/2)
しまり△粘性△ 径5cm
以下のV層ブロック○ 堆積物△



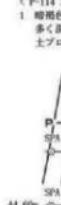
< P-97 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3)
しまり△粘性△ V層が
少量混入。薄層状にV
層が堆積する。
2. 黄褐色土 (10VR3/3)
しまり△粘性△ 径1~
3cmのV層ブロック○ 堆
積物粒子△



< P-101 >

1. 黑褐色土 (10VR2/2) しまり△
粘性△ 径1~3cmのV層ブ
ロック○

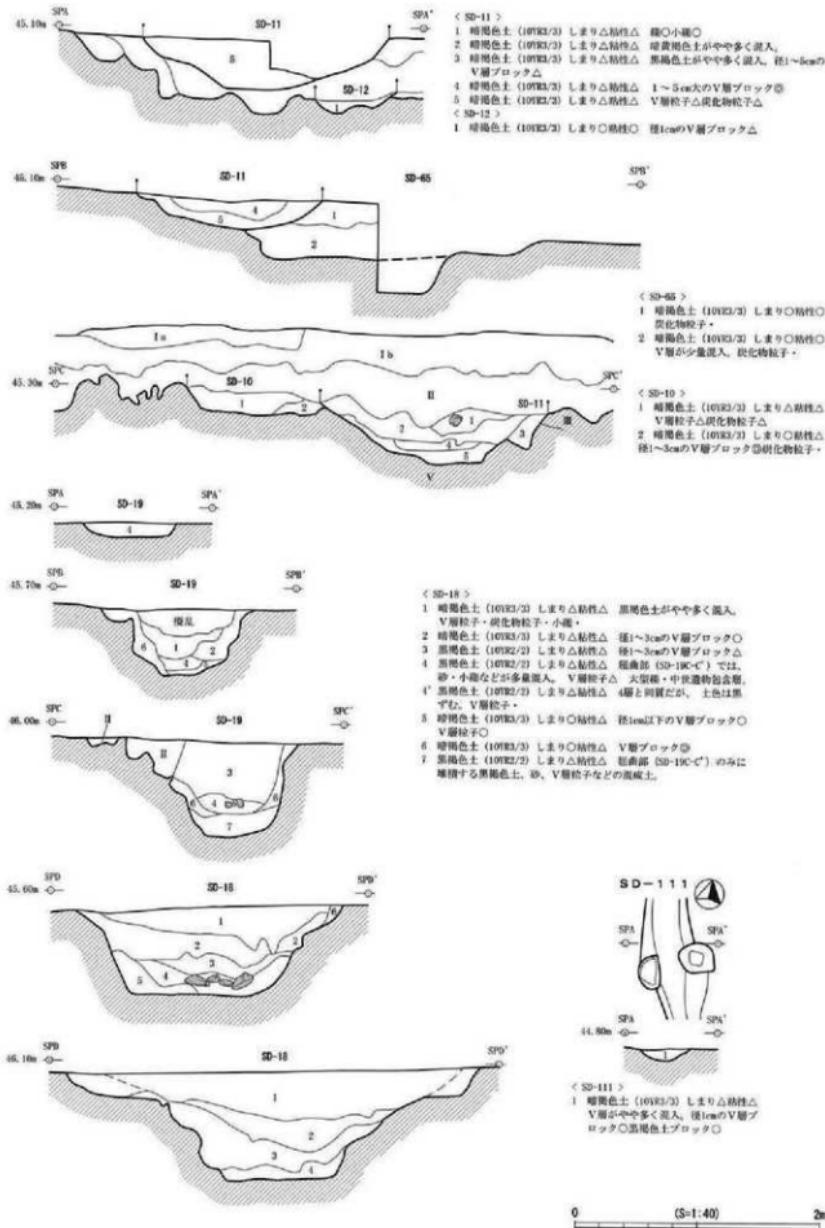


< P-113 >

1. 黄褐色土 (10VR3/3) しまり△粘性△ V層がやや多く
混入する。径1cmのV層ブロック○ 黑褐色土ブロック○

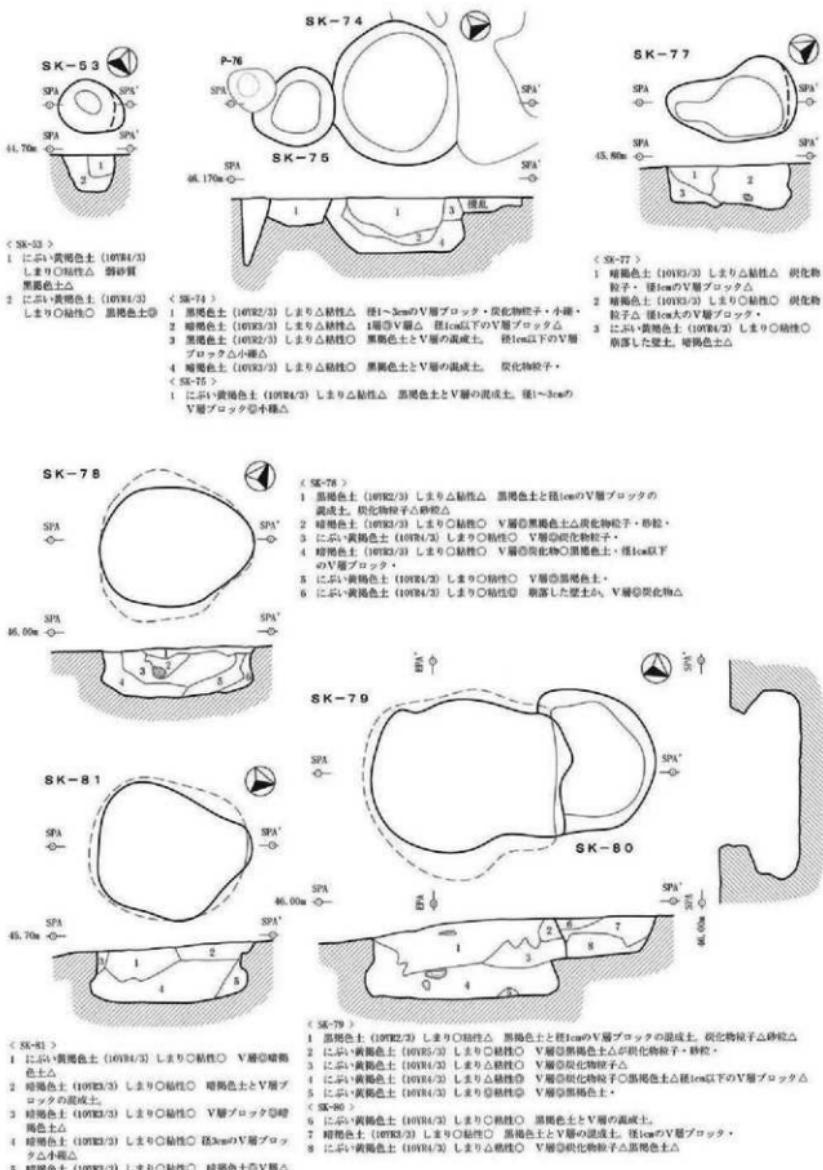
図版 24

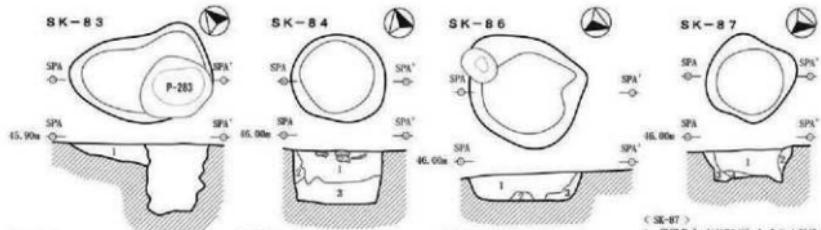
遺構個別図 16 溝



遺構個別図 17 縄文時代の遺構 1

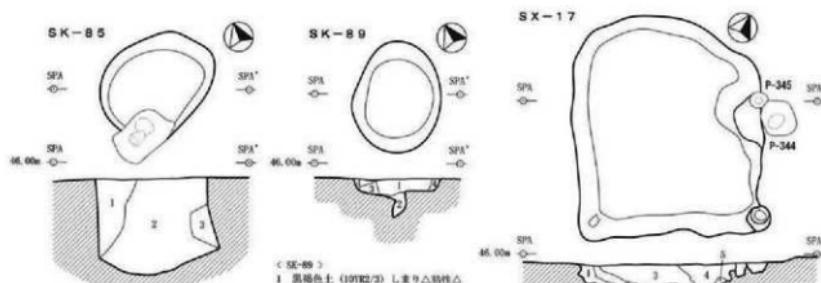
図版 25





〔図-43〕

- | SK-83 | SK-84 | SK-85 |
|--|---|--|
| 1. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇粘性△
暗褐色土とV層の混成土。柱状は下のV層
ブロック△ | 1. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
粘性△ 柱状とV層の混成土。
約1~3cmの黒褐色土ブロック△ | 1. 黑褐色土 (10YR2/3) しまり△ 粘性△
V層暗褐色粘土△ |
| 2. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
粘性△ ブロック状のV層△ | 2. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
粘性△ V層暗褐色粘土△
約1~3cmの黒褐色土ブロック△ | 2. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
粘性△ V層ブロック△ |
| 3. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
V層の暗褐色土△ | 3. にぶく黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇
粘性△ V層の暗褐色土△ | 3. 黑褐色土 (10YR2/3) しまり〇 粘性△
V層暗褐色粘土△ |
| | | 4. 黑褐色土 (10YR2/3) しまり〇 粘性△
柱状△V層の黒褐色△ |
| | | 5. 黑褐色土 (10YR2/3) しまり〇 粘性△
柱状△V層の黒褐色△ |
| | | 6. 黑褐色土 (10YR2/3) しまり〇 粘性△
柱状△V層の黒褐色△ |

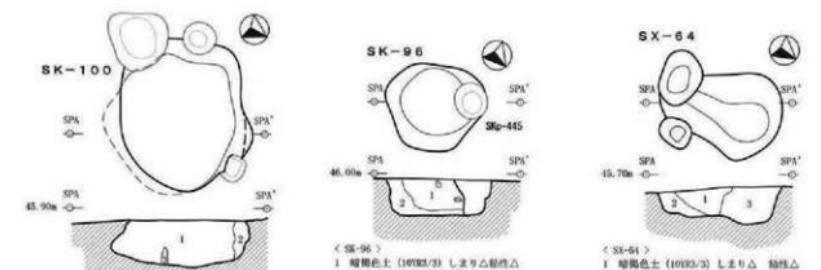


〈SK-BS〉
 1. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇粘性〇
 V層〇
 2. 喙褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性〇 直径1~
 3cm太のV層ブロック〇明化物粒子。
 3. にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり〇粘性〇
 V層〇

- 黒褐色土とV層ブロックの混成土。
 3 黒褐色土 (10R2/3) しまり△粘性△
 粒1~3cmのV層ブロック△
 4 にぶい黄褐色土 (10Y4/3) しまり○
 粘性○ V層ブロック層。

○ 58-17 ○

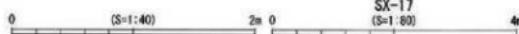
- 1 緑褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性△ V層②(部分的)
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性△ 緑褐色土とV層の混成土
- 3 黄褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性△ V層ブロック層
- 4 緑褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性△共凸 下段中心にV層ブロック③
- 5 緑褐色土 (10YR3/3) しまり△粘性△共凸 V層④

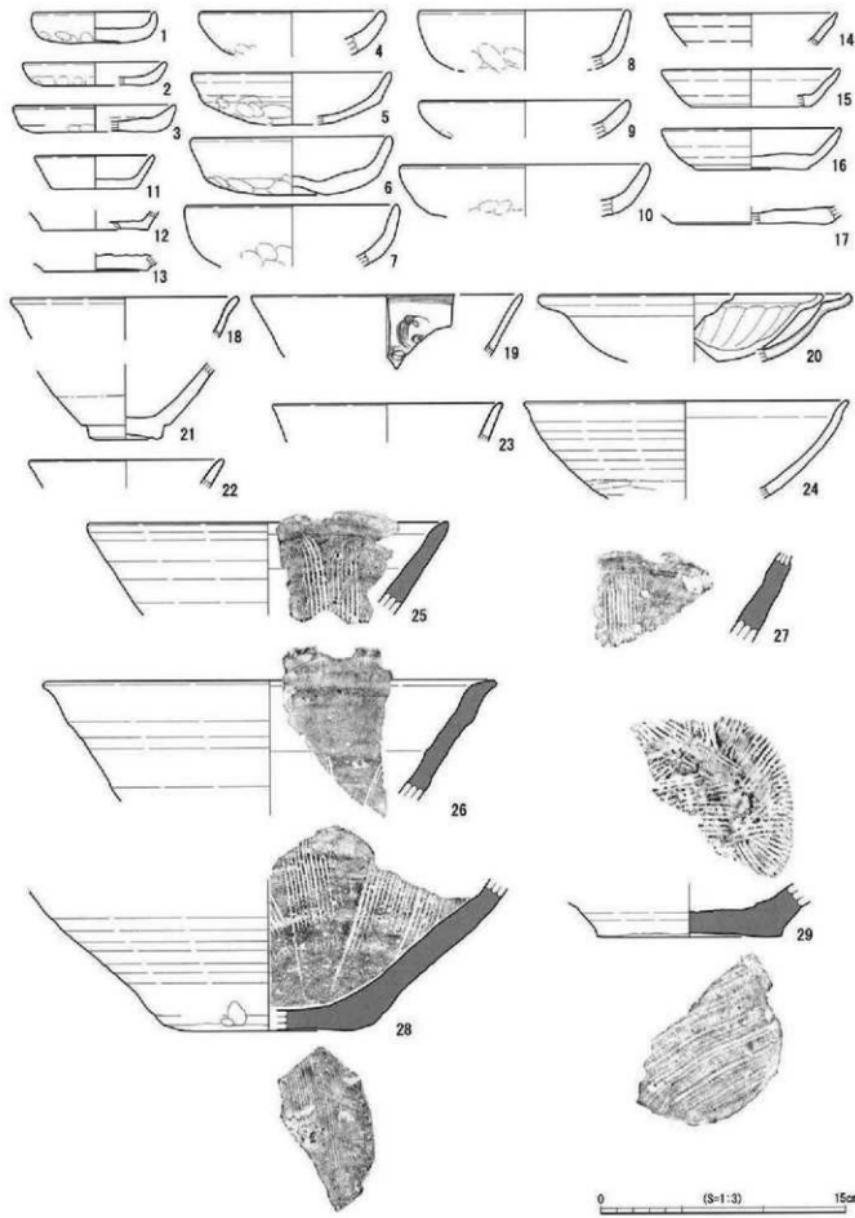


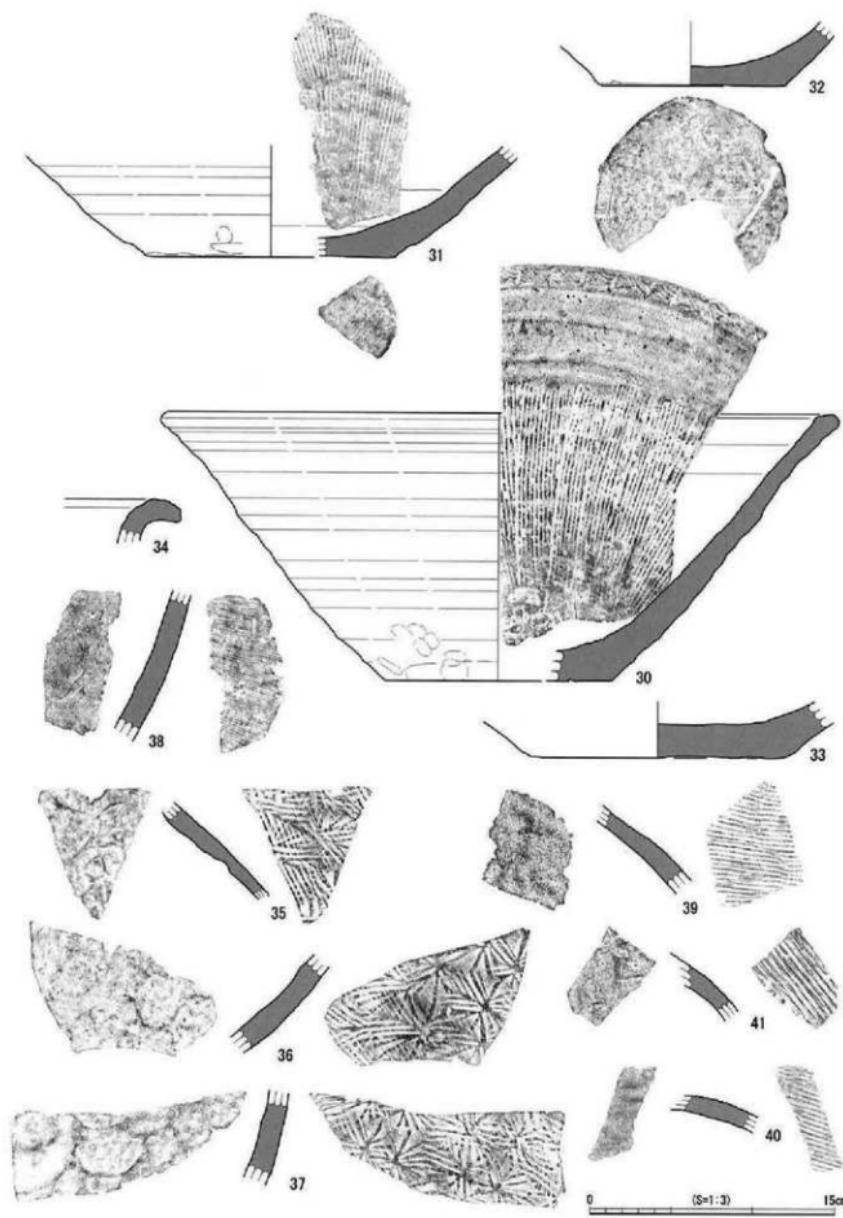
〔SK-100〕
 1. 増黄色土 (10YR3/3) しまり〇粘性〇 増黄色土とV層の
 調成土。直徑1cm以下のV層ブロック・黑色土ブロック。
 2. に赤い増黄色土 (10YR4/3) しまり〇粘性〇 本組の擾乱
 か。しまりのない東端黄色土が散在する。 V層の調成土。
 3. 増黄色土 (10YR3/3) しまり〇粘性〇 本組の擾乱か。

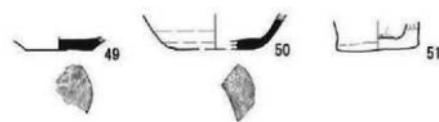
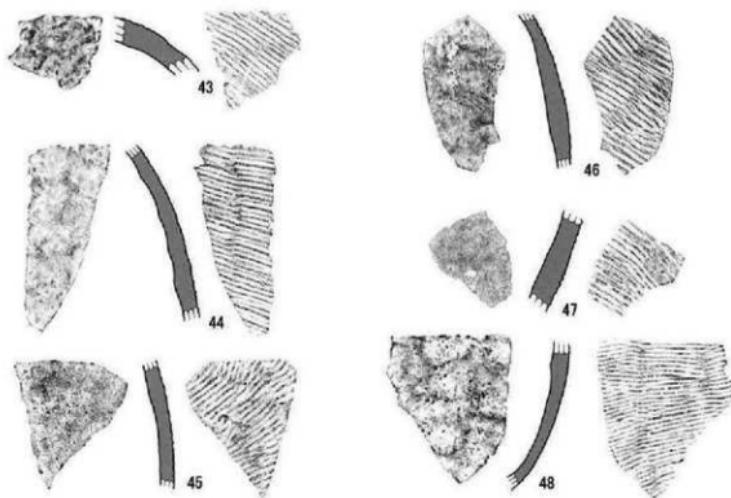
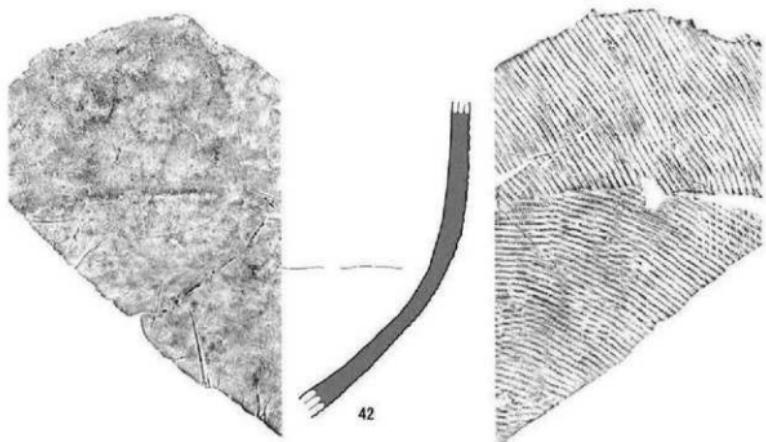
- × SK-96 ×

〔SK-64〕
 1 基礎褐色土 (10YR5/3) しまり△ 粘性△
 径5mmのV層ブロック○
 2 にぶい黃褐色土 (10YR4/3) しまり△ 粘性△ V層亞鈍褐色土○
 3 にぶい黃褐色土 (10YR5/2) しまり○粘

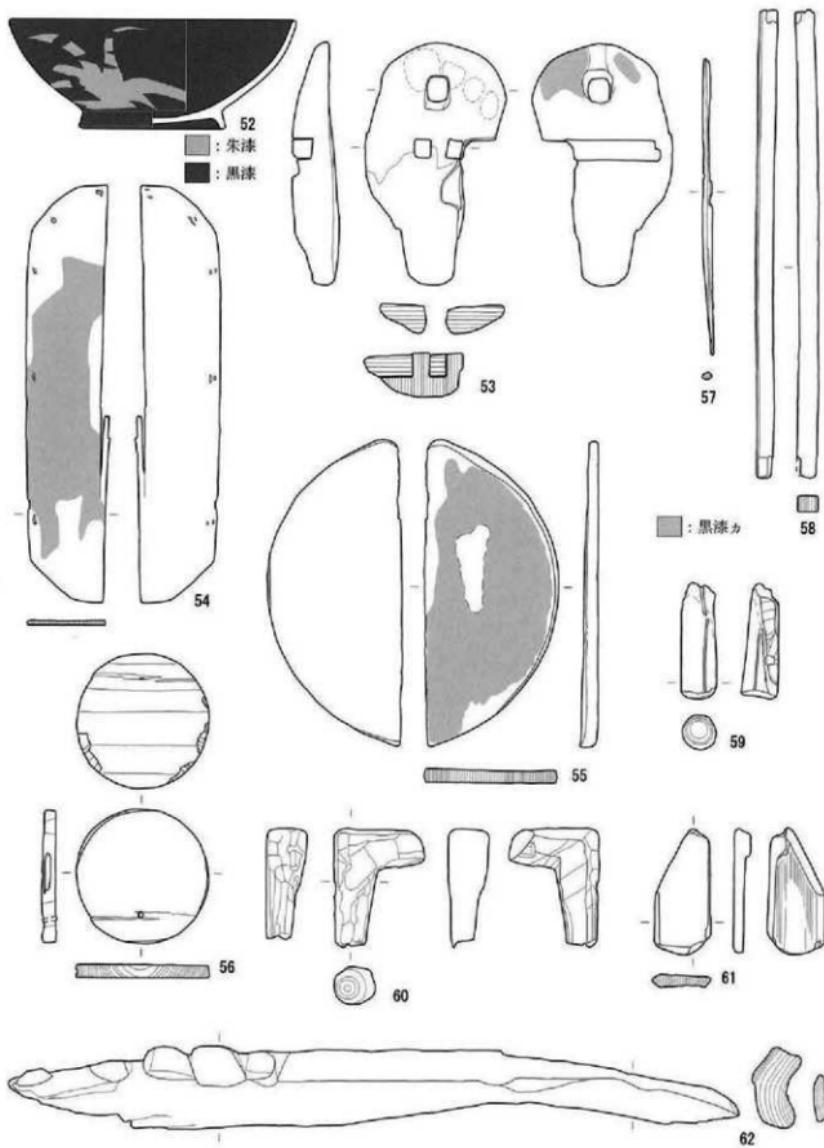


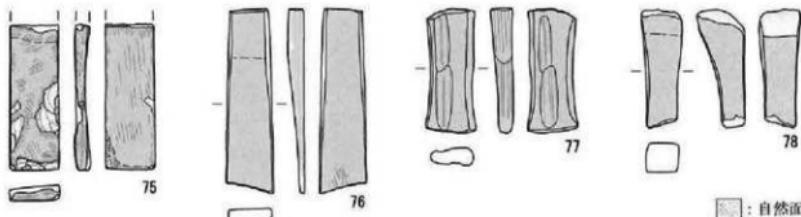
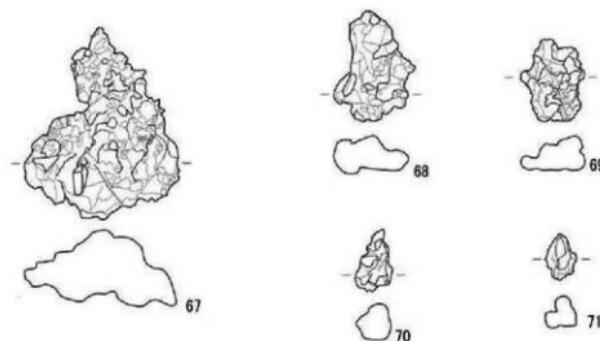
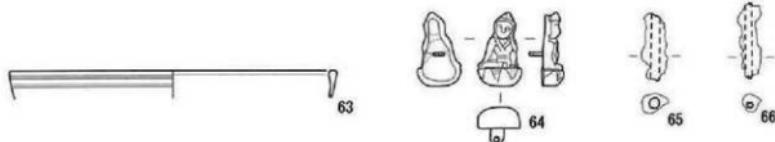




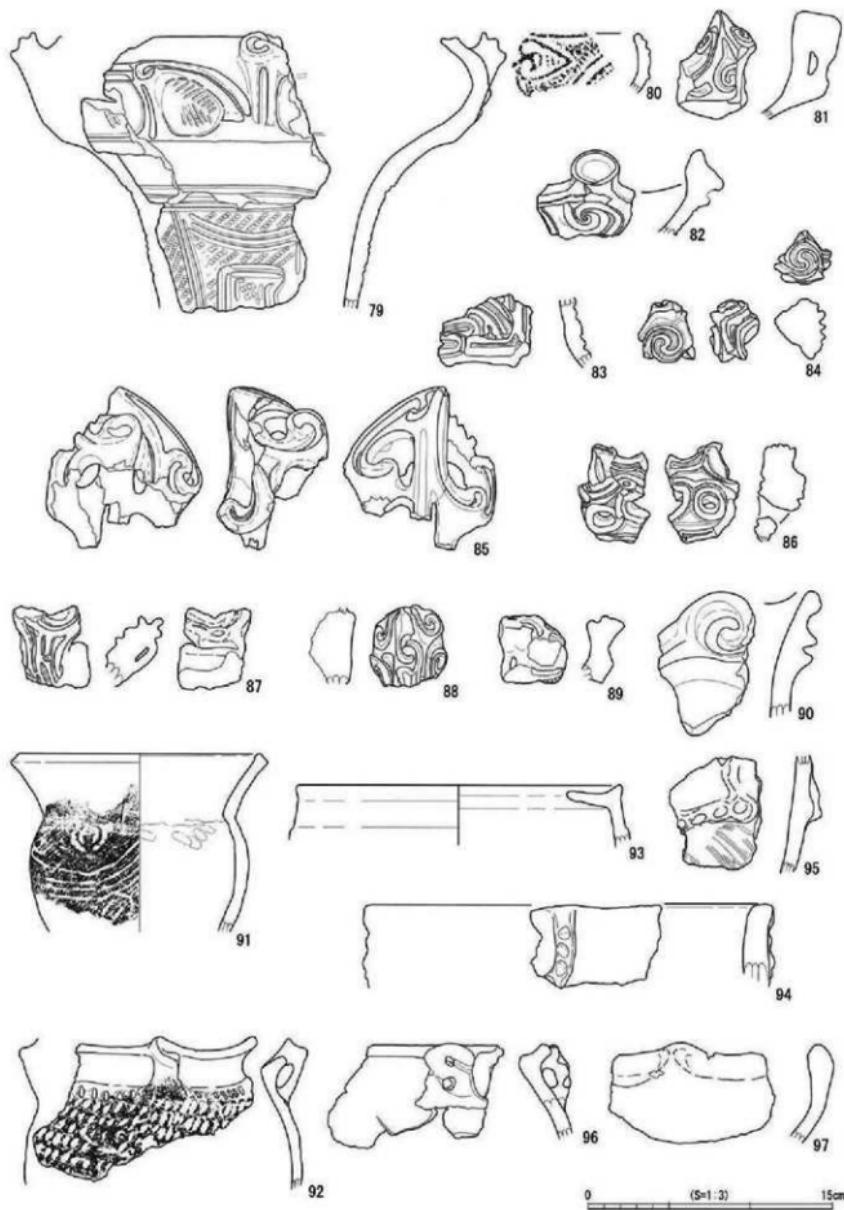


0 (S=1:3) 15cm

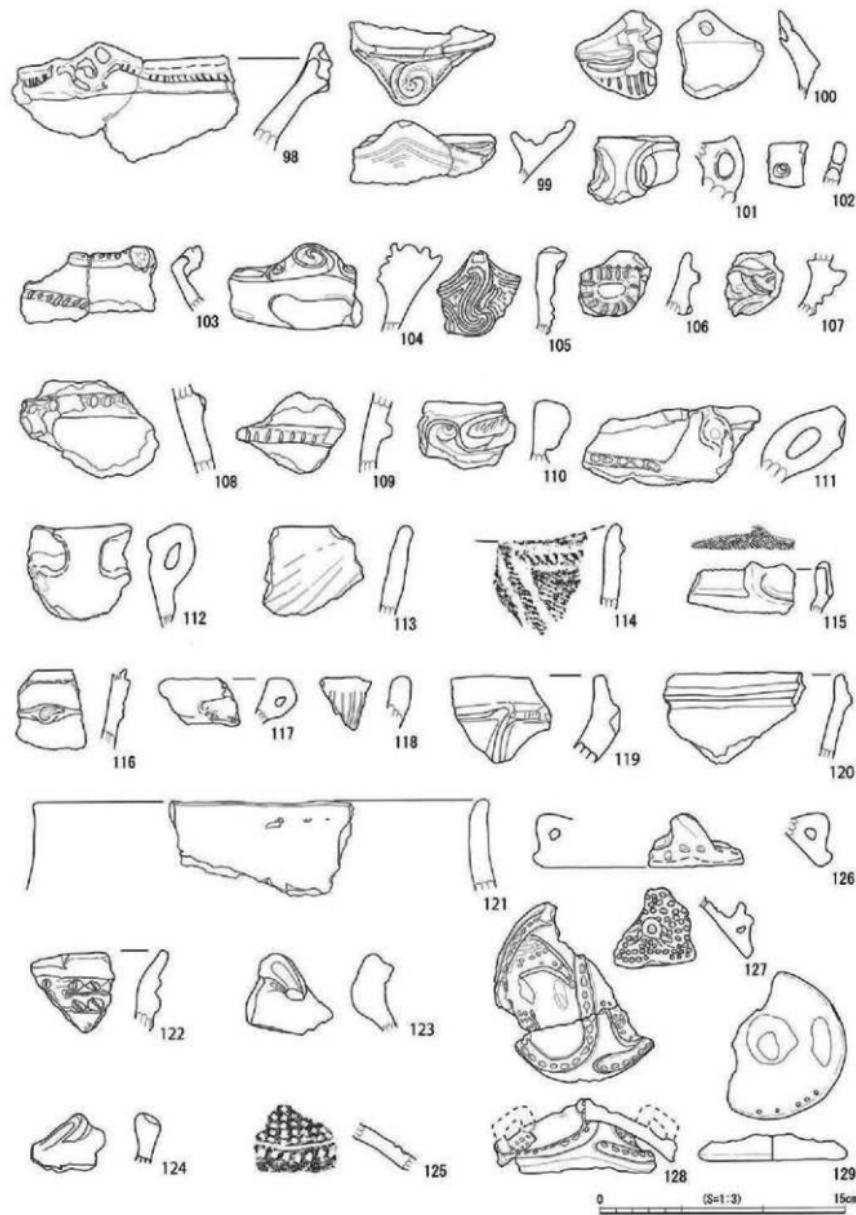


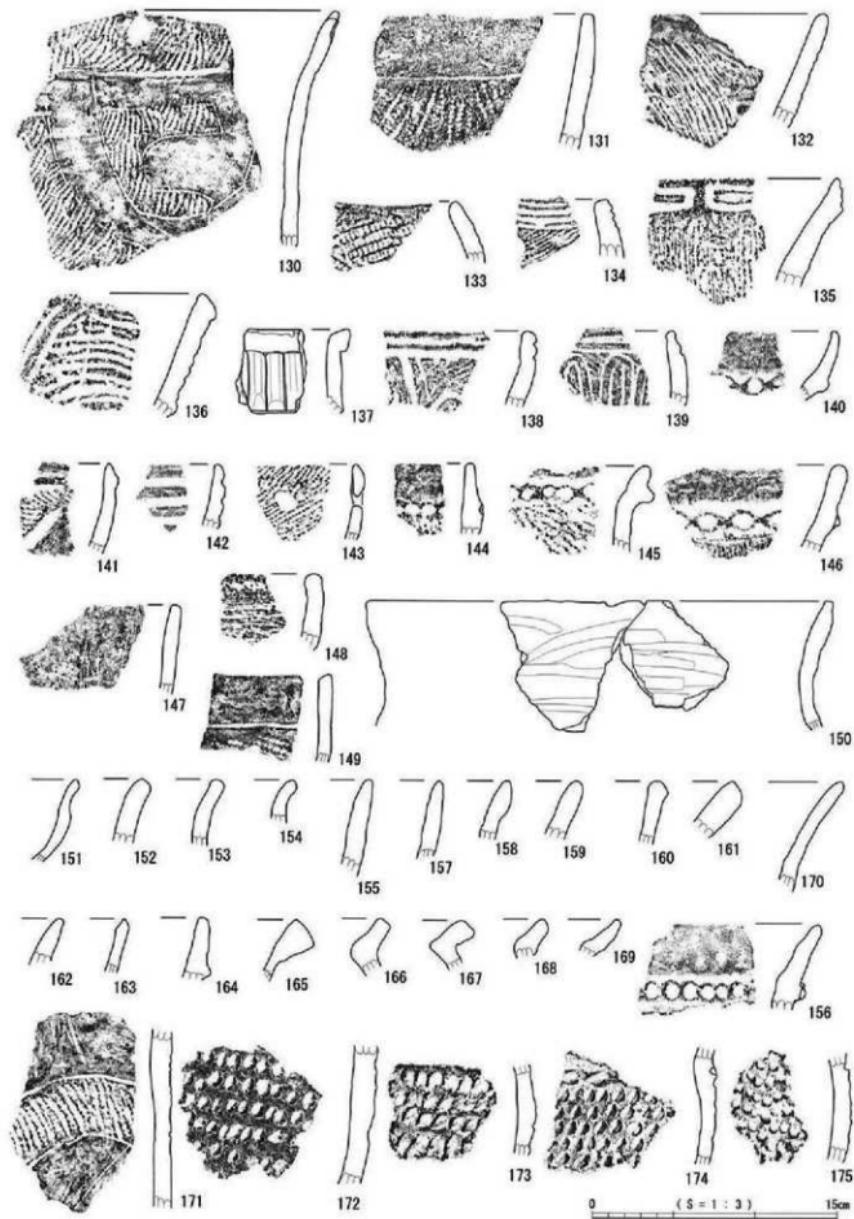


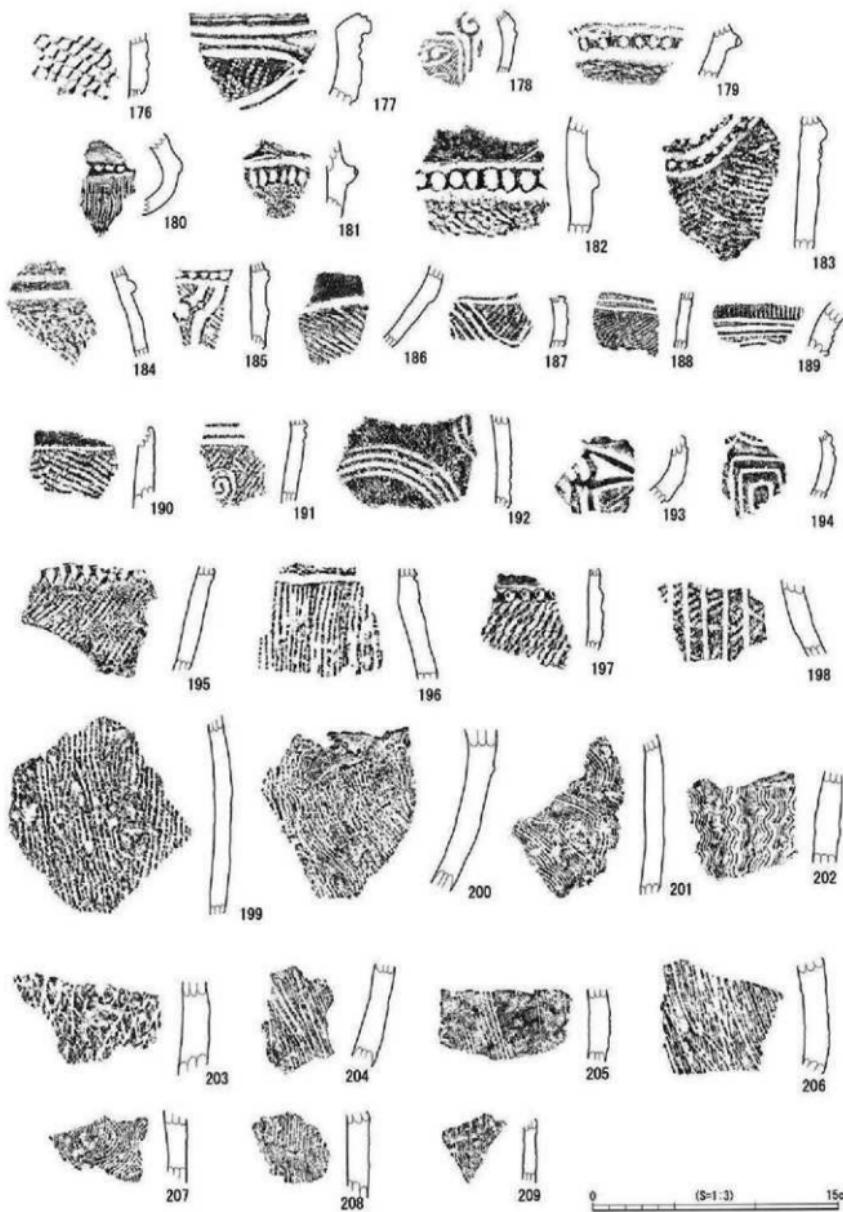
0 錢貨 (72・73・74)
(S=2・3) 5cm
0 錢貨以外
(S=1・3) 15cm

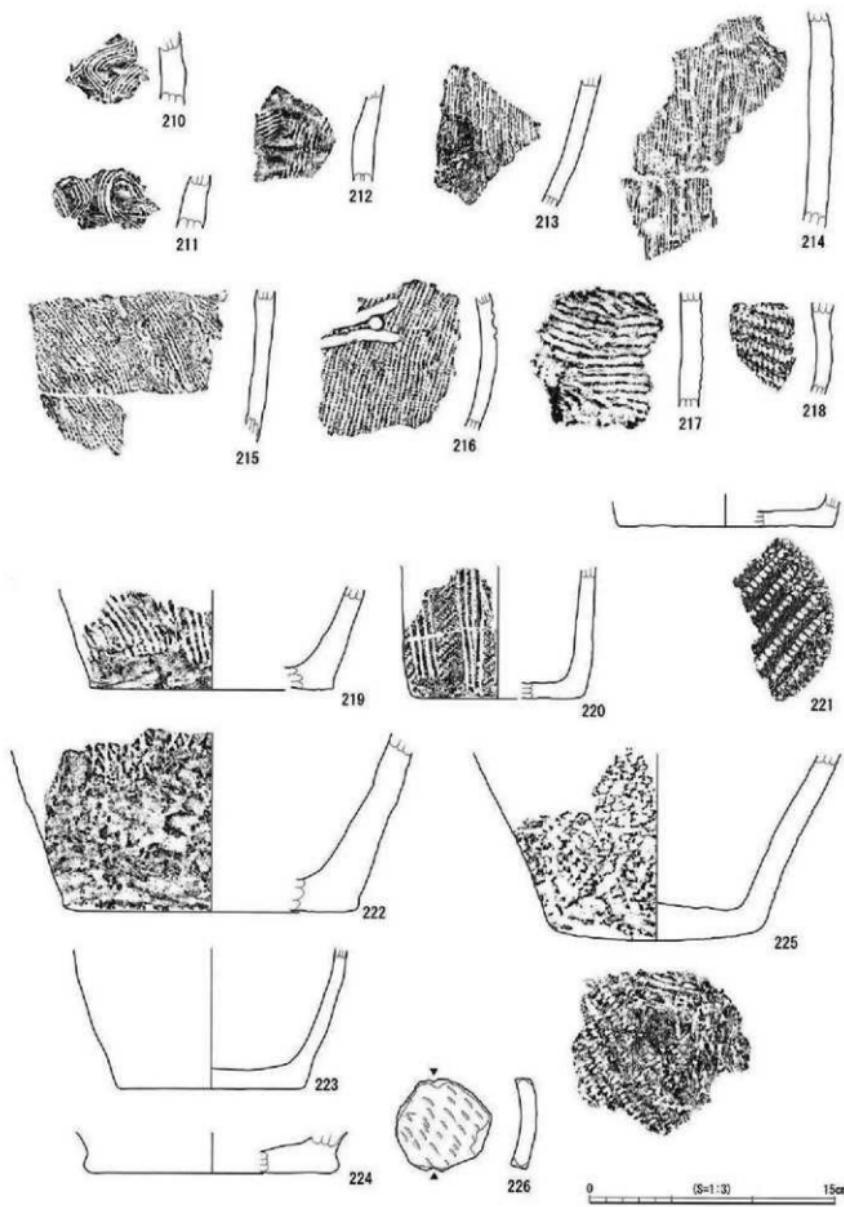


0 (S=1:3) 15cm

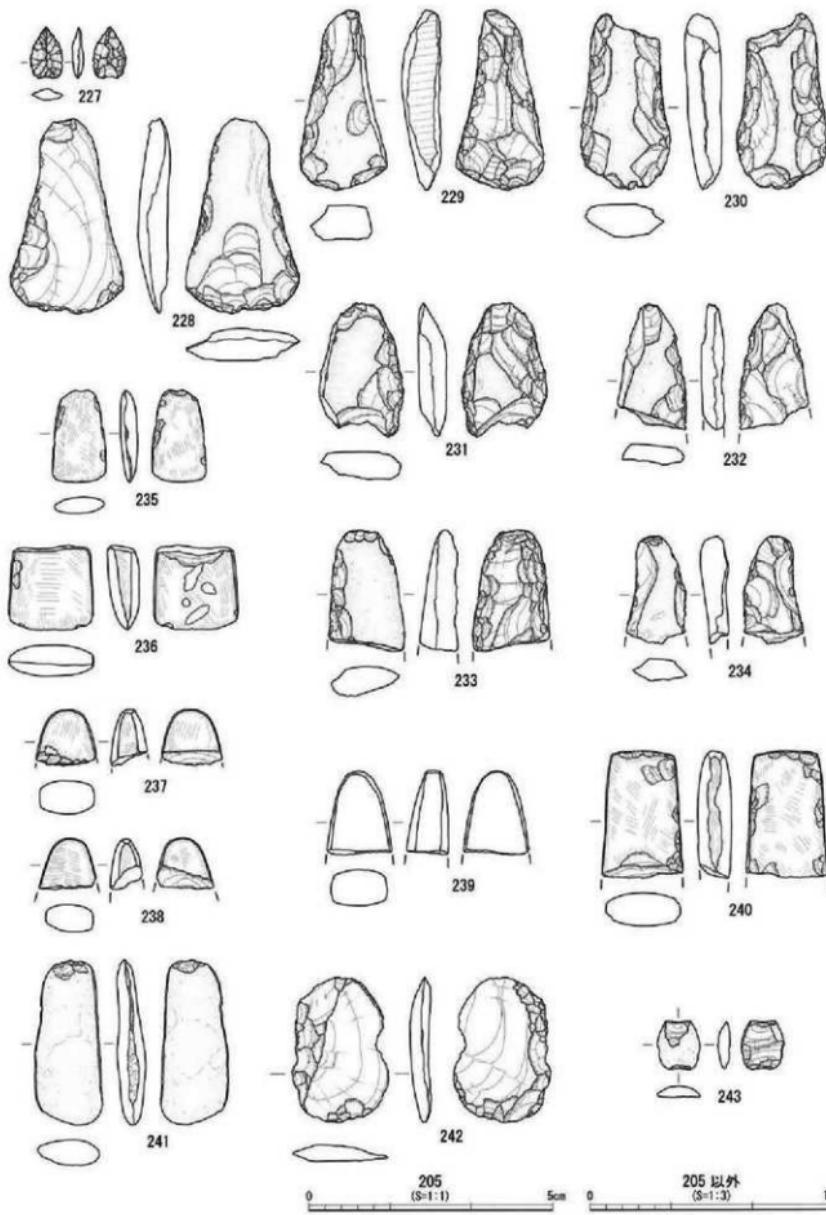


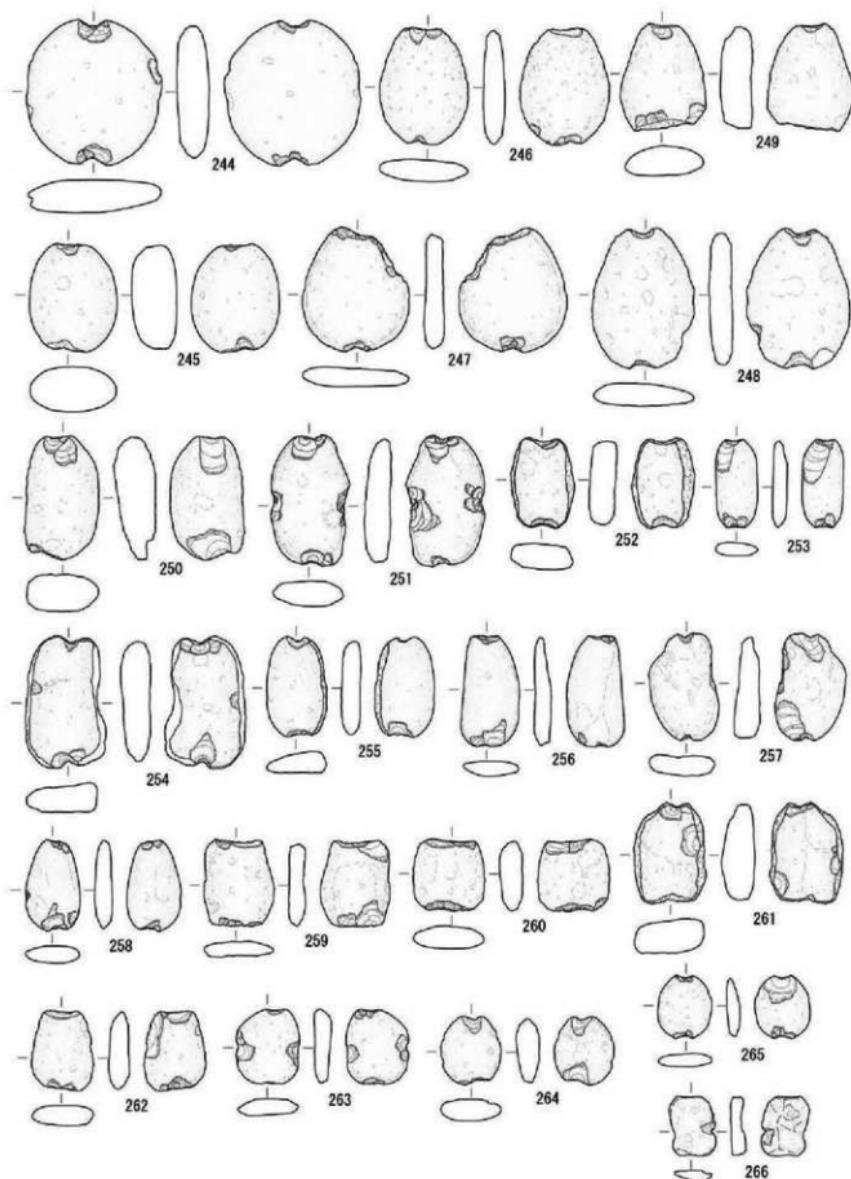






0 (S=1:3) 15cm

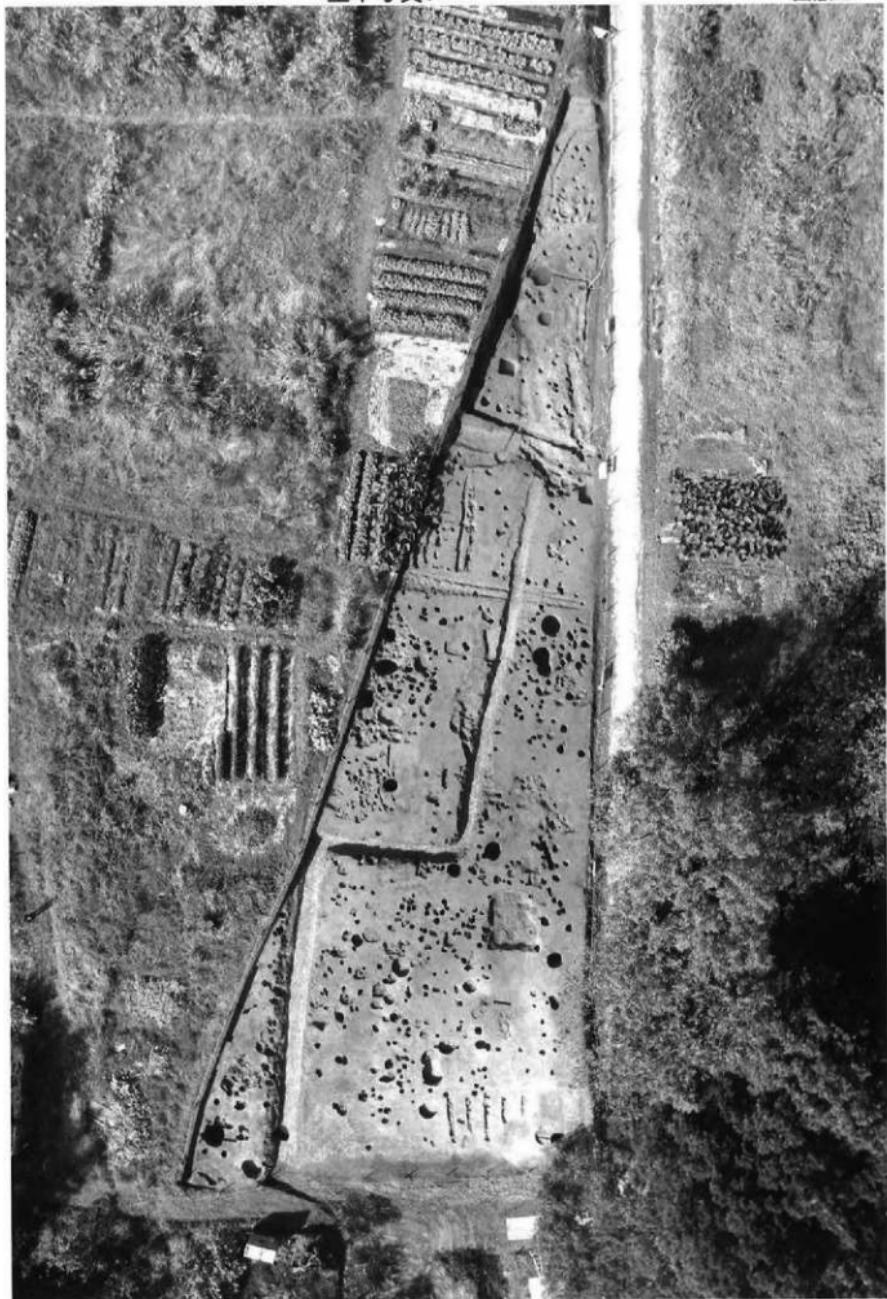




0 15cm
(S=1:3)

空中写真1

図版39



a. 遺跡全体



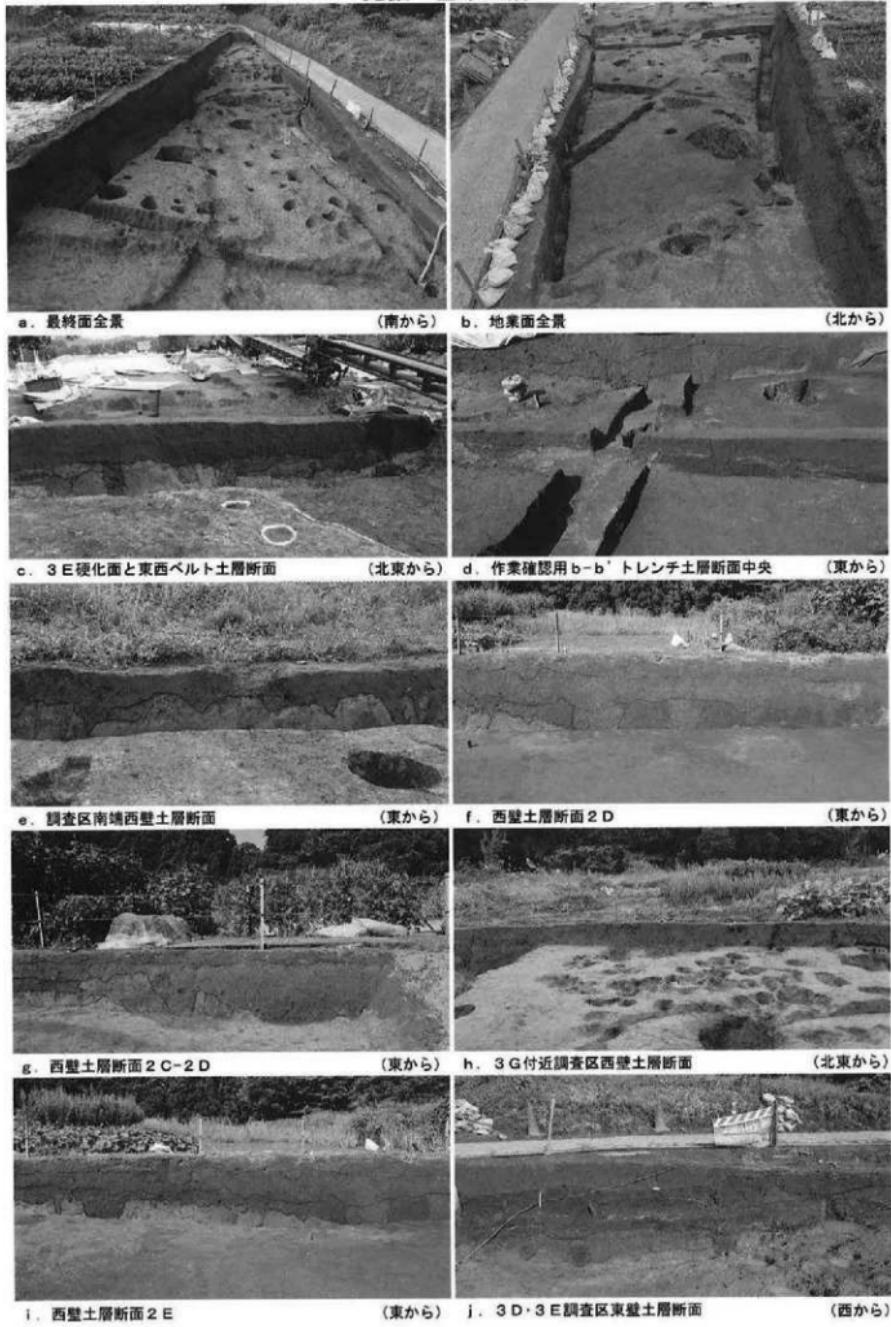
a. 遺跡俯瞰

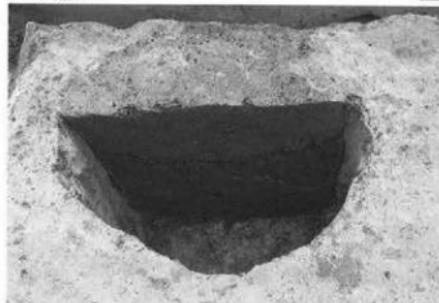
(北から)



b. 遺跡俯瞰

(南から)





a. SK-9 土層断面

(東から)



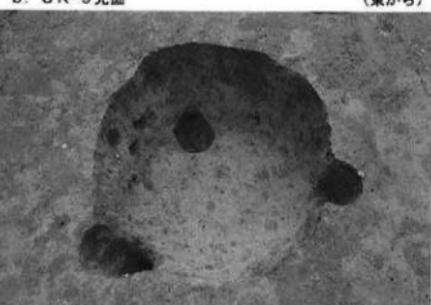
b. SK-9 完掘

(東から)



c. SK-4 9 土層断面

(南から)



d. SK-4 9 完掘

(北から)



e. SK-5 0 遺物

(東から)



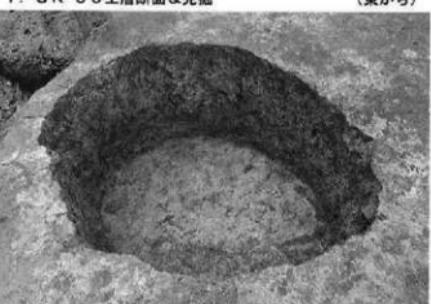
f. SK-5 0 土層断面&完掘

(東から)



g. SK-5 5 土層断面

(南から)



h. SK-5 5 完掘

(北から)

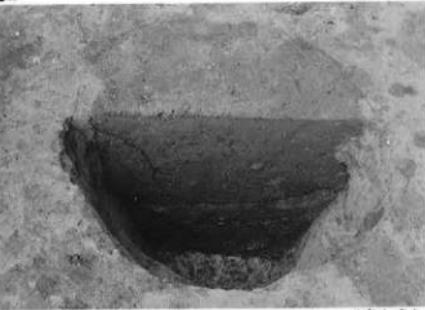
土坑2

図版43



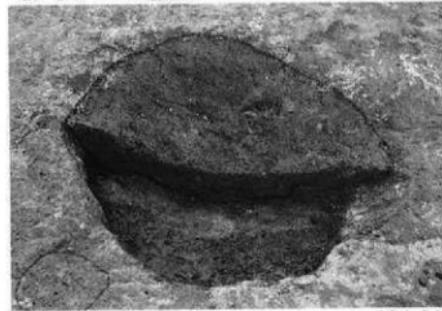
a. SK-4 7 土層断面

(東から)



b. SK-6 3 土層断面

(南から)



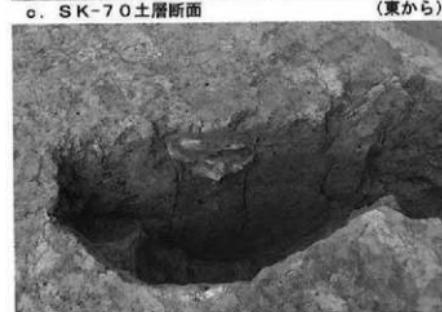
c. SK-7 0 土層断面

(東から)



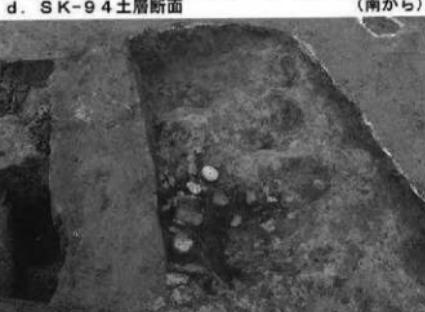
d. SK-9 4 土層断面

(南から)



e. SX-9 3 土層断面

(南から)



f. SX-1 3 遺物

(西から)



g. SX-1 3 遺物

(南から)

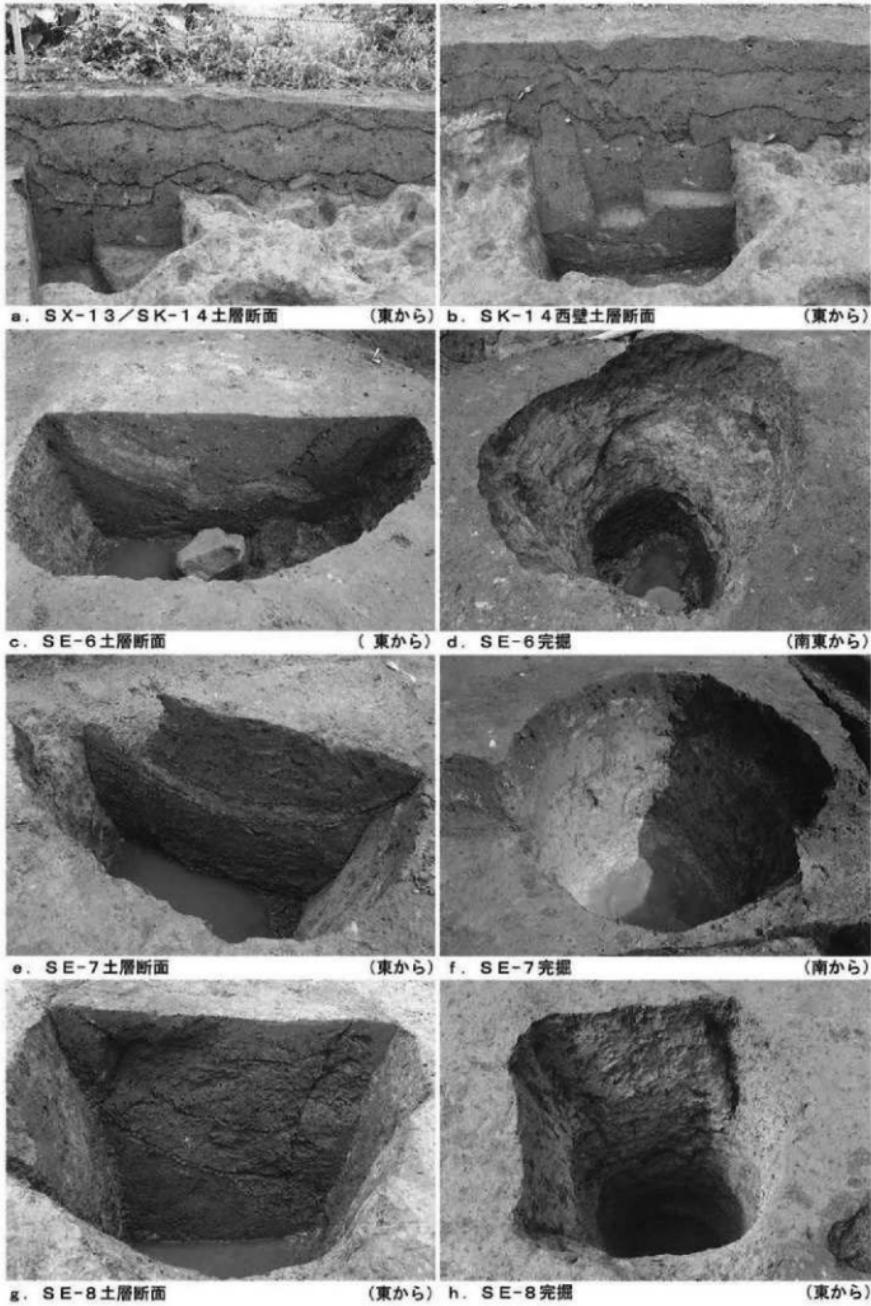


h. SX-1 3/SK-1 4 土層断面

(北から)

図版44

土坑3・井戸1





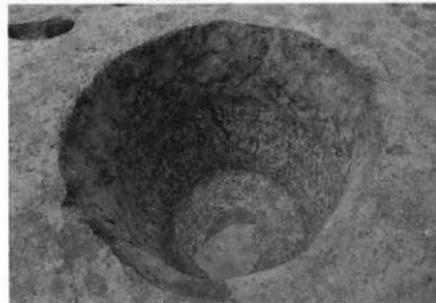
a. SE-23 土層断面

(南から)



b. SE-23 完掘

(北から)



c. SE-25 完掘

(北から)



d. SE-25 土層断面図

(南から)



e. SE-24・26 土層断面

(南から)



f. SE-24・26 完掘

(南東から)



g. SE-24・26 完掘

(南から)



h. SE-24・26 完掘

(西から)

図版46

井戸3



a. SE-6 土層断面

(南から)



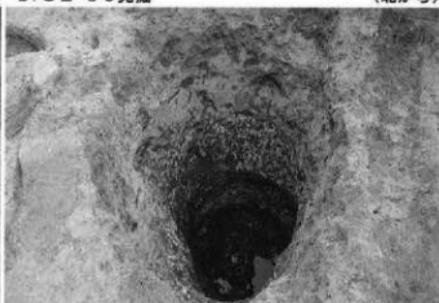
b. SE-6 完掘

(北から)



c. SE-5 1 土層断面

(東から)



d. SE-5 1 完掘

(東から)



e. SE-5 4 土層断面

(南から)



f. SE-5 4 完掘

(北から)



g. SE-6 7 土層断面

(南から)



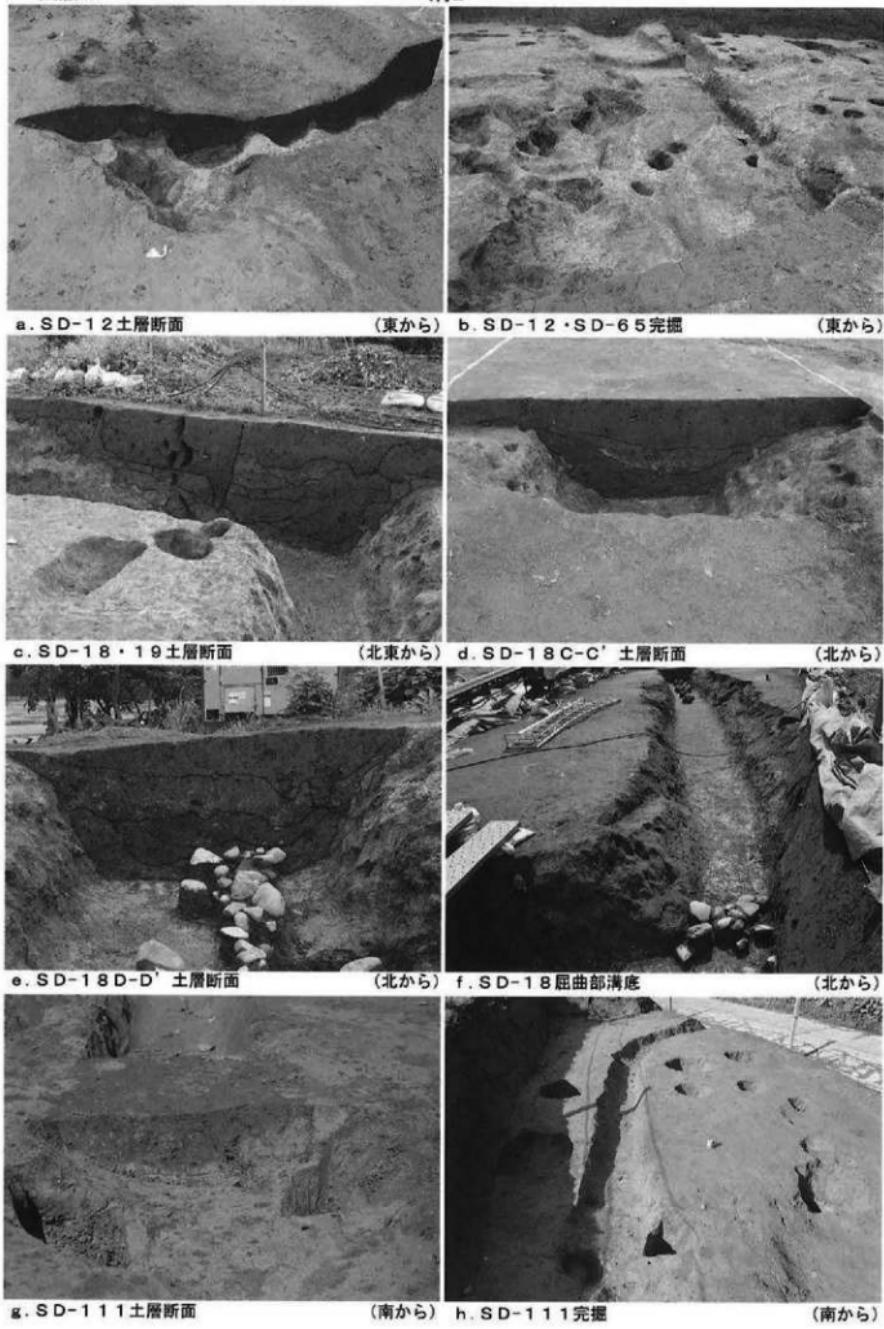
h. SE-6 7 完掘

(北から)



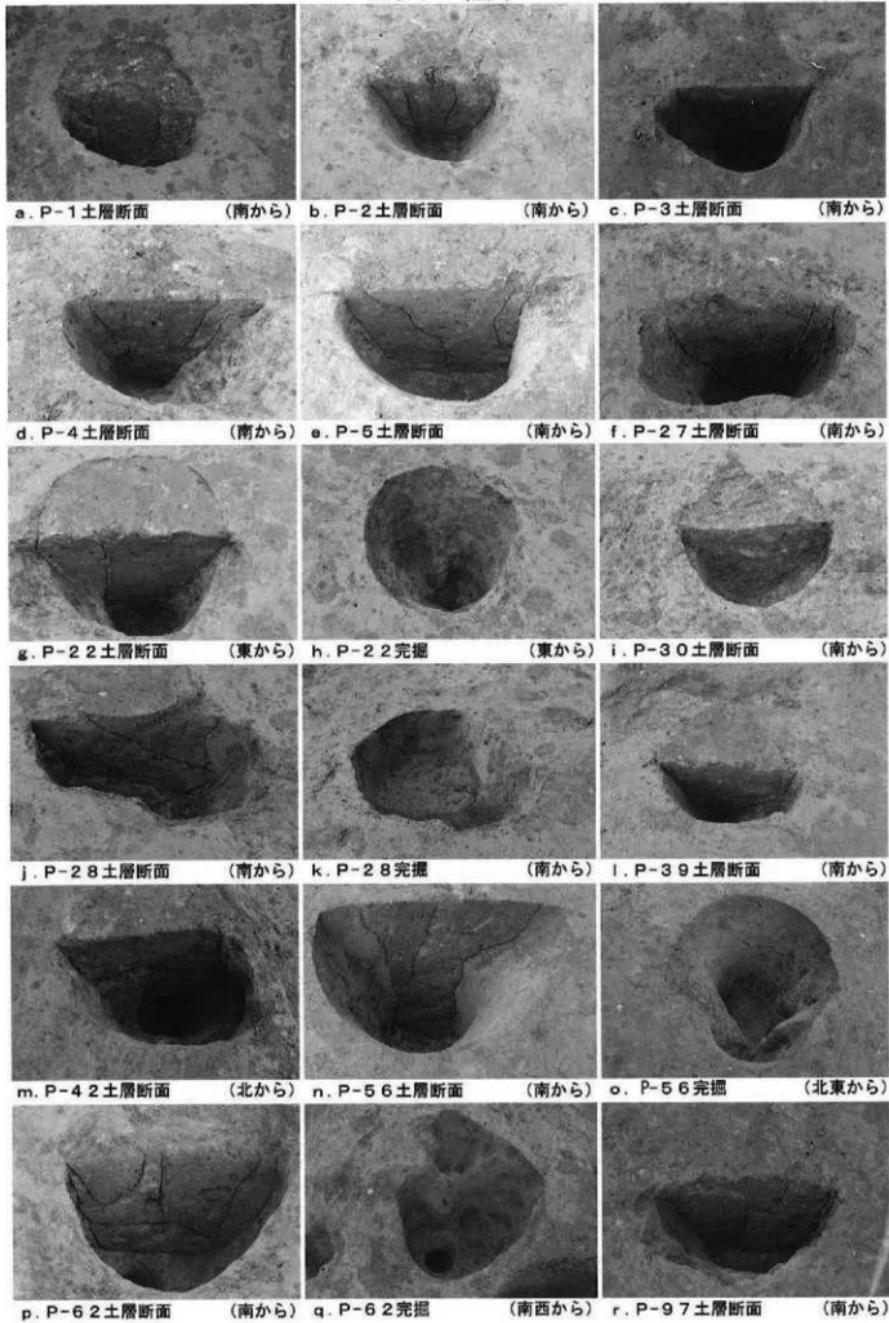
図版48

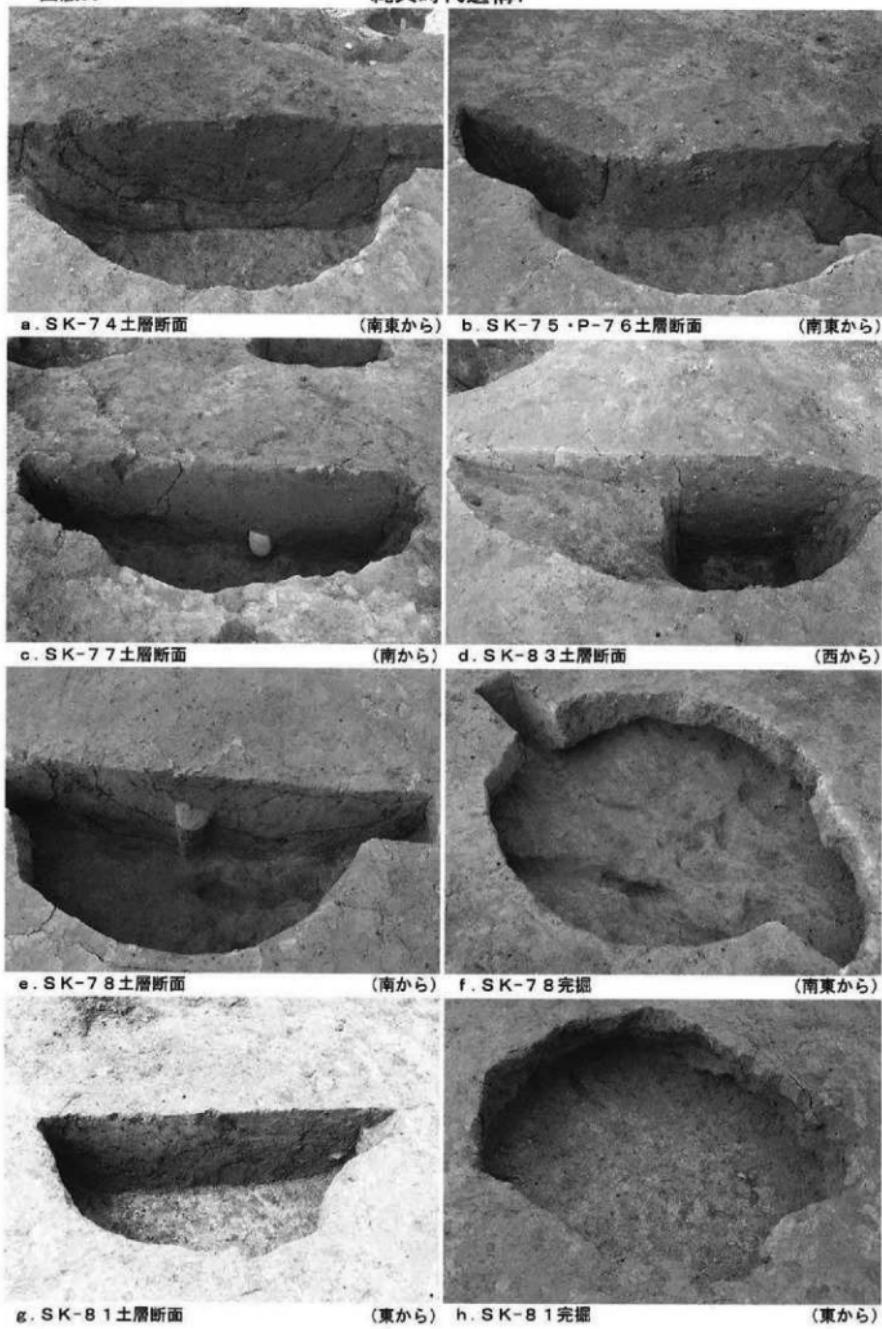
溝2

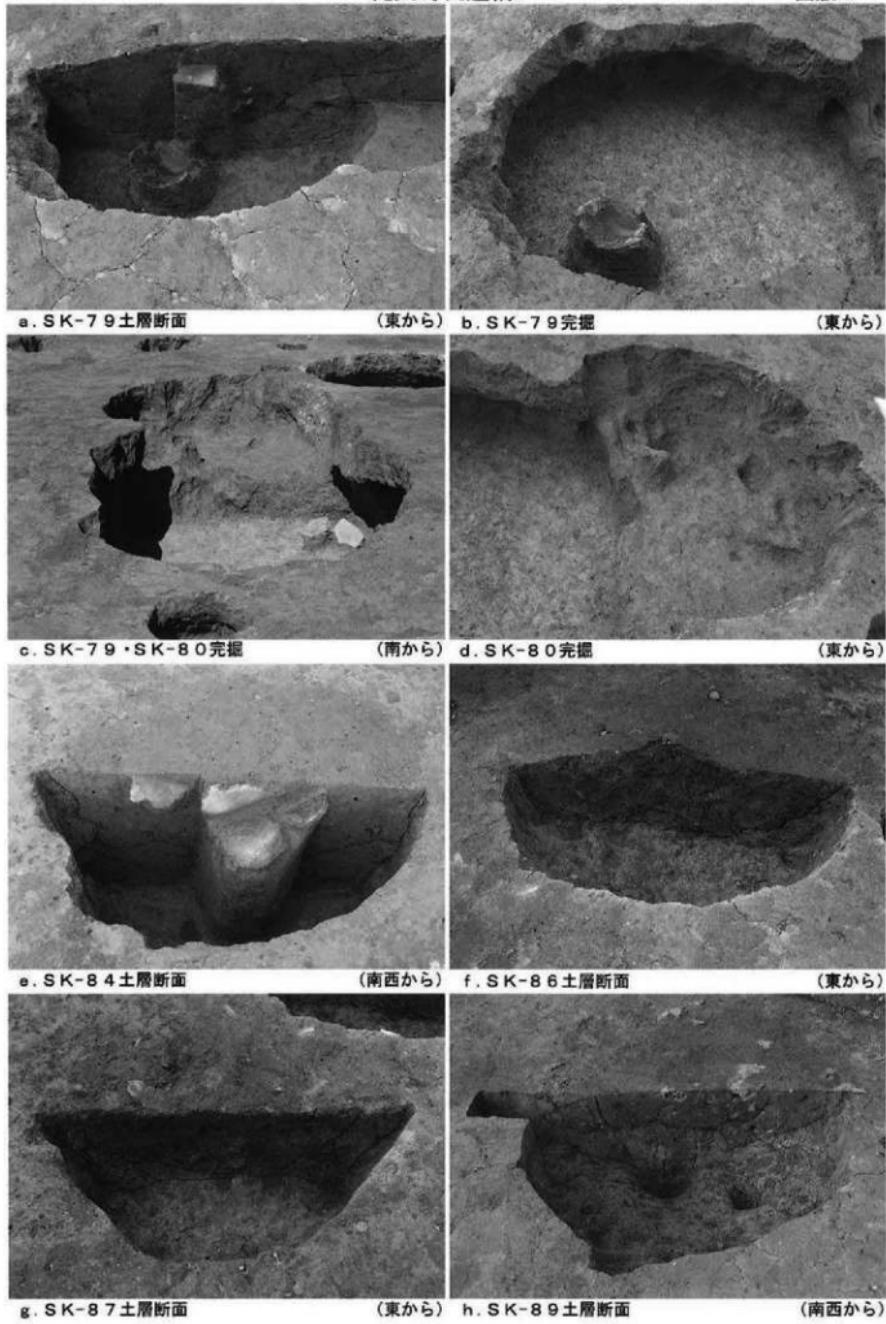


ピット・柱穴

図版49



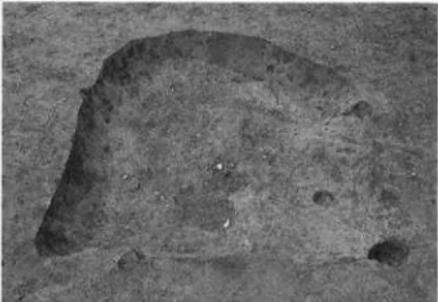






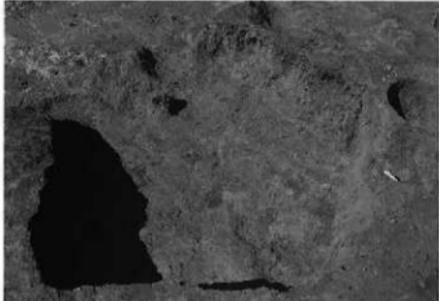
a. SX-17 土層断面

(南から)



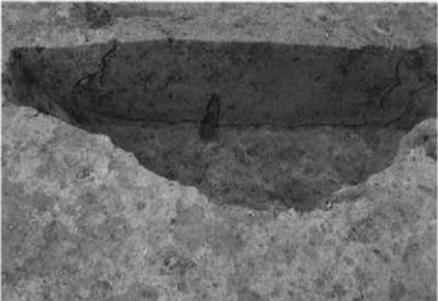
b. SX-17 完掘

(南から)



c. SK-100 遺物

(南東から)



d. SK-100 土層断面

(東から)



e. SK-96 土層断面

(東から)



f. SX-64 土層断面 & 遺物

(東から)



g. 調査前近景

(北から)

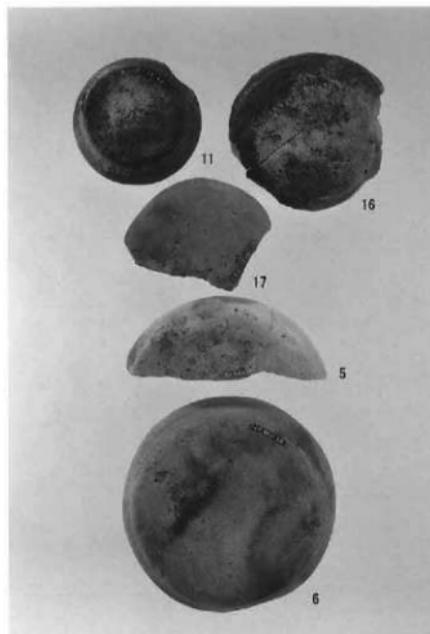
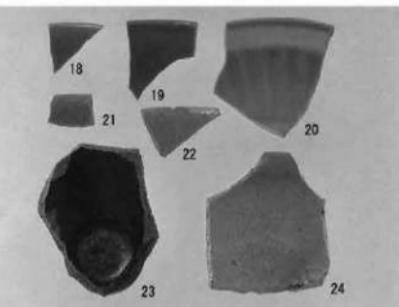
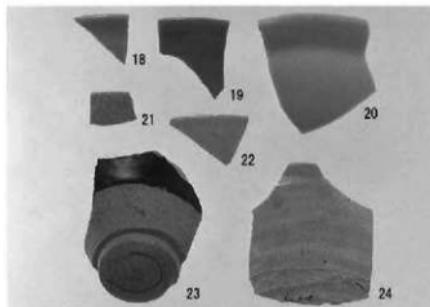
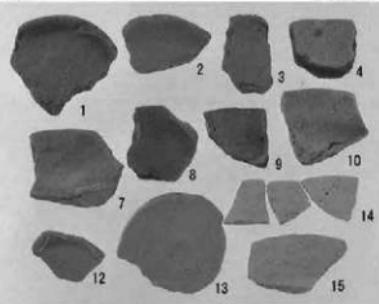
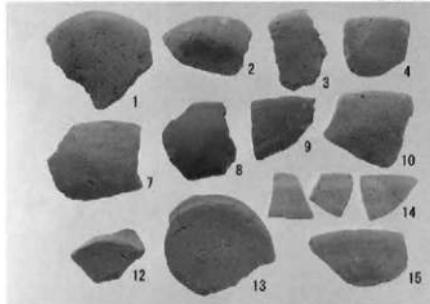


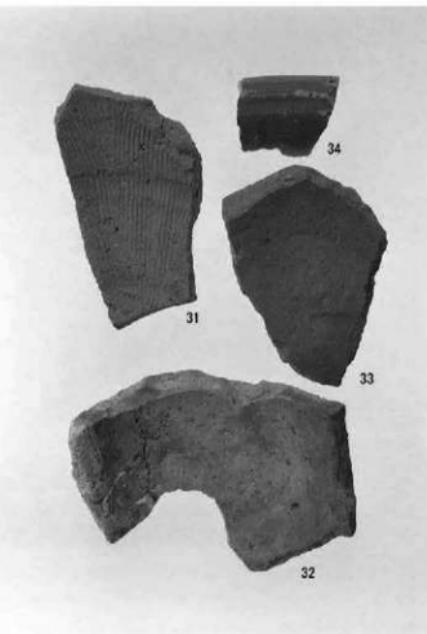
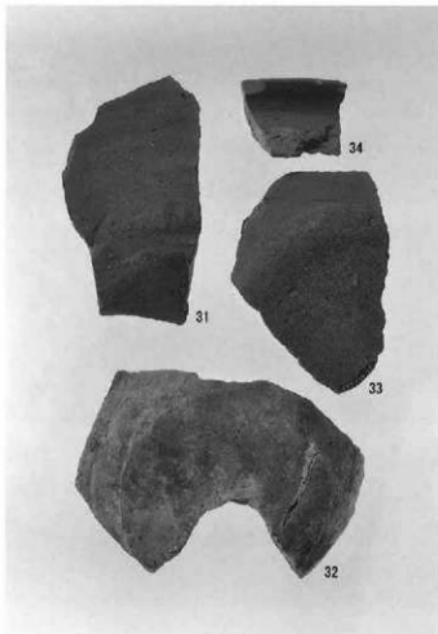
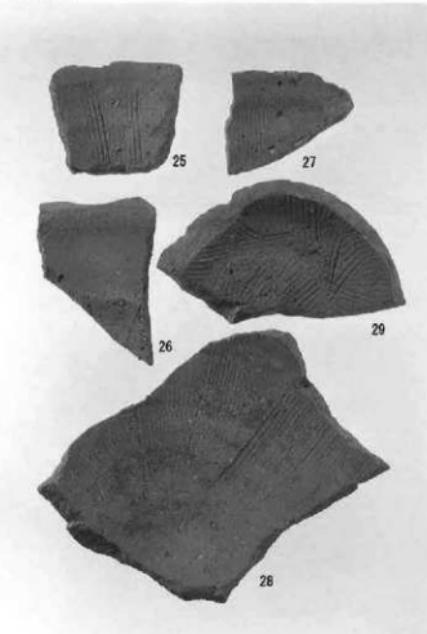
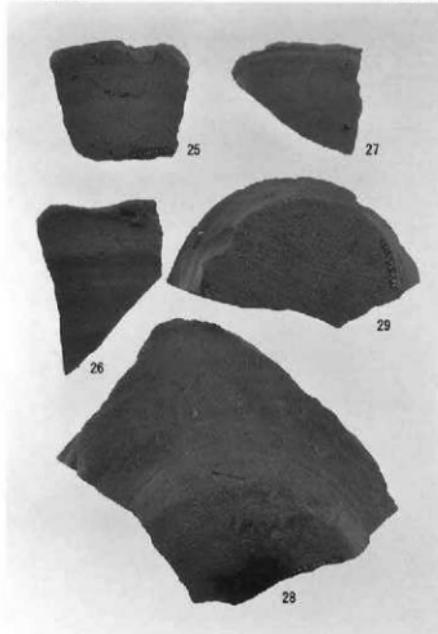
h. 遺跡俯瞰

(西から)

中世出土遺物1

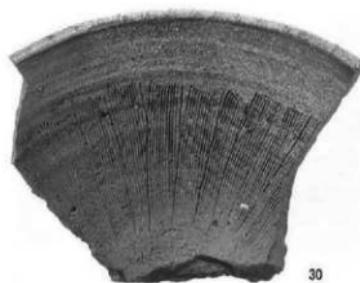
図版53



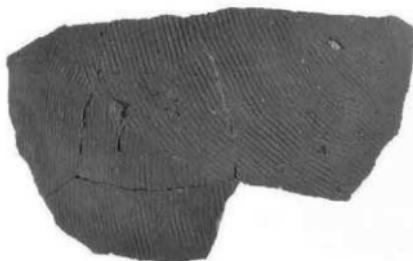
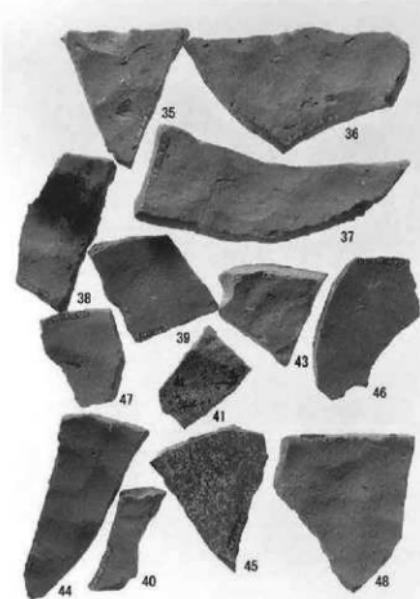
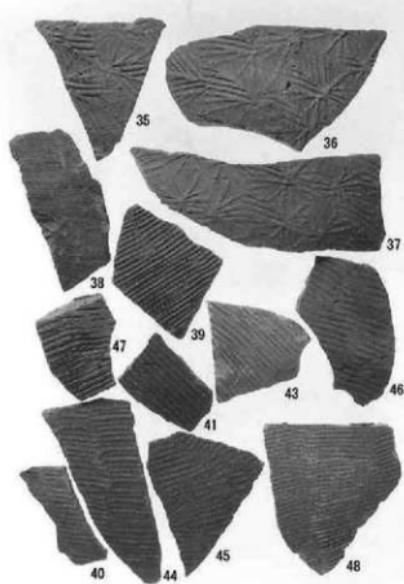




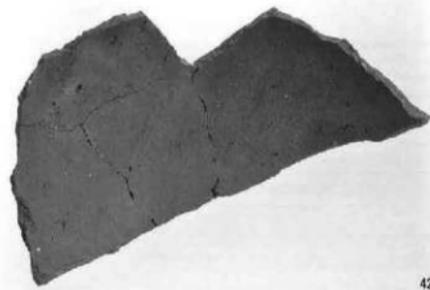
30



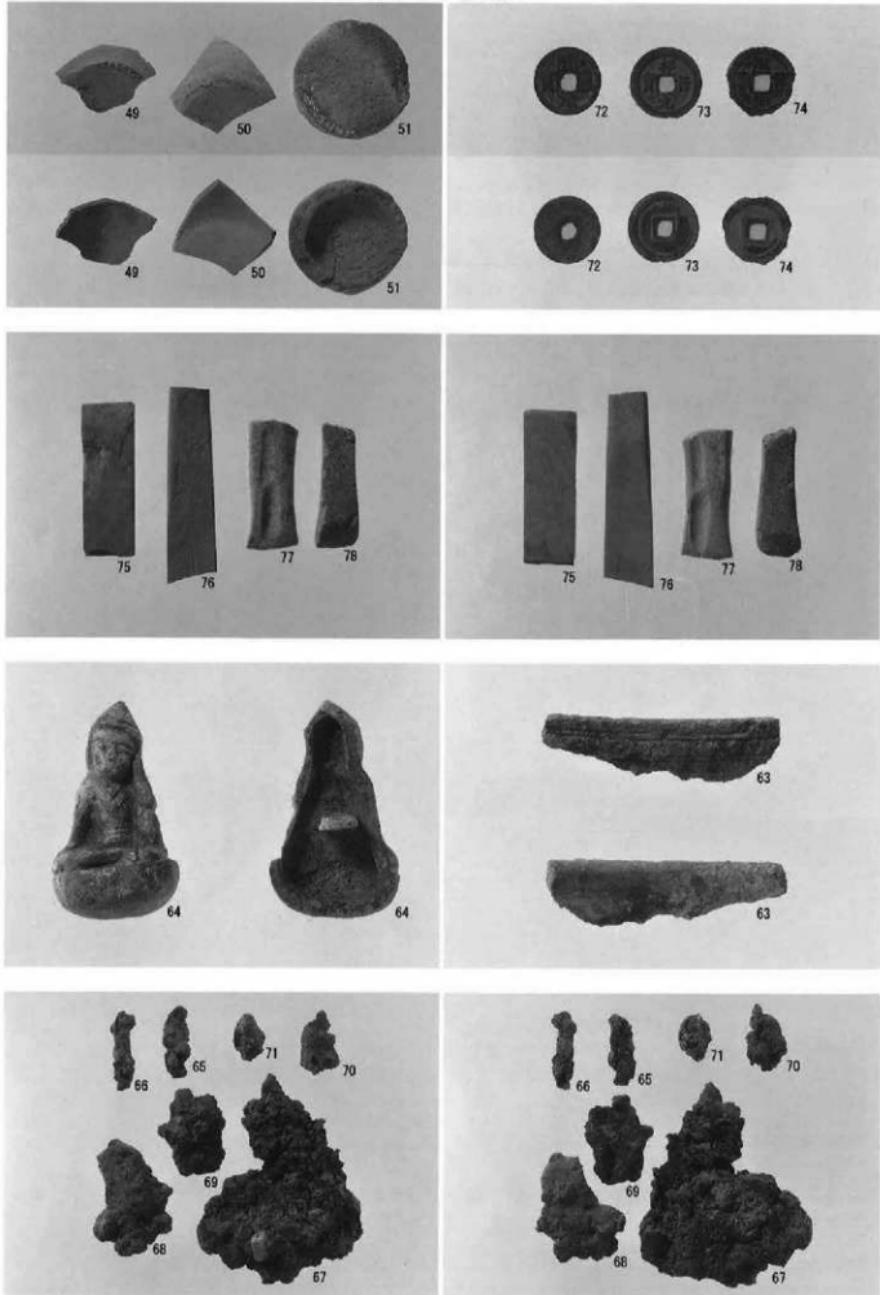
30

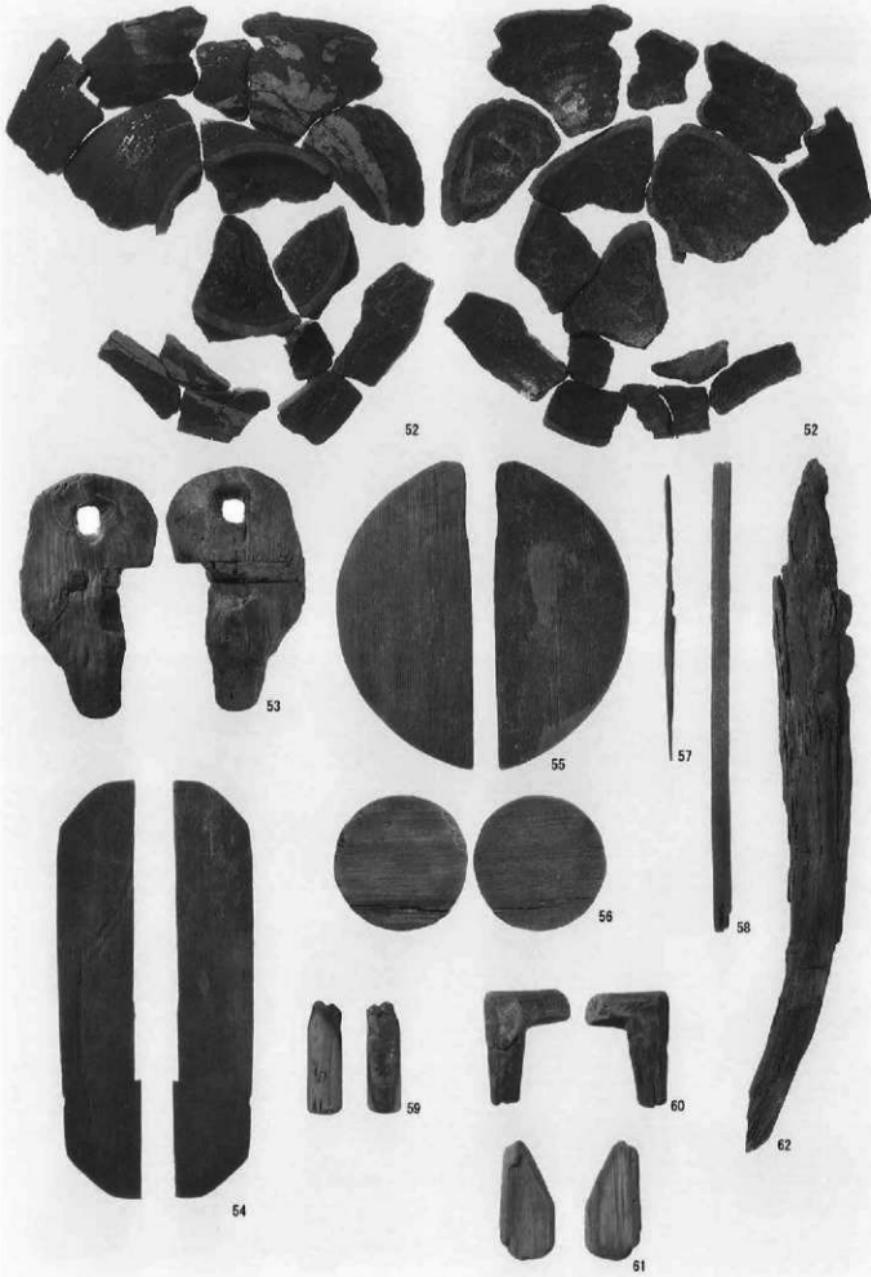


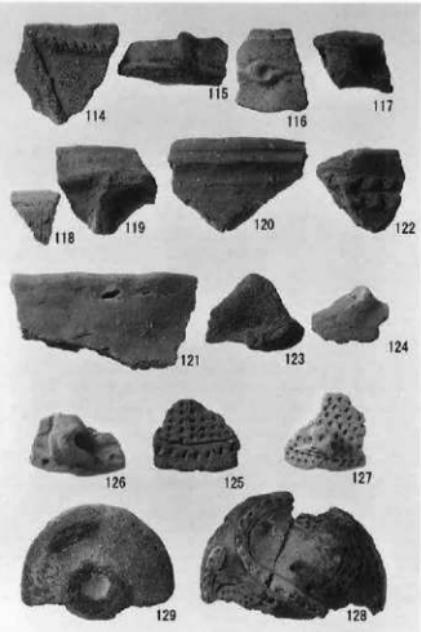
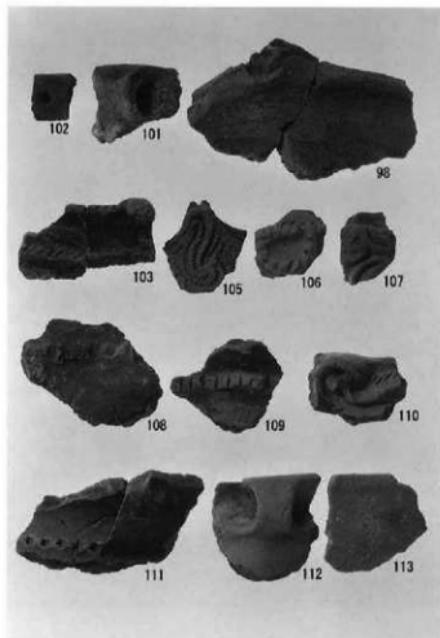
42



42

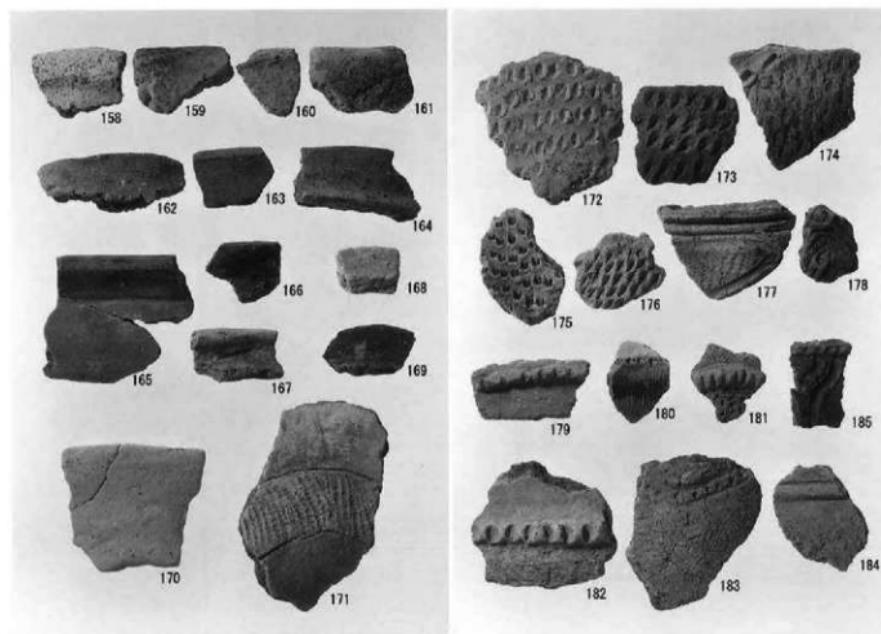
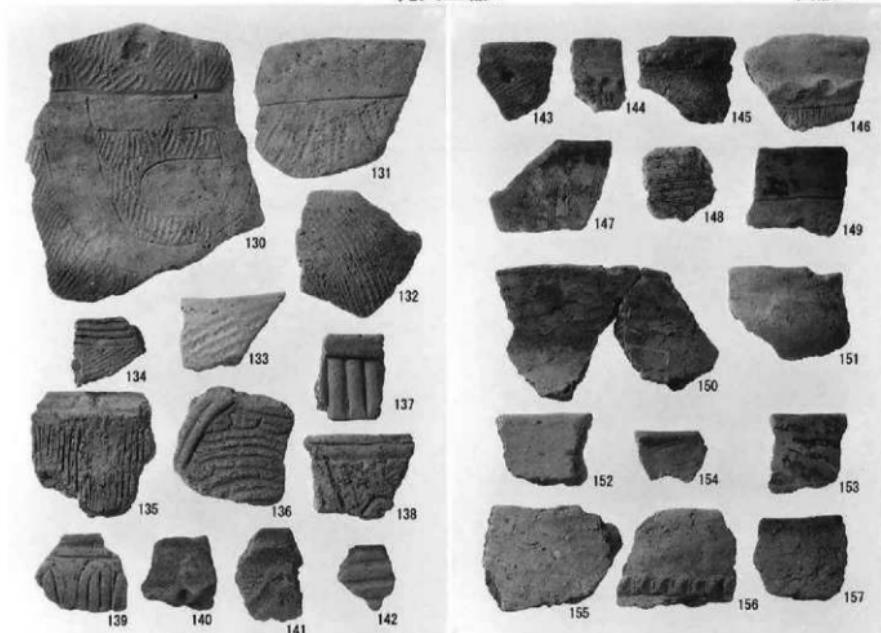


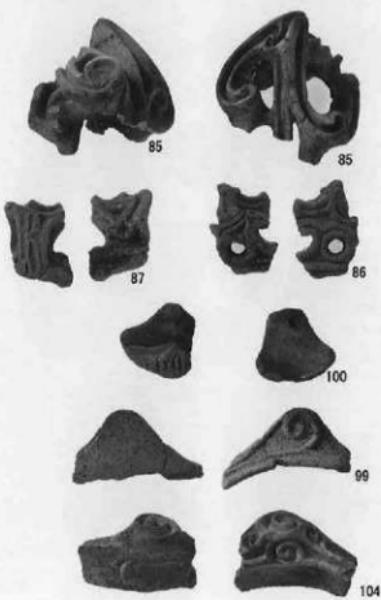
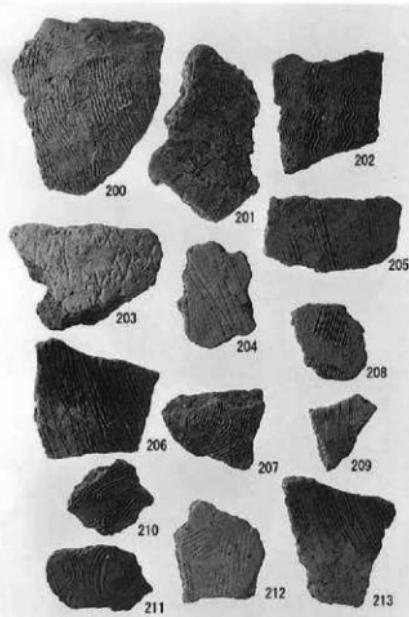
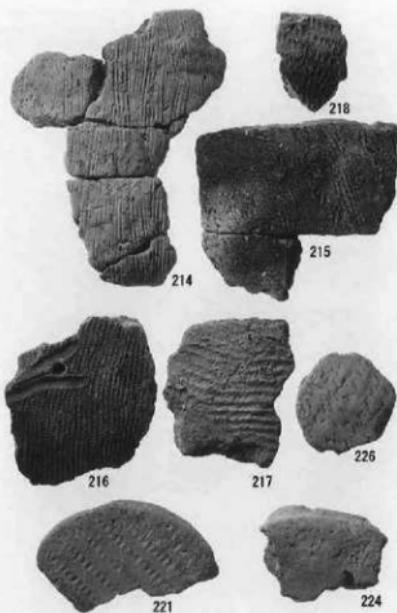


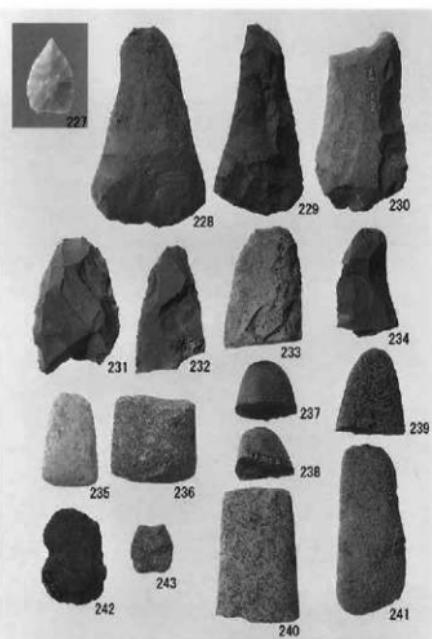
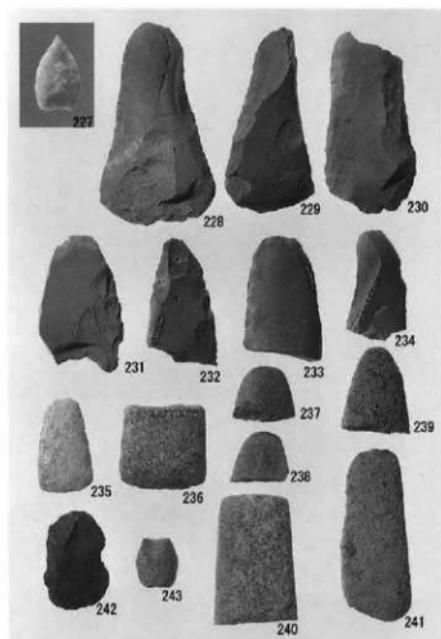
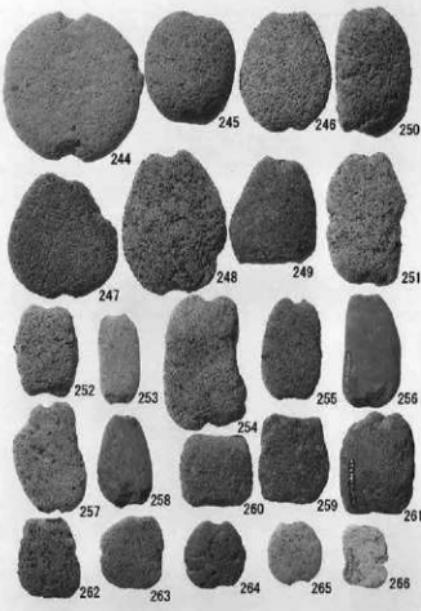
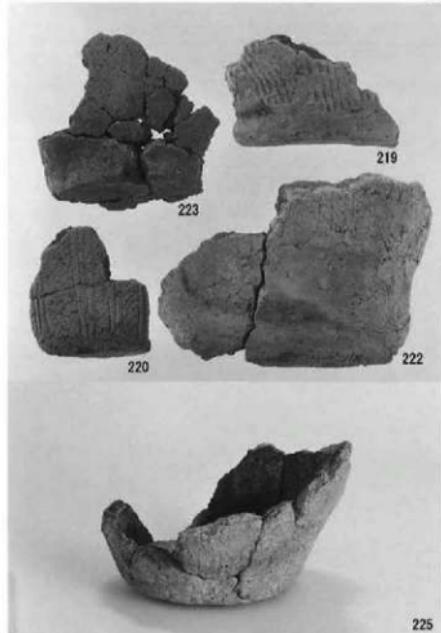


縄文土器2

図版59







報告書抄録

ふりがな	くぼた							
書名	久保田							
副書名	新潟県柏崎市 久保田遺跡発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	柏崎市埋蔵文化財調査報告書第89集							
編著者名	中島義人／継実（藤村ヒューム管株式会社本社営業部柏崎営業所埋蔵文化財調査事業部）							
編集機関	柏崎市教育委員会（博物館 埋蔵文化財係）							
発行者	柏崎市教育委員会							
所在地	〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号 TEL 0257-23-5111							
発行年月日	西暦 2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
久保田遺跡	新潟県柏崎市 大字山室 字久保田・清水 尻	市町村	遺跡番号	37度 15分 54秒	138度 38分 30秒	20140730 ～ 20141024	700	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長嶺前田遺跡	集落跡	縄文（後期）	土坑・ピット	縄文土器・石礫・打製 石斧・磨製石斧・不定 形石器・楔形石器・石 鍤		中世土器・青磁・天目 瀬戸美濃・珠洲・漆器・ 木製品・金属製品・錢 貨・石製品		
	集落跡	中世	井戸・土坑・溝・ピッ ト・掘立柱建物・柵					
要約	遺跡は鱗石川中流域右岸の段丘平坦面上に立地する。市道改良工事に伴い約700 m ² で発掘調査を行った。縄文時代と中世の複合遺跡である。 縄文時代は後期前葉を中心とし、三十稻葉式と南三十稻葉式の土器が多く出土した。遺構はフ ラスコ状のものを含む土坑が見つかっているが、住居は確認できない。 中世は、13世紀から15世紀の遺物が主に出土した。遺構には井戸、土坑、溝、ピット等があ る。							

※緯度・経度は世界測地系に基づく。

柏崎市埋蔵文化財調査報告書第89集

久保田

—新潟県柏崎市 久保田遺跡発掘調査報告書—

平成29年3月15日 印刷

平成29年3月31日 発行

発行 柏崎市教育委員会

〒945-8511 新潟県柏崎市中央町5番50号

印刷 株式会社 小田

〒945-1352 新潟県柏崎市安田4153-1